

自動車運送事業に係る交通事故対策検討会報告書(令和2年度)

[第1分冊]

事業用自動車の交通事故統計(令和元年版)

令和3年2月

国土交通省自動車局

自動車運送事業に係る交通事故対策検討会

< 目 次 >

1. 事故全体の傾向	1
1-1. 交通事故全体の推移	1
1-2. 自動車事故件数の推移	4
1-3. 自動車事故死者数の推移	8
1-4. 自動車死亡事故件数の推移	12
1-5. 飲酒運転による事業用自動車の交通事故の推移	16
1-6. 業態別運転者年齢層別の交通事故	18
1-7. 業態別危険認知速度別の交通事故	20
1-8. 業態別時間帯別の交通事故	22
1-9. 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故	24
2. バスの事故	26
2-1. 乗合バスの事故	28
2-2. 貸切バスの事故	44
3. タクシーの事故	56
4. トラックの事故	68
5. まとめ	88
附録. 事業用自動車の交通事故統計（令和元年版）	

【凡 例】

1. 「交通事故」とは、道路交通法第2条第1項第1号に規定する道路において、車両等及び列車の事故によって起こされた事故で、人の死亡又は負傷を伴うもの（人身事故）をいう。物損事故については計上していない。
2. 「自動車事故」とは、交通事故のうち、自動車及び軽自動車の交通によって起された事故をいう。
3. 「自動車事故」は、「事業用自動車」の事故と、「自家用自動車」の事故に分けられる。うち、「自家用自動車」とは、乗用車（バス、マイクロ、普通乗用車、軽乗用車）及び、貨物車（大型貨物、中型貨物、準中型貨物、普通貨物、軽貨物、トレーラー）を合わせたものをいう。
4. 「死亡」（「死者」）とは、交通事故によって、発生から24時間以内に亡くなった場合（人）をいう。
5. 「重傷」（「重傷者」）とは、交通事故によって負傷し、1ヶ月（30日）以上の治療を要する場合（人）をいう。
6. 「軽傷」（「軽傷者」）とは、交通事故によって負傷し、1ヶ月（30日）未満の治療を要する場合（人）をいう。
7. 「負傷」（「負傷者」）とは、「重傷」（「重傷者」）と「軽傷」（「軽傷者」）の合計をいう。
8. 「貨物自動車」の分類は道路交通法に基づくものとする。
 - 大型　：車両総重量11トン以上、または最大積載量6.5トン以上
 - 中型　：車両総重量7.5トン以上11トン未満、または最大積載量4.5トン以上6.5トン未満
 - 準中型：車両総重量3.5トン以上7.5トン未満、または最大積載量2トン以上4.5トン未満
 - 普通　：車両総重量3.5トン未満、または最大積載量2トン未満
 - 軽　　：貨物自動車のうち、軽自動車であるもの

1. 事故全体の傾向

1-1. 交通事故全体の推移

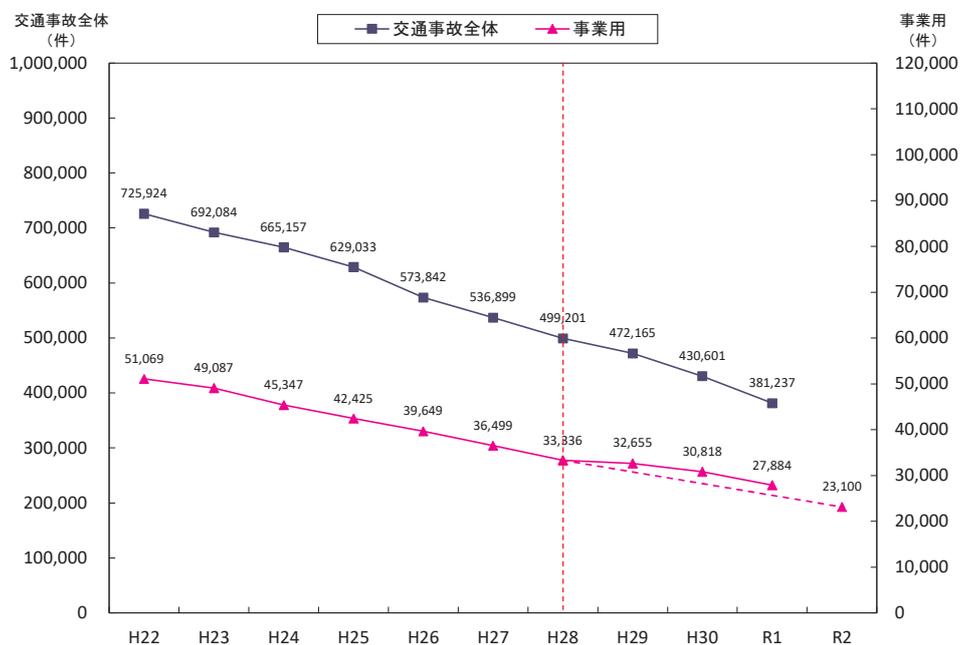
自動車に加え、二輪車や自転車等を含む「交通事故全体」と、「事業用自動車」の交通事故の推移を、「交通事故件数」、「交通事故死者数」、「交通死亡事故件数」の3つで比較した。

(1) 交通事故件数の推移

令和元年中に全国で発生した交通事故全体の件数は381,237件であり、そのうち、事業用自動車は27,884件であった。

なお、事業用自動車については、「事業用自動車総合安全プラン2020（平成29年6月）」において、平成32年（令和2年）までに人身事故件数を23,100件以下とする削減目標が示されている。

〔図1〕 交通事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表1〕 交通事故件数の推移 (件)

年	交通事故件数	
	交通事故全体	事業用
H22	725,924	51,069
H23	692,084	49,087
H24	665,157	45,347
H25	629,033	42,425
H26	573,842	39,649
H27	536,899	36,499
H28	499,201	33,336
H29	472,165	32,655
H30	430,601	30,818
R1	381,237	27,884

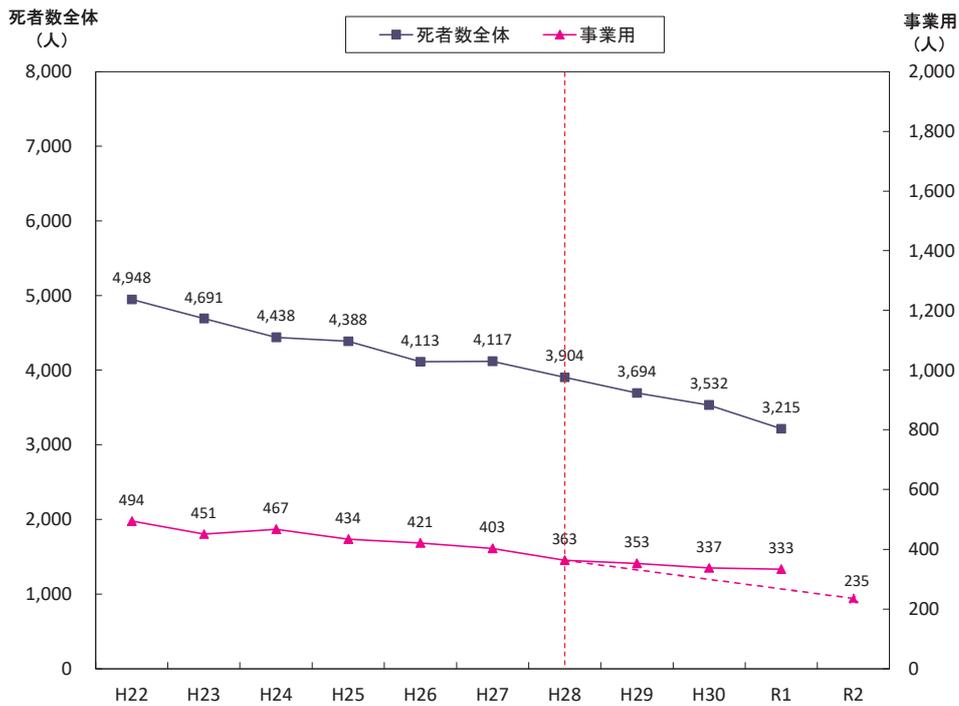
出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 交通事故死者数の推移

令和元年中に全国で発生した交通事故全体における死者数は3,215人であり、そのうち、事業用自動車での交通事故死者数は333人となっている。

なお、事業用自動車については、「事業用自動車総合安全プラン2020」において、平成32年（令和2年）までに事業用自動車での死者数を235人以下とする削減目標が示されている。

〔図2〕 交通事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表2〕 交通事故死者数の推移 (人)

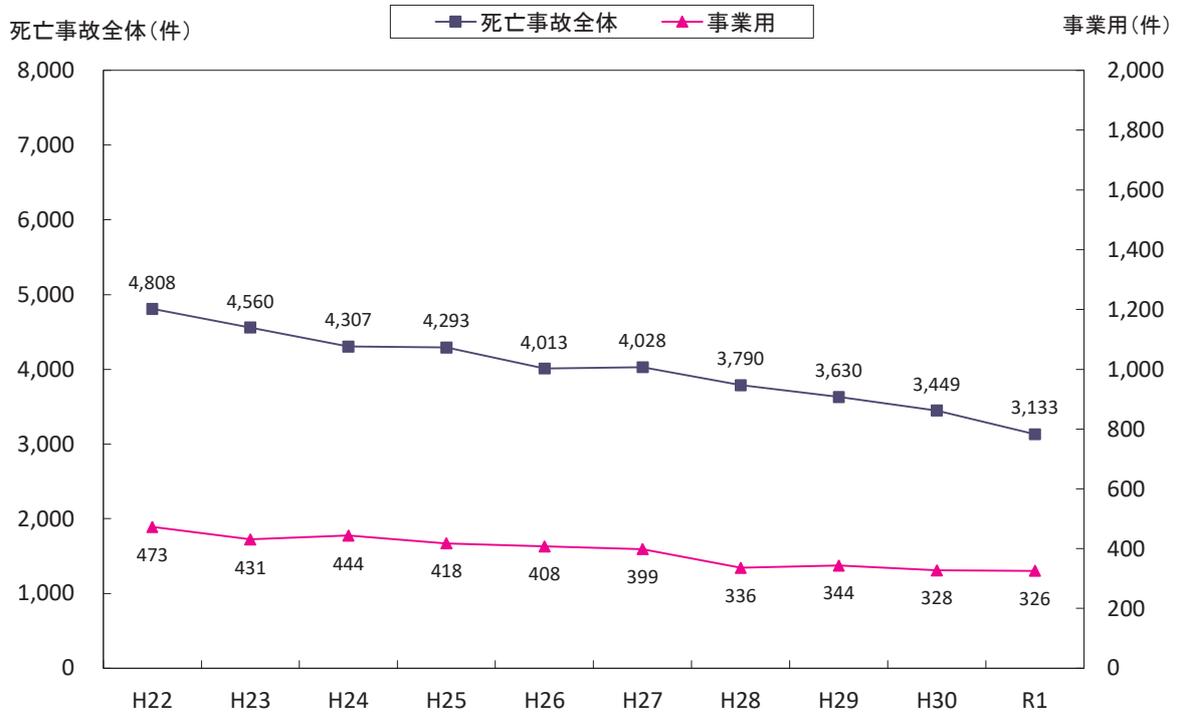
年	区分	死者数	
		死者数全体	事業用
H22		4,948	494
H23		4,691	451
H24		4,438	467
H25		4,388	434
H26		4,113	421
H27		4,117	403
H28		3,904	363
H29		3,694	353
H30		3,532	337
R1		3,215	333

出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 交通死亡事故件数の推移

令和元年中に全国で発生した交通死亡事故全体の件数は3,133件であり、前年と比べて316件減少している。そのうち、事業用自動車は326件となっており前年と同程度である。

〔図3〕 交通死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表3〕 交通死亡事故件数の推移 (件)

年	区分	死亡事故件数	
		死亡事故全体	事業用
H22		4,808	473
H23		4,560	431
H24		4,307	444
H25		4,293	418
H26		4,013	408
H27		4,028	399
H28		3,790	336
H29		3,630	344
H30		3,449	328
R1		3,133	326

出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

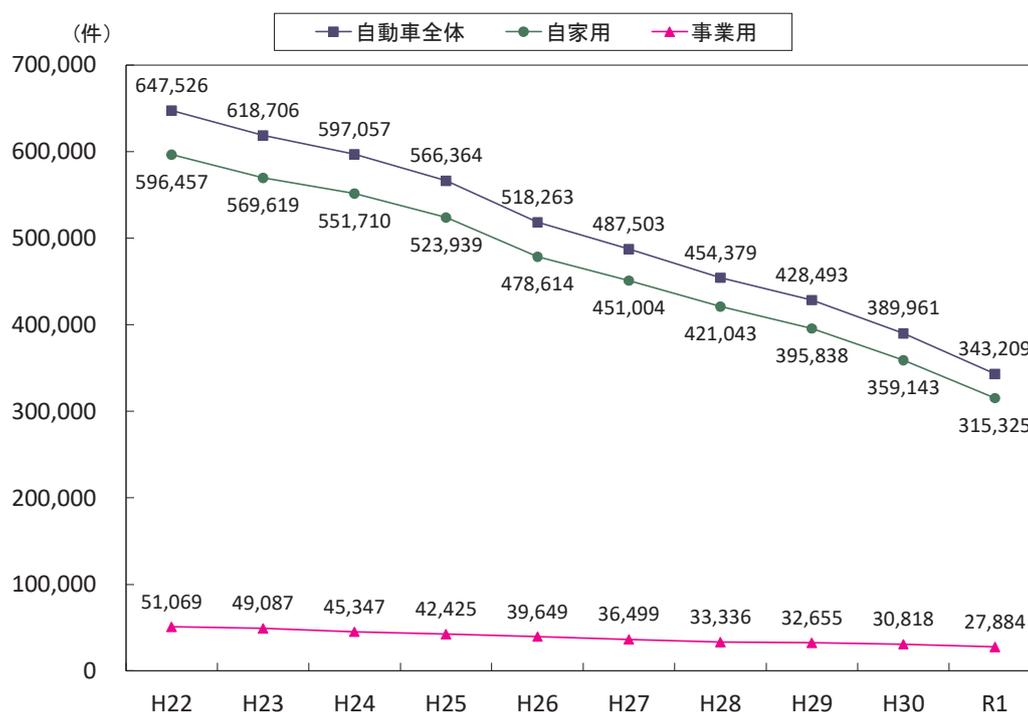
1-2. 自動車事故件数の推移

「事業用自動車」「自家用自動車（自家用のバス、乗用車及びトラックをいう。以下同じ）」及び「自動車全体（事業用自動車と自家用自動車を合わせたものをいう。以下同じ）」について、「交通事故件数」「交通事故死亡者数」「交通死亡事故件数」の3つを比較した。

(1) 自動車事故件数の推移

令和元年中に全国で発生した自動車全体の交通事故件数は343,209件であり、そのうち、自家用自動車は315,325件、事業用自動車は27,884件となっている。

〔図4〕 自動車事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表4〕 自動車事故件数の推移 (件)

年	自動車全体	自家用	事業用
H22	647,526	596,457	51,069
H23	618,706	569,619	49,087
H24	597,057	551,710	45,347
H25	566,364	523,939	42,425
H26	518,263	478,614	39,649
H27	487,503	451,004	36,499
H28	454,379	421,043	33,336
H29	428,493	395,838	32,655
H30	389,961	359,143	30,818
R1	343,209	315,325	27,884

出典：警察庁「交通統計」

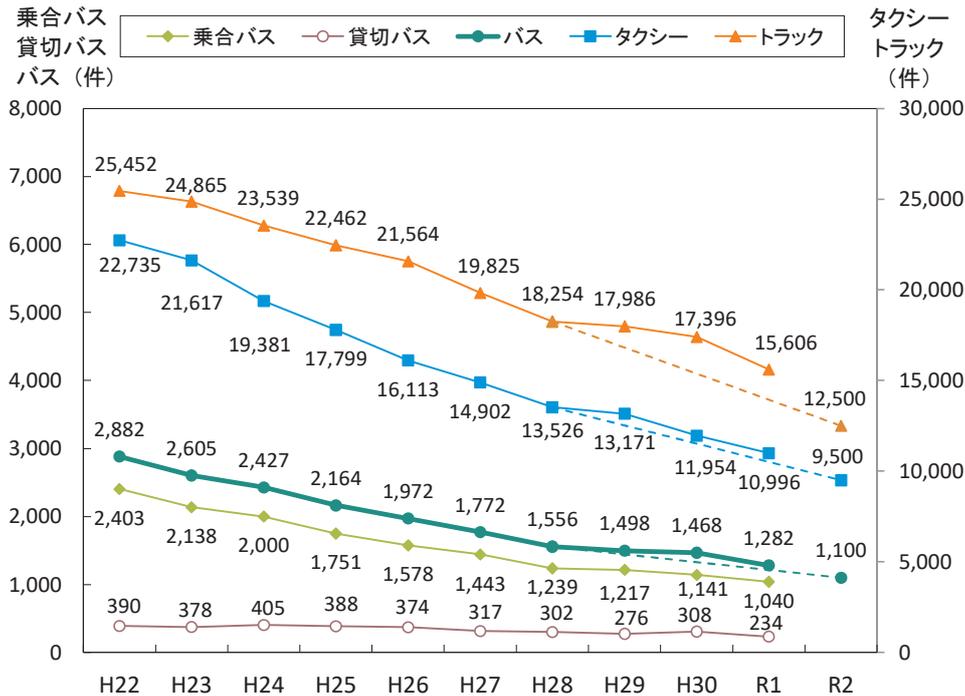
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事業用自動車の業態別交通事故件数の推移

事業用自動車の交通事故件数を業態別にみると、令和元年は、バス、タクシー、トラックいずれも減少し、貸切バスは約24%減少している。

なお、事業用自動車については、「事業用自動車総合安全プラン2020」において、平成32年（令和2年）までに、バスの事故件数を1,100件以下、タクシーの事故件数を9,500件以下、トラックの事故件数を12,500件以下とする削減目標が示されている。

〔図5〕 事業用自動車の業態別交通事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表5〕 事業用自動車の業態別交通事故件数の推移（件）

年	区分	バス			タクシー	トラック
		乗合バス	貸切バス	その他		
H22		2,403	390	89	22,735	25,452
H23		2,138	378	89	21,617	24,865
H24		2,000	405	22	19,381	23,539
H25		1,751	388	25	17,799	22,462
H26		1,578	374	20	16,113	21,564
H27		1,443	317	12	14,902	19,825
H28		1,239	302	15	13,526	18,254
H29		1,217	276	5	13,171	17,986
H30		1,141	308	19	11,954	17,396
R1		1,040	234	8	10,996	15,606

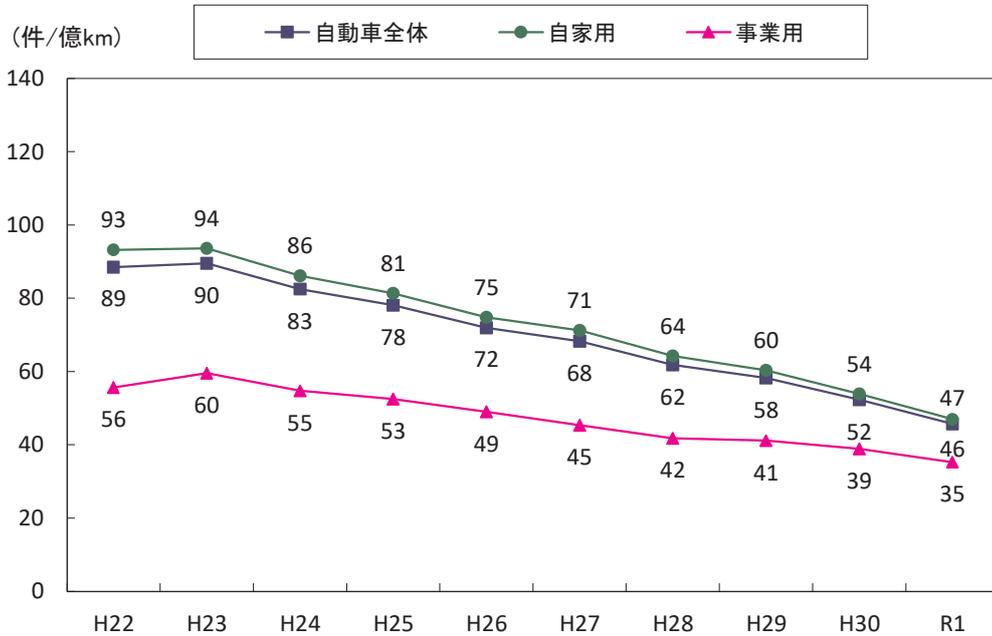
注：平成29年以降、乗車定員11人未満であり路線定期運行を行う業態は、乗合バスとして計上している。
（業態別の統計については、以下同様）

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 走行距離1億キロあたり自動車事故件数の推移

自動車全体、自家用、事業用いずれも全体的に減少傾向にある。事業用自動車は平成26年に50件/億kmを割り込み、減少傾向となっている。

〔図6〕 走行距離1億キロあたり自動車事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

〔表6〕 走行距離と自動車事故件数の推移

年	事故件数(件)			走行距離(億km)		
	自動車全体	自家用	事業用	自動車全体	自家用	事業用
H22	647,526	596,457	51,069	7312.0	6394.3	917.7
H23	618,706	569,619	49,087	6909.5	6085.6	823.9
H24	597,057	551,710	45,347	7234.0	6405.5	828.5
H25	566,364	523,939	42,425	7249.1	6441.5	807.6
H26	518,263	478,614	39,649	7200.8	6392.3	808.5
H27	487,503	451,004	36,499	7137.1	6332.5	804.7
H28	454,379	421,043	33,336	7345.8	6548.7	797.1
H29	428,493	395,838	32,655	7354.2	6560.7	793.5
H30	389,961	359,143	30,818	7451.7	6660.2	791.5
R1	343,209	315,325	27,884	7506.4	6716.3	790.1

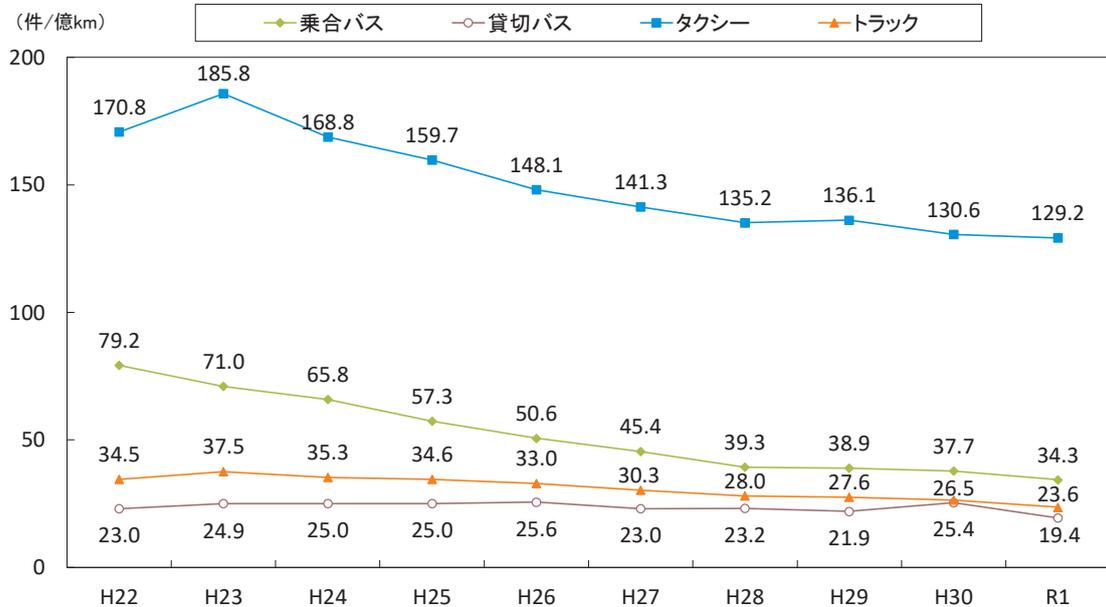
注：走行距離（営業用バスを除く。）の調査については、平成22年より、「自動車輸送統計調査」から、「自動車燃料消費量調査」に移管し、調査方法及び集計方法が変更となっている。このため、平成21年以前の数値とは、時系列上の連続性が担保されない。
 (走行距離に関する統計については、以下同様)

出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

(4) 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故件数の推移

走行距離あたりの事故件数はタクシーが突出して多いが、減少傾向となっている。他の業態については、近年横ばい傾向となっている。

〔図7〕 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

〔表7〕 事業用自動車の業態別走行距離と交通事故件数の推移

区分 年	事故件数(件)							走行距離(億km)					
	バス				タクシー	トラック	自動車全体	バス	乗合	貸切	タクシー	トラック	自動車全体
H22	2,882	2,403	390	89	22,735	25,452	647,526	47.3	30.3	16.9	133.1	737.3	7312.0
H23	2,605	2,138	378	89	21,617	24,865	618,706	45.3	30.1	15.2	116.4	662.3	6909.5
H24	2,427	2,000	405	22	19,381	23,539	597,057	46.6	30.4	16.2	114.8	667.0	7234.0
H25	2,164	1,751	388	25	17,799	22,462	566,364	46.0	30.5	15.5	111.4	650.1	7249.1
H26	1,972	1,578	374	20	16,113	21,564	518,263	45.8	31.2	14.6	108.8	653.9	7200.8
H27	1,772	1,443	317	12	14,902	19,825	487,503	45.5	31.8	13.8	105.4	653.7	7137.1
H28	1,556	1,239	302	15	13,526	18,254	454,379	44.5	31.5	13.0	100.1	652.5	7345.8
H29	1,498	1,217	276	5	13,171	17,986	428,493	43.9	31.3	12.6	96.7	652.8	7354.2
H30	1,468	1,141	308	19	11,954	17,396	389,961	42.4	30.2	12.1	91.5	657.6	7451.7
R1	1,282	1,040	234	8	10,996	15,606	343,209	42.4	30.3	12.1	85.1	662.5	7506.4

出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

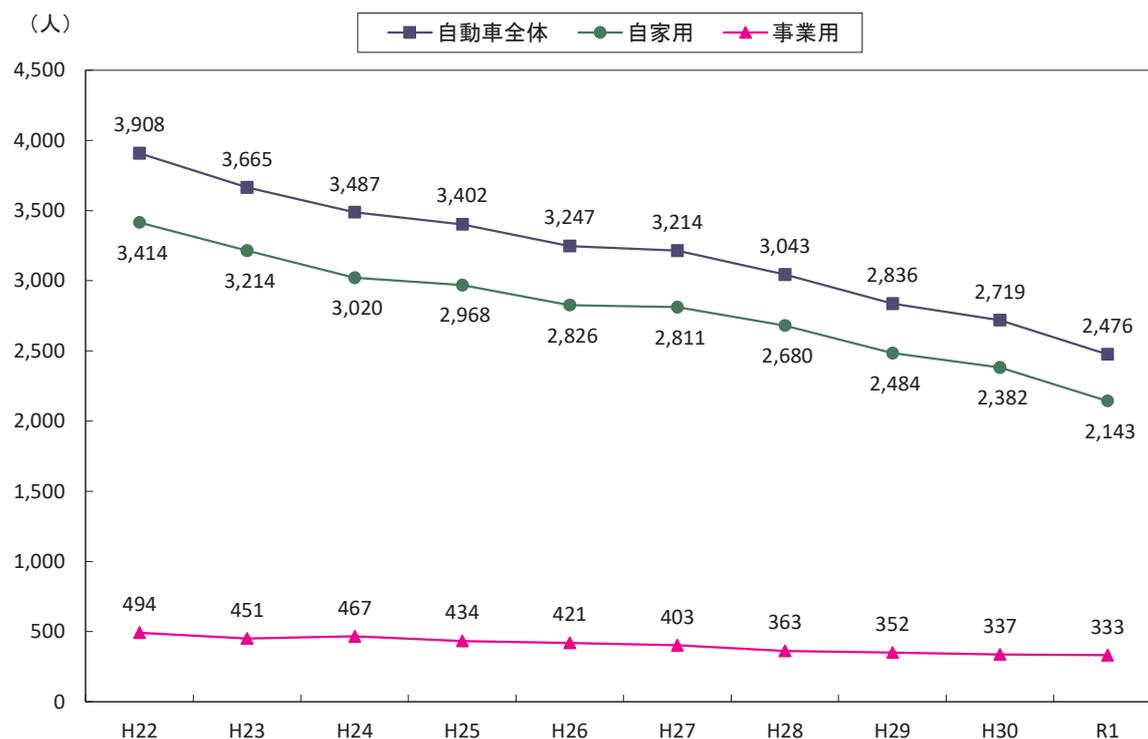
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

1-3. 自動車事故死者数の推移

(1) 自動車事故死者数の推移

令和元年中に全国で発生した自動車全体の交通事故死者数は2,476人である。そのうち、事業用自動車は333人であり、令和元年は前年より4人減少している。

〔図8〕 自動車事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表8〕 自動車事故死者数の推移 (人)

年	自動車全体	自家用	事業用
H22	3,908	3,414	494
H23	3,665	3,214	451
H24	3,487	3,020	467
H25	3,402	2,968	434
H26	3,247	2,826	421
H27	3,214	2,811	403
H28	3,043	2,680	363
H29	2,836	2,484	352
H30	2,719	2,382	337
R1	2,476	2,143	333

出典：警察庁「交通統計」

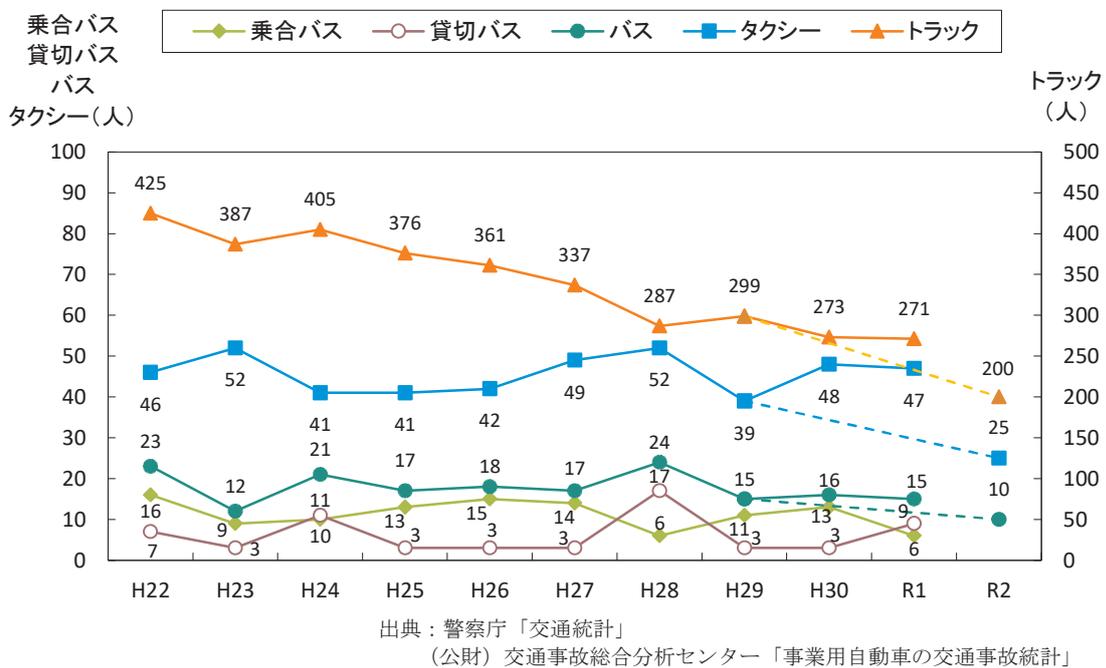
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移

事業用自動車の交通事故死者数を業態別にみると、トラックによる交通事故死者数が大半を占めている。令和元年の交通事故死者数は、貸切バスを除き減少した。乗合バスは前年より半数以下、貸切バスは関越道における高速ツアーバス事故があった平成24年、軽井沢スキーバス事故があった平成28年に増加し、近年は横ばい傾向となっていたが、令和元年は前年より増加した。

なお、事業用自動車については、「事業用自動車総合安全プラン2020」において、平成32年(令和2年)までに、バスの交通事故死者数を10人以下、タクシーの交通事故死者数を25人以下、トラックの交通事故死者数を200人以下とする削減目標が示されている。

〔図9〕 事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移



〔表9〕 事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移 (人)

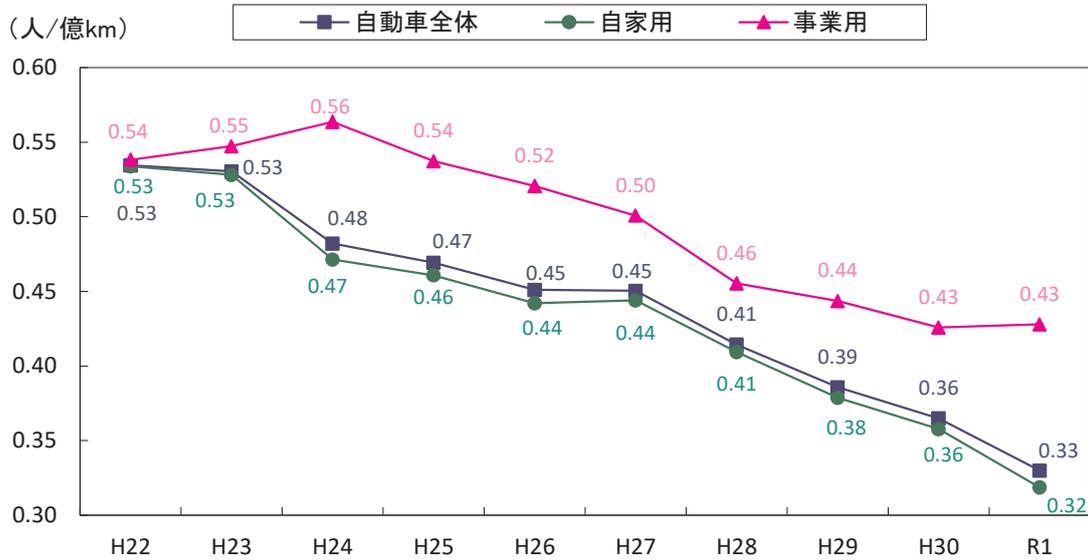
年	区分	バス			タクシー	トラック
		乗合バス	貸切バス	その他		
H22		16	7	0	46	425
H23		9	3	0	52	387
H24		10	11	0	41	405
H25		13	3	1	41	376
H26		15	3	0	42	361
H27		14	3	0	49	337
H28		6	17	1	52	287
H29		11	3	1	39	299
H30		13	3	0	48	273
R1		6	9	0	47	271

出典：警察庁「交通統計」
(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 走行距離1億キロあたり自動車事故死者数の推移

走行距離あたりの自動車事故死者数は、自動車全体では減少傾向にある。事業用は近年横ばいとなっている。

〔図10〕 走行距離1億キロあたり自動車事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

〔表10〕 自動車事故死者数と走行距離の推移

年	区分	死者数(人)			走行距離(億km)		
		自動車全体	自家用	事業用	自動車全体	自家用	事業用
H22		3,908	3,414	494	7312.0	6394.3	917.7
H23		3,665	3,214	451	6909.5	6085.6	823.9
H24		3,487	3,020	467	7234.0	6405.5	828.5
H25		3,402	2,968	434	7249.1	6441.5	807.6
H26		3,247	2,826	421	7200.8	6392.3	808.5
H27		3,214	2,811	403	7137.1	6332.5	804.7
H28		3,043	2,680	363	7345.8	6548.7	797.1
H29		2,836	2,484	352	7354.2	6560.7	793.5
H30		2,719	2,382	337	7451.7	6660.2	791.5
R1		2,476	2,143	333	7506.4	6728.4	778.0

出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

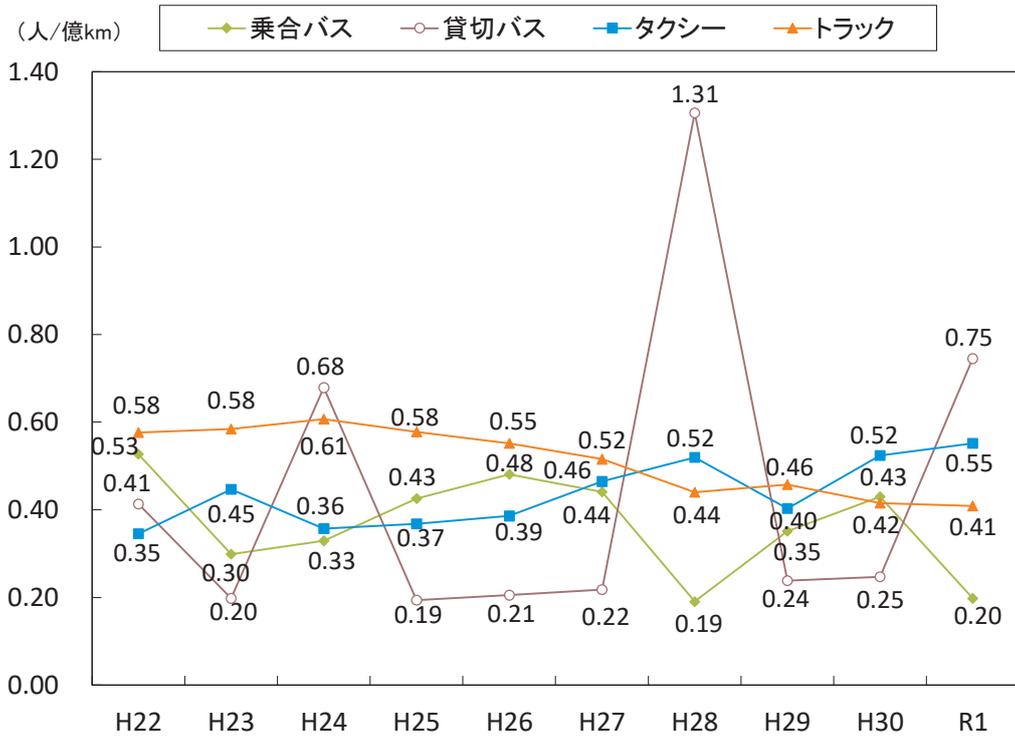
(4) 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移

走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故死者数は、前年より貸切バスは大きく増加、タクシーは増加、乗合バス、トラックは減少している。

※貸切バスの平成24年は関越道における高速ツアーバス事故の影響により増加

※貸切バスの平成28年は軽井沢スキーバス事故の影響により増加

〔図11〕 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

〔表11〕 事業用自動車の業態別交通事故死者数と走行距離の推移

区分 年	死者数(人)							走行距離(億km)					
	バス 乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	自動車 全体	バス 乗合	貸切	タクシー	トラック	自動車 全体		
H22	23	16	7	0	46	425	3,908	47.3	30.3	16.9	133.1	737.3	7312.0
H23	12	9	3	0	52	387	3,665	45.3	30.1	15.2	116.4	662.3	6909.5
H24	21	10	11	0	41	405	3,487	46.6	30.4	16.2	114.8	667.0	7234.0
H25	17	13	3	1	41	376	3,402	46.0	30.5	15.5	111.4	650.1	7249.1
H26	18	15	3	0	42	361	3,247	45.8	31.2	14.6	108.8	653.9	7200.8
H27	17	14	3	0	49	337	3,214	45.5	31.8	13.8	105.4	653.7	7137.1
H28	24	6	17	1	52	287	3,043	44.5	31.5	13.0	100.1	652.5	7345.8
H29	15	11	3	1	39	299	2,836	43.9	31.3	12.6	96.7	652.8	7354.2
H30	16	13	3	0	48	273	2,719	42.4	30.2	12.1	91.5	657.6	7451.7
R1	15	6	9	0	47	271	2,476	42.4	30.3	12.1	85.1	662.5	7506.4

出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

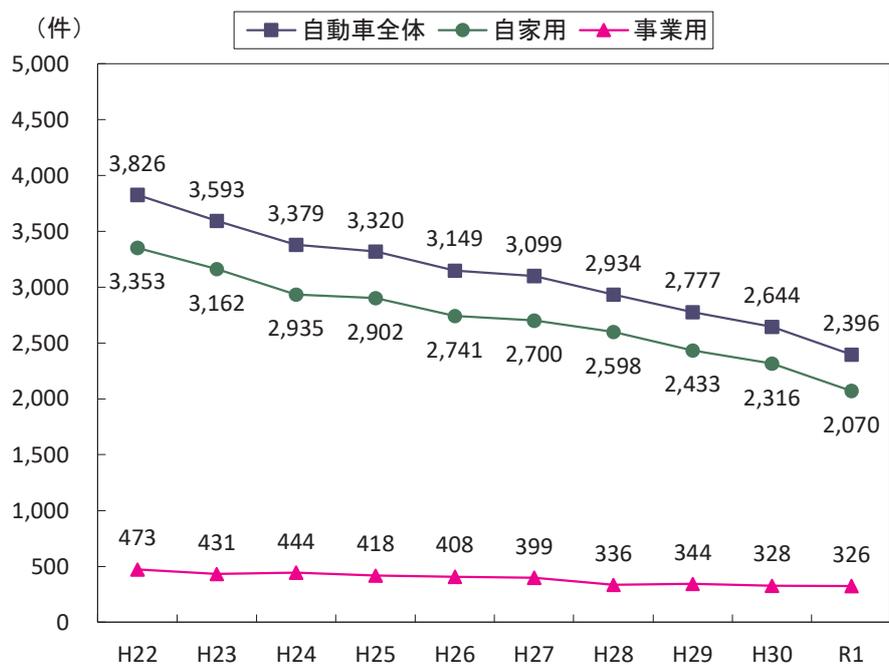
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

1-4. 自動車死亡事故件数の推移

(1) 自動車死亡事故件数の推移

令和元年中に全国で発生した自動車全体の交通死亡事故件数は2,396件であり、そのうち、自家用自動車は2,070件、事業用自動車は326件となっている。

〔図 12〕 自動車死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 12〕 自動車死亡事故件数の推移 (件)

年	自動車全体	自家用	事業用
H22	3,826	3,353	473
H23	3,593	3,162	431
H24	3,379	2,935	444
H25	3,320	2,902	418
H26	3,149	2,741	408
H27	3,099	2,700	399
H28	2,934	2,598	336
H29	2,777	2,433	344
H30	2,644	2,316	328
R1	2,396	2,070	326

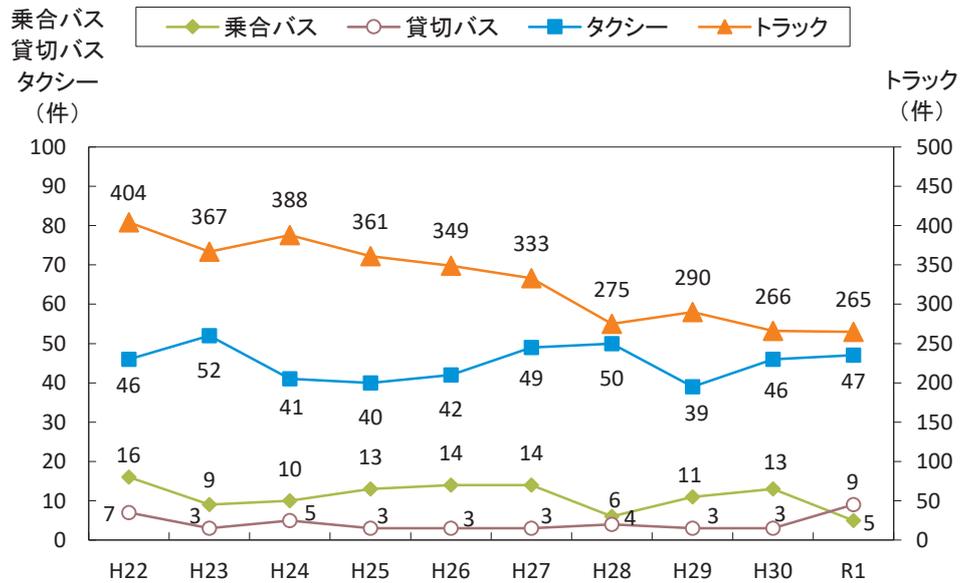
出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移

事業用自動車の交通死亡事故件数を業態別にみると、トラックによる死亡事故件数が大半を占め、近年横ばいとなっている。貸切バスは増加、乗合バスは減少、タクシー、トラックは横ばい傾向となっている。

〔図 13〕 事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 13〕 事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移 (件)

年	区分	バス			タクシー	トラック	
		乗合バス	貸切バス	その他			
H22		23	16	7	0	46	404
H23		12	9	3	0	52	367
H24		15	10	5	0	41	388
H25		17	13	3	1	40	361
H26		17	14	3	0	42	349
H27		17	14	3	0	49	333
H28		11	6	4	1	50	275
H29		15	11	3	1	39	290
H30		16	13	3	0	46	266
R1		14	5	9	0	47	265

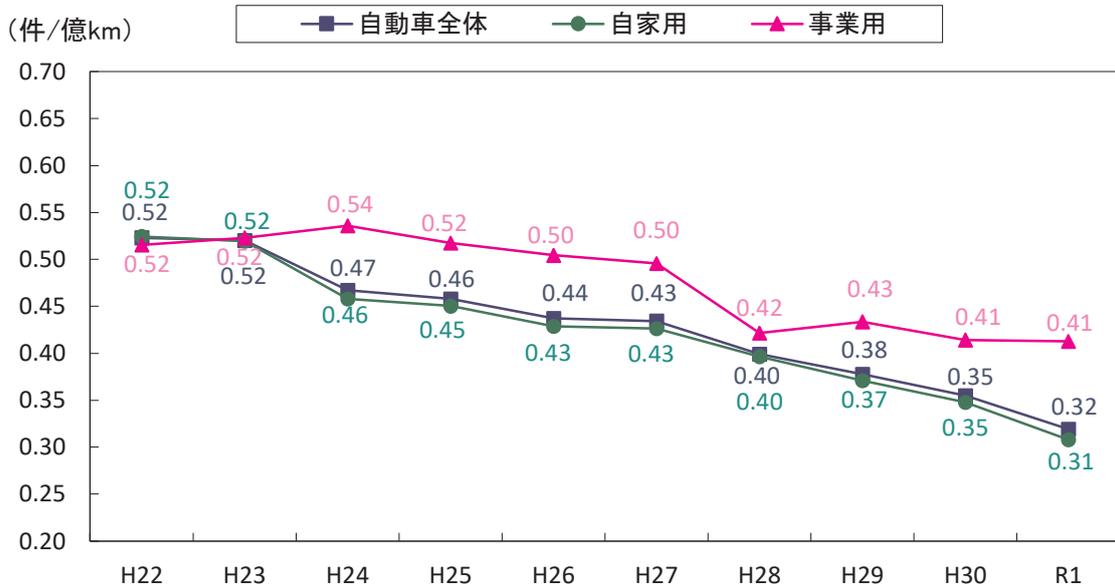
出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 走行距離1億キロあたり自動車死亡事故件数の推移

走行距離あたりの自動車死亡事故件数をみると、自動車全体、自家用自動車で減少傾向、事業用自動車は横ばいとなっている。

〔図14〕 走行距離1億キロあたり自動車死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

〔表14〕 自動車死亡事故件数と走行距離の推移

年	死亡事故件数(件)			走行距離(億km)		
	自動車全体	自家用	事業用	自動車全体	自家用	事業用
H22	3,826	3,353	473	7312.0	6394.3	917.7
H23	3,593	3,162	431	6909.5	6085.6	823.9
H24	3,379	2,935	444	7234.0	6405.5	828.5
H25	3,320	2,902	418	7249.1	6441.5	807.6
H26	3,149	2,741	408	7200.8	6392.3	808.5
H27	3,099	2,700	399	7137.1	6332.5	804.7
H28	2,934	2,598	336	7345.8	6548.7	797.1
H29	2,777	2,433	344	7354.2	6560.7	793.5
H30	2,644	2,316	328	7451.7	6660.2	791.5
R1	2,396	2,070	326	7506.4	6716.3	790.1

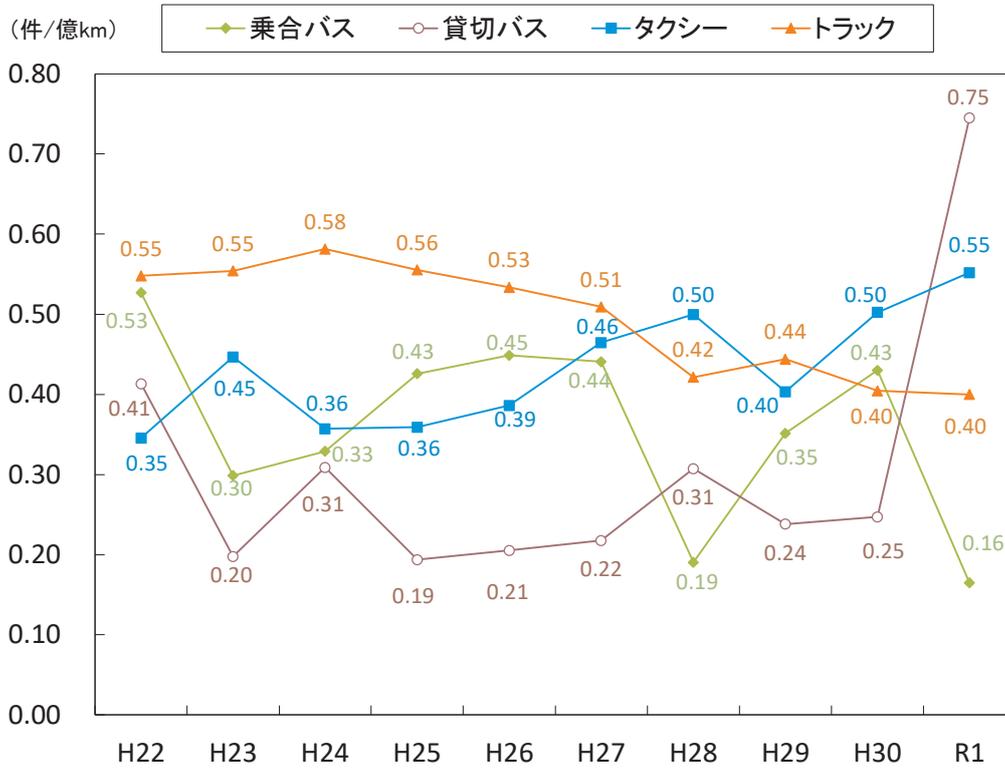
出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

(4) 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移

走行距離当たりの死亡事故件数は、前年に比べ、乗合バスは減少し、トラックは同程度、タクシーと貸切バスは増加している。

[図 15] 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

[表 15] 事業用自動車の業態別走行距離と交通死亡事故件数の推移

区分 年	死亡事故件数(件)							走行キロ(億km)					
	バス				タクシー	トラック	自動車全体	バス			タクシー	トラック	自動車全体
	乗合	貸切	その他					乗合	貸切				
H22	23	16	7	0	46	404	3,826	47.3	30.3	16.9	133.1	737.3	7312.0
H23	12	9	3	0	52	367	3,593	45.3	30.1	15.2	116.4	662.3	6909.5
H24	15	10	5	0	41	388	3,379	46.6	30.4	16.2	114.8	667.0	7234.0
H25	17	13	3	1	40	361	3,320	46.0	30.5	15.5	111.4	650.1	7249.1
H26	17	14	3	0	42	349	3,149	45.8	31.2	14.6	108.8	653.9	7200.8
H27	17	14	3	0	49	333	3,099	45.5	31.8	13.8	105.4	653.7	7137.1
H28	11	6	4	1	50	275	2,934	44.5	31.5	13.0	100.1	652.5	7345.8
H29	15	11	3	1	39	290	2,777	43.9	31.3	12.6	96.7	652.8	7354.2
H30	16	13	3	0	46	266	2,644	42.4	30.2	12.1	91.5	657.6	7451.7
R1	14	5	9	0	47	265	2,396	42.4	30.3	12.1	85.1	662.5	7506.4

出典：警察庁「交通統計」

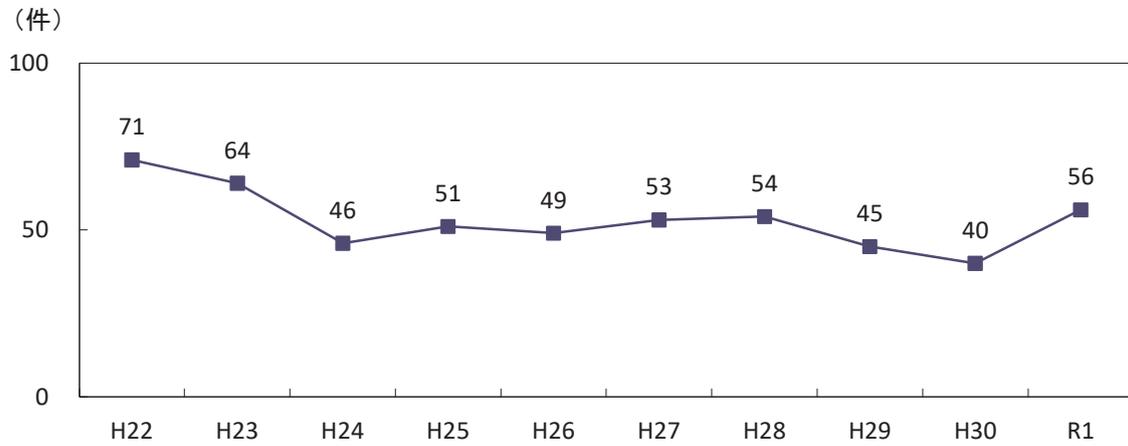
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

1-5. 飲酒運転による事業用自動車の交通事故の推移

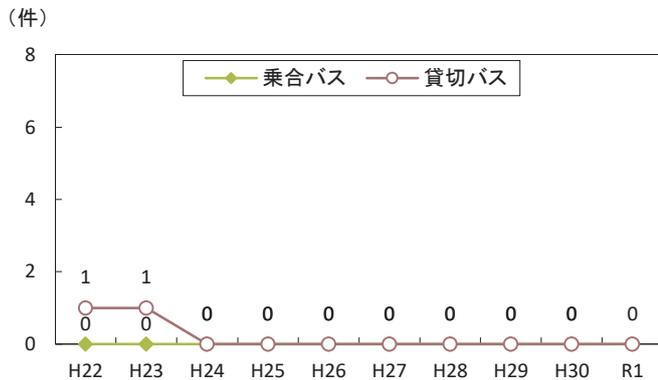
飲酒運転による事業用自動車の交通事故は、平成24年から横ばい傾向であったが令和元年は増加している。業態別の内訳は、トラック48件、タクシー8件となっている。

〔図16〕 飲酒運転による事業用自動車の交通事故件数の推移

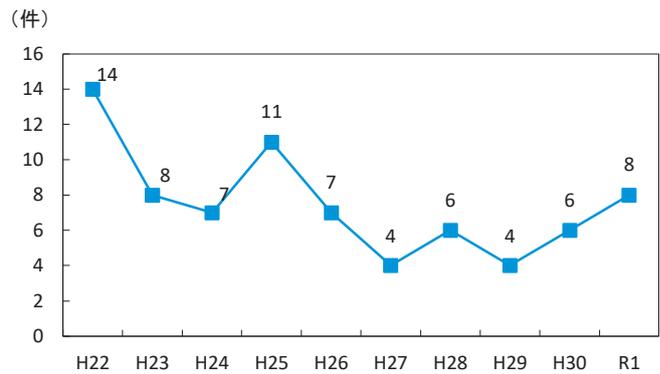


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

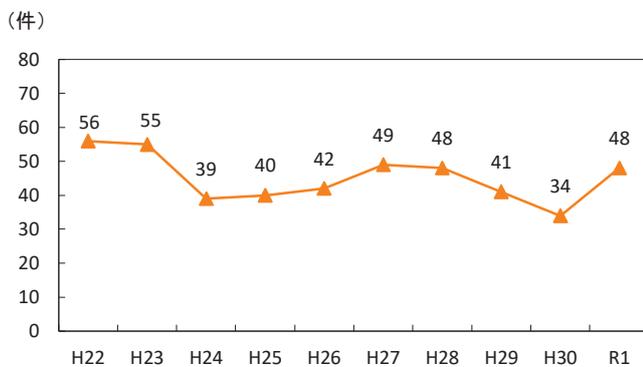
〔図17〕 業態別飲酒運転による交通事故件数



飲酒運転による交通事故件数（バス）



飲酒運転による交通事故件数（タクシー）



飲酒運転による交通事故件数（トラック）

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 16〕 業態別飲酒運転による交通事故件数の推移（件）

区分 年	交通事故件数						
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	合計
H22	1	0	1	0	14	56	71
H23	1	0	1	0	8	55	64
H24	0	0	0	0	7	39	46
H25	0	0	0	0	11	40	51
H26	0	0	0	0	7	42	49
H27	0	0	0	0	4	49	53
H28	0	0	0	0	6	48	54
H29	0	0	0	0	4	41	45
H30	0	0	0	0	6	34	40
R1	0	0	0	0	8	48	56

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 17〕 業態別飲酒運転による交通死亡事故件数の推移（件）

区分 年	交通死亡事故件数						
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	合計
H22	0	0	0	0	0	3	3
H23	0	0	0	0	0	4	4
H24	0	0	0	0	0	6	6
H25	0	0	0	0	0	6	6
H26	0	0	0	0	1	5	6
H27	0	0	0	0	0	5	5
H28	0	0	0	0	0	1	1
H29	0	0	0	0	0	4	4
H30	0	0	0	0	0	2	2
R1	0	0	0	0	0	6	6

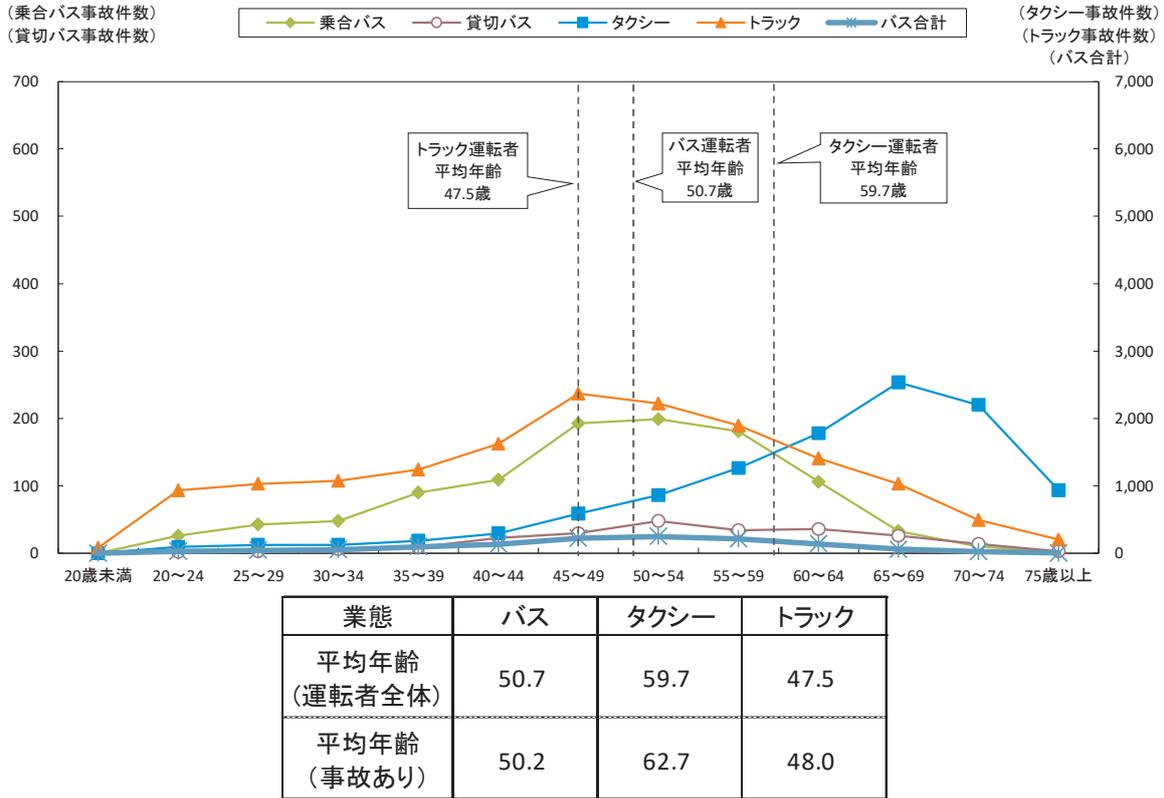
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

1-6. 業態別運転者年齢層別の交通事故

(1) 業態別運転者年齢層別交通事故件数

業態別の交通事故第1当事者の平均年齢と運転者の平均年齢を比較すると、タクシーは若干高く、バス、トラックは同程度となっている。

[図 18] 業態別運転者年齢層別交通事故件数 (令和元年)



※ 交通事故第1当事者の平均年齢は、年齢層毎の年齢の加重平均により算出

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
厚生労働省「令和元年賃金構造基本統計調査(全国)」

[表 18] 業態別運転者年齢層別交通事故件数 (件) (令和元年)

		20歳未満	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75歳以上	合計
バス	乗合	0	26	43	48	90	109	193	199	181	106	33	10	2	1,040
	貸切	0	2	3	6	9	23	30	48	34	36	26	14	3	234
	その他	0	0	0	1	0	0	0	3	1	0	2	1	0	8
	小計	0	28	46	55	99	132	223	250	216	142	61	25	5	1,282
ハイタク	法人	0	84	119	120	176	283	553	804	1,193	1,665	2,301	1,928	769	9,995
	個人	0	1	0	0	2	5	27	50	63	105	225	267	164	909
その他乗用		0	9	5	7	7	8	9	9	9	10	9	8	2	92
小計		0	94	124	127	185	296	589	863	1,265	1,780	2,535	2,203	935	10,996
貨物自動車	大型	0	99	208	286	372	600	959	821	616	431	230	109	22	4,753
	中型	1	125	179	242	312	364	532	524	478	317	241	81	17	3,413
	準中型	33	251	223	231	241	274	400	363	285	208	162	70	23	2,764
	普通	11	63	54	52	54	65	87	96	83	60	42	23	9	699
	軽	38	396	365	262	264	321	391	417	431	392	354	212	134	3,977
小計		83	934	1,029	1,073	1,243	1,624	2,369	2,221	1,893	1,408	1,029	495	205	15,606
合計		83	1,056	1,199	1,255	1,527	2,052	3,181	3,334	3,374	3,330	3,625	2,723	1,145	27,884
トレーラ (トラックの内数)		3	20	41	46	72	141	214	175	138	87	38	14	8	997

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

1-7. 業態別危険認知速度別の交通事故

(1) 業態別危険認知速度別交通事故件数

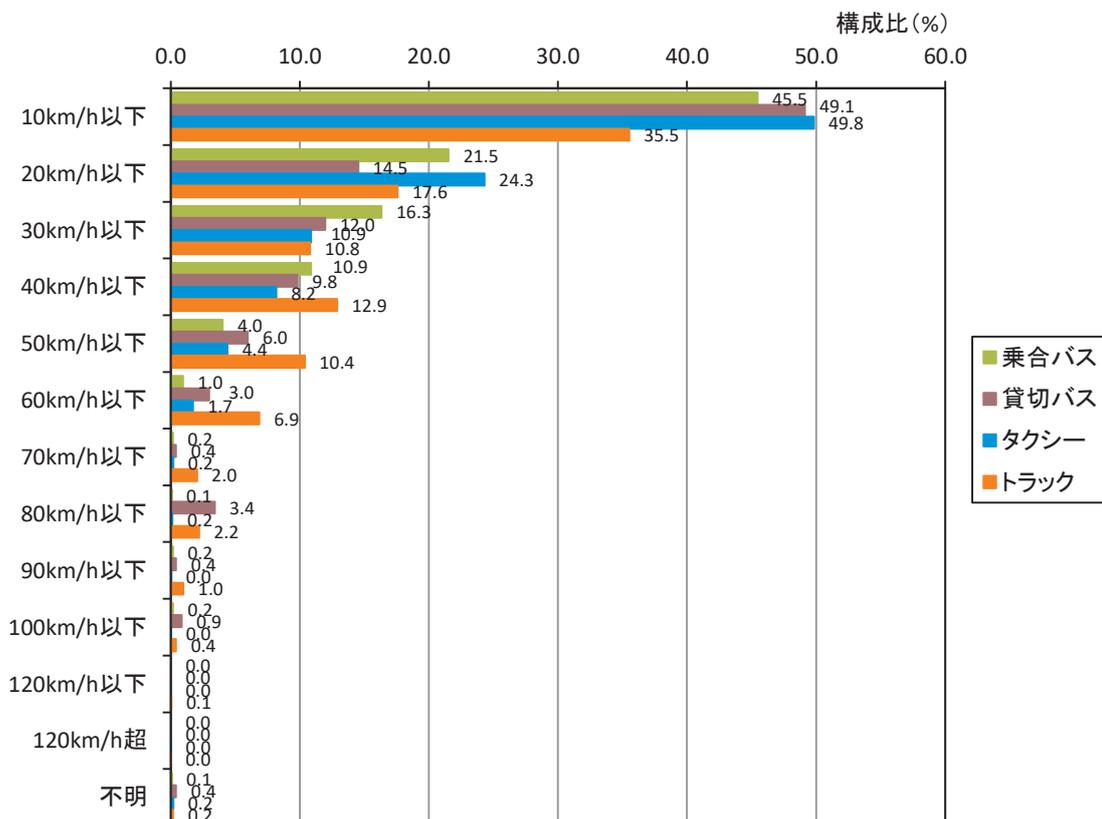
業態別の危険認知速度別事故件数をみると、いずれの業態も10km/h以下が最も多く、バスとタクシーは半数を占めている。表19に認知速度別交通事故件数を、図20に業態別の構成比を示す。

〔表 19〕 業態別危険認知速度別交通事故件数（件）（令和元年）

速度	交通事故件数						合計
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	
10km/h以下	593	473	115	5	5,480	5,546	11,619
20km/h以下	258	224	34	0	2,672	2,743	5,673
30km/h以下	198	170	28	0	1,197	1,688	3,083
40km/h以下	137	113	23	1	899	2,013	3,049
50km/h以下	58	42	14	2	483	1,621	2,162
60km/h以下	17	10	7	0	189	1,071	1,277
70km/h以下	3	2	1	0	24	318	345
80km/h以下	9	1	8	0	17	344	370
90km/h以下	3	2	1	0	5	155	163
100km/h以下	4	2	2	0	3	66	73
120km/h以下	0	0	0	0	2	9	11
120km/h超	0	0	0	0	2	1	3
不明	2	1	1	0	23	31	56
合計	1,282	1,040	234	8	10,996	15,606	27,884

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 20〕 業態別危険認知速度別交通事故件数の構成比（％）（令和元年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 業態別危険認知速度別交通死亡事故件数

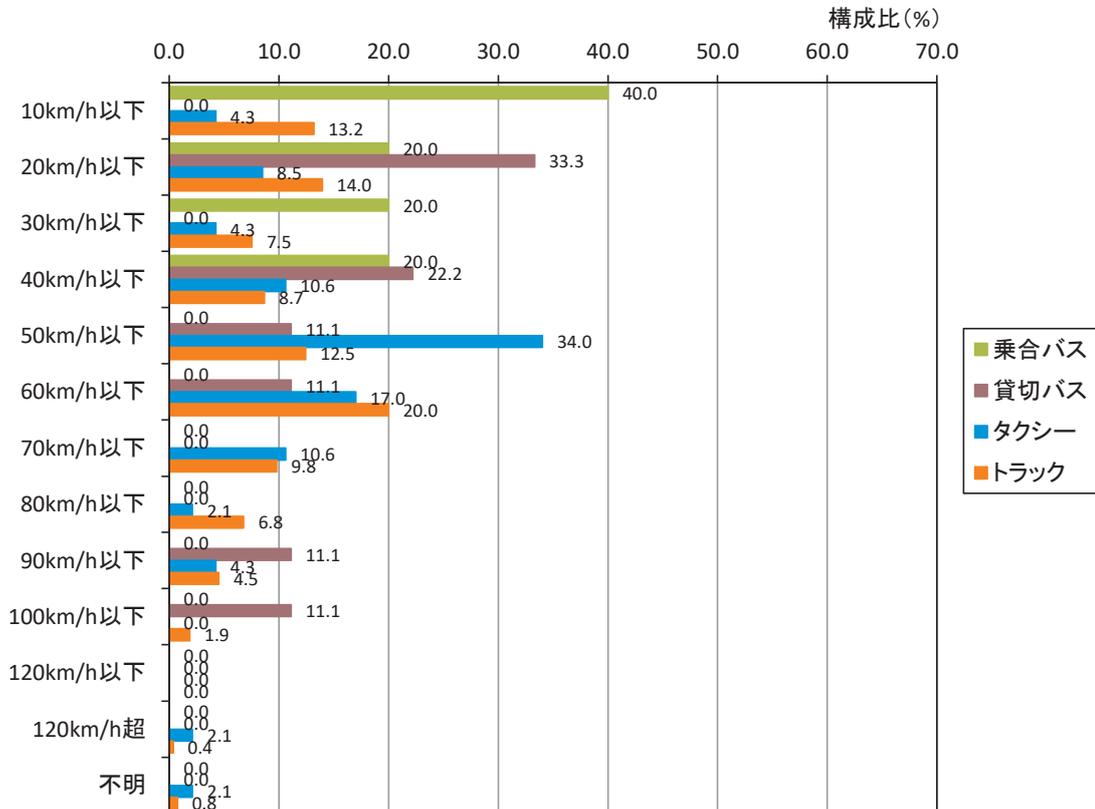
表20に業態別危険認知速度別交通死亡事故件数を、図21に危険認知速度別交通死亡事故件数の業態別の構成比を示す。業態別で見ると、バスは10km/h以下、タクシーは40km/h～50km/h以下、トラックは50km/h～60km/h以下が最も多くなっている。

〔表 20〕 業態別危険認知速度別交通死亡事故件数（件）（令和元年）

区分 速度	交通死亡事故件数					タクシー	トラック	合計
	バス	乗合	貸切	その他				
10km/h以下	2	2	0	0	2	35	41	
20km/h以下	4	1	3	0	4	37	49	
30km/h以下	1	1	0	0	2	20	24	
40km/h以下	3	1	2	0	5	23	34	
50km/h以下	1	0	1	0	16	33	51	
60km/h以下	1	0	1	0	8	53	63	
70km/h以下	0	0	0	0	5	26	31	
80km/h以下	0	0	0	0	1	18	19	
90km/h以下	1	0	1	0	2	12	16	
100km/h以下	1	0	1	0	0	5	7	
120km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	
120km/h超	0	0	0	0	1	1	2	
不明	0	0	0	0	1	2	3	
合計	14	5	9	0	47	265	326	

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 21〕 業態別危険認知速度別交通死亡事故件数の構成比（%）（令和元年）



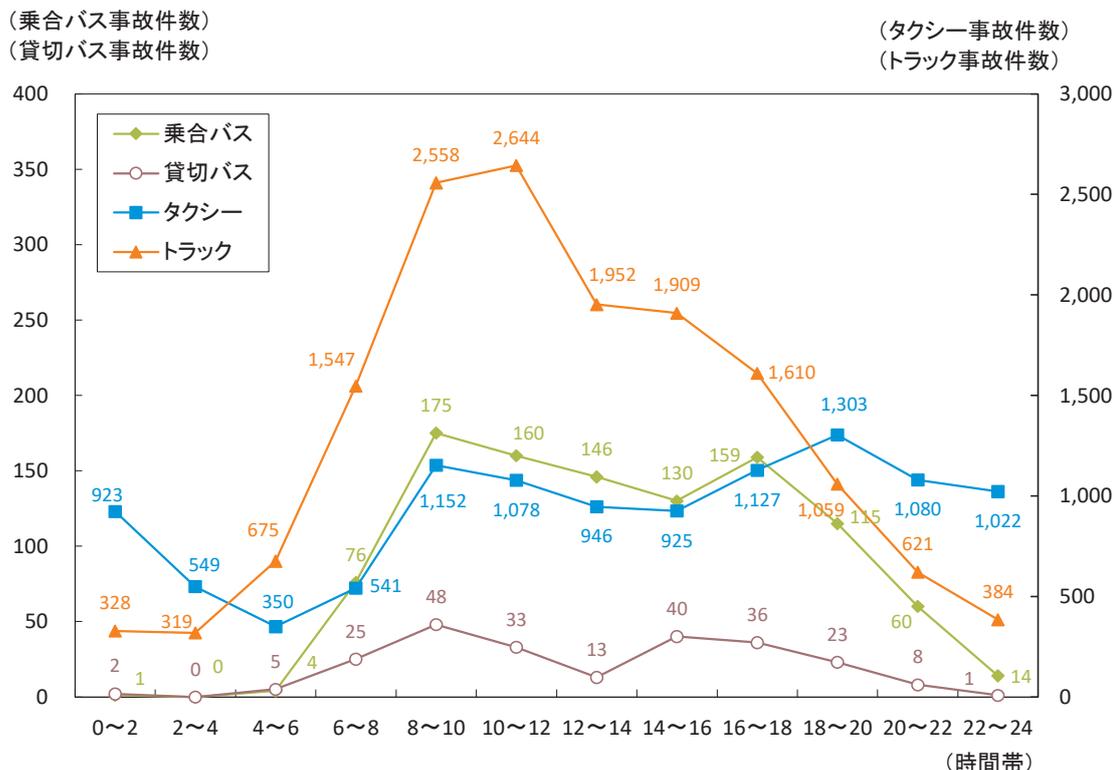
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

1-8. 業態別時間帯別の交通事故

(1) 業態別時間帯別交通事故件数

業態別の時間帯別事故件数をみると、乗合バスと貸切バスは8時～9時台、タクシーは18時～19時台、トラックは10時～11時台が最も多い。

〔図 22〕 業態別時間帯別交通事故件数（令和元年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 21〕 業態別時間帯別交通事故件数（件）（令和元年）

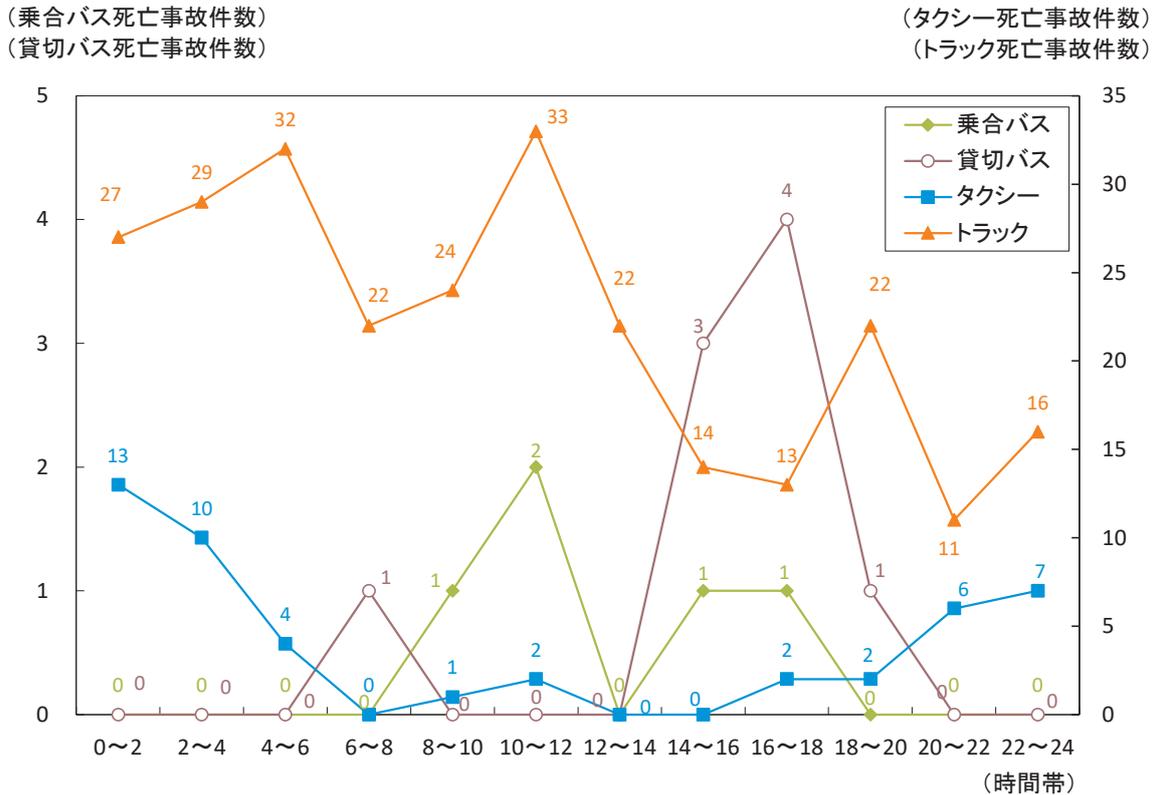
区分	時間帯	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	合計
		バス	乗合	1	0	4	76	175	160	146	130	159	115	
	貸切	2	0	5	25	48	33	13	40	36	23	8	1	234
	その他	0	0	0	1	2	0	0	1	1	0	2	1	8
	小計	3	0	9	102	225	193	159	171	196	138	70	16	1,282
タクシー	法人	813	492	318	506	1,063	993	865	842	1,034	1,192	960	917	9,995
	個人	108	57	31	31	70	68	70	64	82	108	115	105	909
	その他乗用	2	0	1	4	19	17	11	19	11	3	5	0	92
	小計	923	549	350	541	1,152	1,078	946	925	1,127	1,303	1,080	1,022	10,996
トラック	大型	146	129	246	508	762	843	556	554	434	233	182	160	4,753
	中型	99	90	216	432	605	530	415	374	263	171	112	106	3,413
	準中型	42	66	125	287	508	489	402	361	259	131	51	43	2,764
	普通	10	13	21	52	113	135	102	100	96	43	8	6	699
	軽	31	21	67	268	570	647	477	520	558	481	268	69	3,977
	小計	328	319	675	1,547	2,558	2,644	1,952	1,909	1,610	1,059	621	384	15,606
合計		1,254	868	1,034	2,190	3,935	3,915	3,057	3,005	2,933	2,500	1,771	1,422	27,884

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 業態別時間帯別交通死亡事故件数

業態別の時間帯別死亡事故件数をみると、乗合バスは10時～11時台、貸切バスは16時～17時台、タクシーは0時～1時台が最も多く、トラックは4～5時台、10時～11時台が多い。

〔図 23〕 業態別時間帯別交通死亡事故件数（令和元年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 22〕 業態別時間帯別交通死亡事故件数（件）（令和元年）

区分	時間帯	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	合計
	バス	乗合	0	0	0	0	1	2	0	1	1	0	0	
	貸切	0	0	0	1	0	0	0	3	4	1	0	0	9
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	0	0	0	1	1	2	0	4	5	1	0	0	14
タクシー	法人	12	8	4	0	1	2	0	0	2	1	5	6	41
	個人	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	6
	その他乗用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	13	10	4	0	1	2	0	0	2	2	6	7	47
トラック	大型	17	20	14	7	16	18	12	8	6	9	7	9	143
	中型	6	2	11	8	1	7	4	3	1	7	1	6	57
	準中型	1	4	6	0	5	3	4	2	3	3	3	0	34
	普通	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	5
	軽	3	2	1	6	2	4	2	0	3	2	0	1	26
	小計	27	29	32	22	24	33	22	14	13	22	11	16	265
合計		40	39	36	23	26	37	22	18	20	25	17	23	326

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

1-9. 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故

(1) 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故件数

〔表 23〕 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故件数（件）（令和元年）

都道府県	事業の種類				タクシー	トラック	計
	バス	乗合	貸切	その他			
北海道	50 (9)	37 (10)	13 (5)	0 (7)	549 (5)	385 (10)	984 (9)
青森県	8 (26)	7 (24)	1 (27)	0 (7)	49 (25)	76 (36)	133 (35)
岩手県	3 (39)	3 (38)	0 (35)	0 (7)	33 (34)	64 (41)	100 (40)
宮城県	11 (22)	9 (21)	2 (22)	0 (7)	135 (14)	194 (16)	340 (15)
秋田県	0 (46)	0 (46)	0 (35)	0 (7)	27 (37)	48 (45)	75 (45)
山形県	6 (32)	5 (29)	1 (27)	0 (7)	41 (30)	72 (38)	119 (37)
福島県	5 (33)	4 (33)	1 (27)	0 (7)	50 (24)	115 (24)	170 (29)
茨城県	16 (15)	10 (18)	5 (12)	1 (3)	47 (28)	364 (11)	427 (13)
栃木県	4 (36)	4 (33)	0 (35)	0 (7)	24 (39)	159 (20)	187 (26)
群馬県	7 (28)	5 (29)	2 (22)	0 (7)	54 (22)	298 (13)	359 (14)
埼玉県	40 (11)	26 (11)	13 (5)	1 (3)	311 (8)	1,438 (3)	1,789 (5)
千葉県	83 (5)	58 (7)	25 (3)	0 (7)	303 (9)	903 (6)	1,289 (8)
東京都	198 (1)	157 (1)	39 (1)	2 (1)	2,992 (1)	1,524 (2)	4,714 (1)
神奈川県	130 (2)	119 (2)	11 (8)	0 (7)	809 (4)	1,166 (4)	2,105 (3)
新潟県	8 (26)	5 (29)	3 (17)	0 (7)	37 (32)	99 (29)	144 (33)
富山県	4 (36)	3 (38)	1 (27)	0 (7)	10 (45)	72 (38)	86 (43)
石川県	9 (25)	7 (24)	2 (22)	0 (7)	49 (25)	94 (30)	152 (31)
福井県	1 (44)	1 (43)	0 (35)	0 (7)	17 (44)	59 (42)	77 (44)
山梨県	7 (28)	4 (33)	3 (17)	0 (7)	24 (39)	76 (36)	107 (39)
長野県	16 (15)	10 (18)	6 (11)	0 (7)	48 (27)	168 (18)	232 (20)
岐阜県	4 (36)	4 (33)	0 (35)	0 (7)	31 (36)	160 (19)	195 (25)
静岡県	33 (12)	21 (12)	10 (9)	2 (1)	271 (10)	662 (9)	966 (10)
愛知県	65 (8)	52 (8)	13 (5)	0 (7)	479 (7)	1,103 (5)	1,647 (6)
三重県	3 (39)	2 (42)	1 (27)	0 (7)	21 (42)	177 (17)	201 (23)
滋賀県	7 (28)	7 (24)	0 (35)	0 (7)	38 (31)	101 (28)	146 (32)
京都府	80 (6)	78 (4)	2 (22)	0 (7)	255 (11)	340 (12)	675 (11)
大阪府	99 (3)	72 (5)	26 (2)	1 (3)	1,485 (2)	1,888 (1)	3,472 (2)
兵庫県	77 (7)	70 (6)	7 (10)	0 (7)	533 (6)	795 (8)	1,405 (7)
奈良県	7 (28)	7 (24)	0 (35)	0 (7)	27 (37)	141 (21)	175 (27)
和歌山県	5 (33)	4 (33)	1 (27)	0 (7)	18 (43)	92 (31)	115 (38)
鳥取県	0 (46)	0 (46)	0 (35)	0 (7)	10 (45)	30 (46)	40 (47)
島根県	3 (39)	3 (38)	0 (35)	0 (7)	9 (47)	30 (46)	42 (46)
岡山県	14 (18)	11 (17)	3 (17)	0 (7)	56 (21)	216 (15)	286 (17)
広島県	21 (14)	16 (14)	4 (14)	1 (3)	172 (13)	244 (14)	437 (12)
山口県	11 (22)	8 (23)	3 (17)	0 (7)	61 (19)	84 (33)	156 (30)
徳島県	5 (33)	5 (29)	0 (35)	0 (7)	24 (39)	68 (40)	97 (41)
香川県	12 (21)	7 (24)	5 (12)	0 (7)	53 (23)	135 (23)	200 (24)
愛媛県	1 (44)	1 (43)	0 (35)	0 (7)	34 (33)	86 (32)	121 (36)
高知県	2 (43)	1 (43)	1 (27)	0 (7)	33 (34)	58 (43)	93 (42)
福岡県	95 (4)	80 (3)	15 (4)	0 (7)	932 (3)	874 (7)	1,901 (4)
佐賀県	16 (15)	16 (14)	0 (35)	0 (7)	47 (28)	112 (26)	175 (27)
長崎県	42 (10)	38 (9)	4 (14)	0 (7)	132 (15)	84 (33)	258 (18)
熊本県	13 (19)	10 (18)	3 (17)	0 (7)	88 (17)	140 (22)	241 (19)
大分県	3 (39)	3 (38)	0 (35)	0 (7)	59 (20)	78 (35)	140 (34)
宮崎県	13 (19)	12 (16)	1 (27)	0 (7)	102 (16)	106 (27)	221 (21)
鹿児島県	24 (13)	20 (13)	4 (14)	0 (7)	81 (18)	113 (25)	218 (22)
沖縄県	11 (22)	9 (21)	2 (22)	0 (7)	232 (12)	51 (44)	294 (16)
計	1,282	1,040	234	8	10,996	15,606	27,884

注 1：数値横のカッコ内は順位

注 2：都道府県合計には、不明を含む

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通死亡事故件数

[表 24] 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通死亡事故件数（件）（令和元年）

都道府県	事業の種類				タクシー	トラック	計
	バス	乗合	貸切	その他			
北海道	2 (3)	0 (5)	2 (2)	0 (1)	4 (1)	10 (7)	16 (4)
青森県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	0 (26)	3 (26)	3 (34)
岩手県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	2 (8)	2 (38)	4 (25)
宮城県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	3 (3)	5 (16)	8 (13)
秋田県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	1 (13)	3 (26)	4 (25)
山形県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	2 (8)	3 (26)	5 (18)
福島県	1 (4)	1 (2)	0 (7)	0 (1)	1 (13)	3 (26)	5 (18)
茨城県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	0 (26)	13 (4)	13 (6)
栃木県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	0 (26)	3 (26)	3 (34)
群馬県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	0 (26)	3 (26)	3 (34)
埼玉県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	0 (26)	18 (3)	18 (3)
千葉県	3 (1)	2 (1)	1 (3)	0 (1)	3 (3)	19 (2)	25 (2)
東京都	3 (1)	0 (5)	3 (1)	0 (1)	4 (1)	8 (9)	15 (5)
神奈川県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	1 (13)	12 (6)	13 (6)
新潟県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	0 (26)	4 (20)	4 (25)
富山県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	0 (26)	0 (46)	0 (47)
石川県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	1 (13)	4 (20)	5 (18)
福井県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	0 (26)	2 (38)	2 (40)
山梨県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	1 (13)	1 (41)	2 (40)
長野県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	0 (26)	6 (14)	6 (16)
岐阜県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	0 (26)	3 (26)	3 (34)
静岡県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	0 (26)	7 (12)	7 (15)
愛知県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	0 (26)	13 (4)	13 (6)
三重県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	0 (26)	3 (26)	3 (34)
滋賀県	1 (4)	1 (2)	0 (7)	0 (1)	0 (26)	1 (41)	2 (40)
京都府	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	1 (13)	3 (26)	4 (25)
大阪府	1 (4)	0 (5)	1 (3)	0 (1)	3 (3)	25 (1)	29 (1)
兵庫県	1 (4)	1 (2)	0 (7)	0 (1)	1 (13)	6 (14)	8 (13)
奈良県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	0 (26)	2 (38)	2 (40)
和歌山県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	1 (13)	4 (20)	5 (18)
鳥取県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	1 (13)	5 (16)	6 (16)
島根県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	0 (26)	1 (41)	1 (45)
岡山県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	2 (8)	8 (9)	10 (10)
広島県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	2 (8)	7 (12)	9 (12)
山口県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	1 (13)	3 (26)	4 (25)
徳島県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	1 (13)	1 (41)	2 (40)
香川県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	0 (26)	5 (16)	5 (18)
愛媛県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	0 (26)	5 (16)	5 (18)
高知県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	0 (26)	4 (20)	4 (25)
福岡県	1 (4)	0 (5)	1 (3)	0 (1)	3 (3)	9 (8)	13 (6)
佐賀県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	0 (26)	1 (41)	1 (45)
長崎県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	2 (8)	3 (26)	5 (18)
熊本県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	0 (26)	4 (20)	4 (25)
大分県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	0 (26)	4 (20)	4 (25)
宮崎県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	1 (13)	3 (26)	4 (25)
鹿児島県	1 (4)	0 (5)	1 (3)	0 (1)	1 (13)	8 (9)	10 (10)
沖縄県	0 (10)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	3 (3)	0 (46)	3 (34)
計	14	5	9	0	47	265	326

注 1：数値横のカッコ内は順位

注 2：都道府県合計には、不明を含む

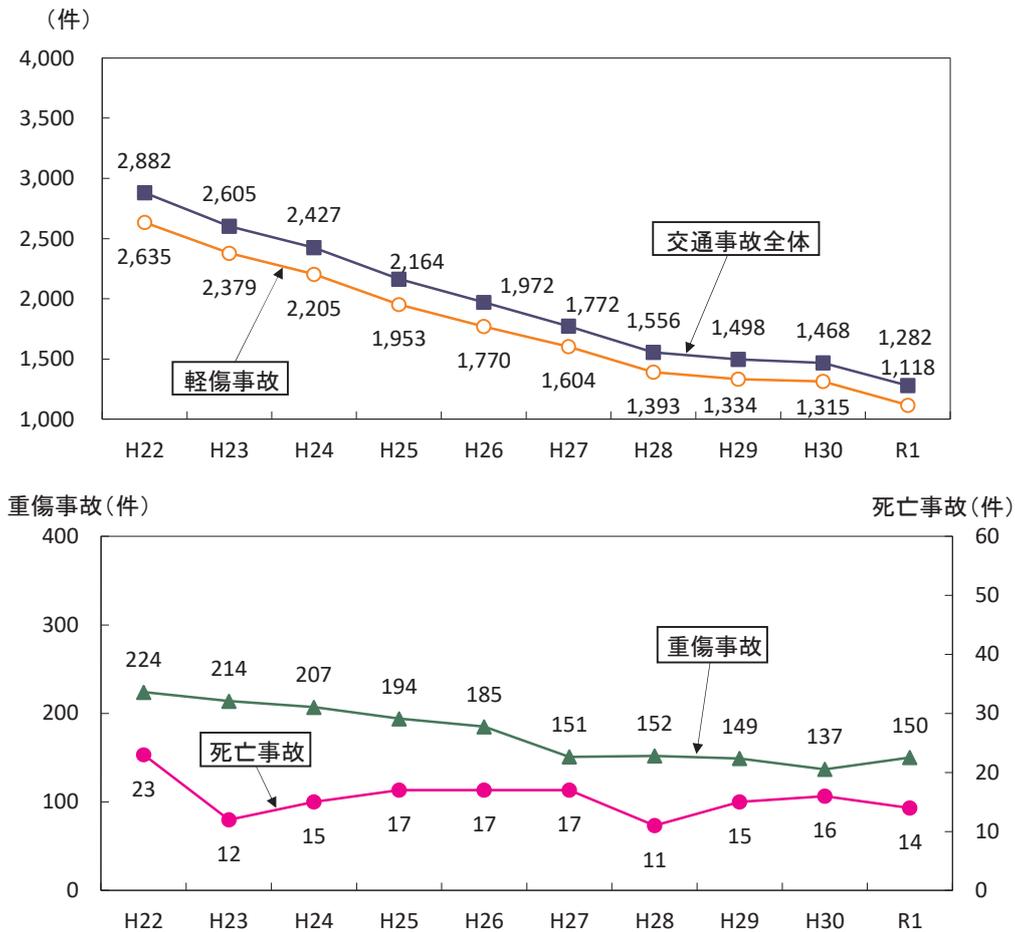
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

2. バスの事故

(1) バスの事故件数、死傷事故件数の推移

バスによる事故は、総件数、軽傷事故件数は減少しており、重傷事故件数は増加している。死亡事故件数は令和元年は前年と同程度であり、10年間で11件～23件で推移しており、減少傾向は見られない。

〔図 24〕 バスの全事故及び死傷事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 25〕 バスの事故件数の推移（件）

区分 年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H22	23	224	2,635	2,882
H23	12	214	2,379	2,605
H24	15	207	2,205	2,427
H25	17	194	1,953	2,164
H26	17	185	1,770	1,972
H27	17	151	1,604	1,772
H28	11	152	1,393	1,556
H29	15	149	1,334	1,498
H30	16	137	1,315	1,468
R1	14	150	1,118	1,282

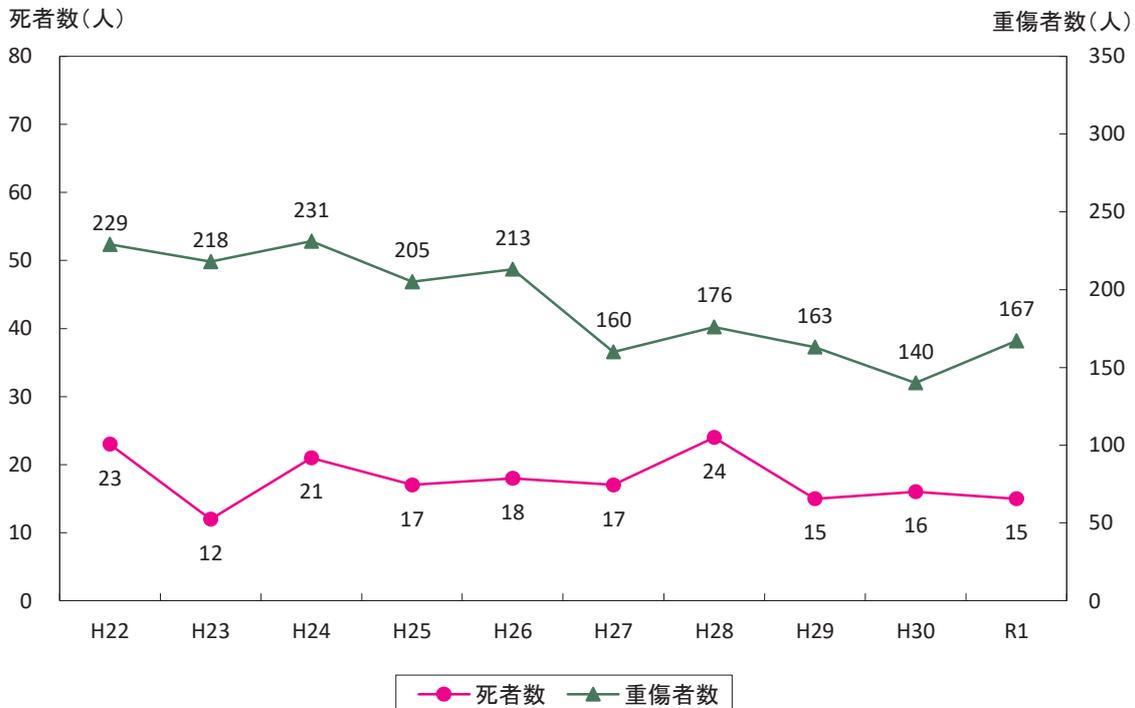
※バス種別区分の乗合、貸切、その他の合計値

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) バス事故の死傷者数の推移

バスの事故による重傷者数は減少傾向にあったが、令和元年は前年より27人増加した。死者数は10年間で12人～24人で推移しており、減少傾向は見られない。

〔図 25〕 バス事故の死傷者数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 26〕 バスの死傷者数の推移(人)

年	区分	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H22		23	229	3,300	3,552
H23		12	218	3,090	3,320
H24		21	231	2,831	3,083
H25		17	205	2,650	2,872
H26		18	213	2,355	2,586
H27		17	160	2,148	2,325
H28		24	176	1,923	2,123
H29		15	163	1,748	1,926
H30		16	140	1,734	1,890
R1		15	167	1,485	1,667

※バス種別区分の乗合、貸切、その他の合計値

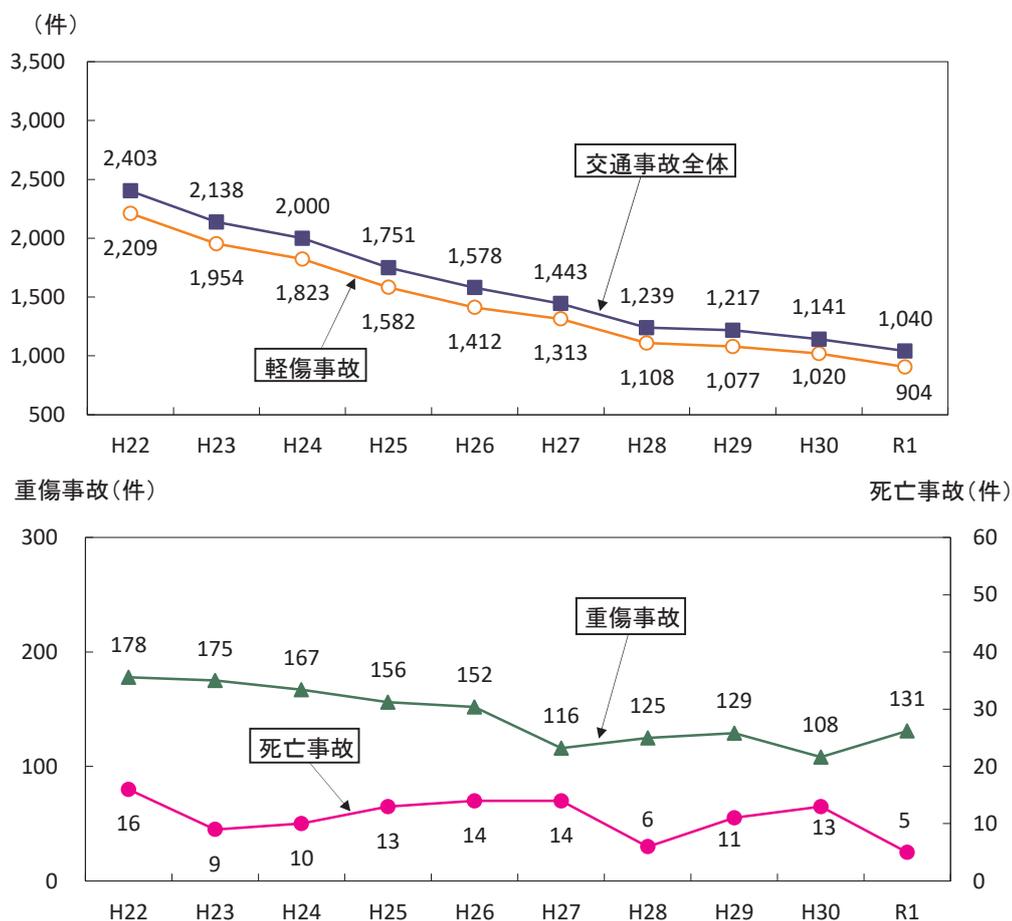
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

2-1. 乗合バスの事故

(1) 乗合バスの事故件数、死傷事故件数の推移

乗合バスによる事故件数は、全体では減少傾向にある。死亡事故件数は10年間で5件～16件で推移しており、令和元年は5件に減少している。

〔図 26〕 乗合バスの全事故及び死傷事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 27〕 乗合バスの事故件数の推移（件）

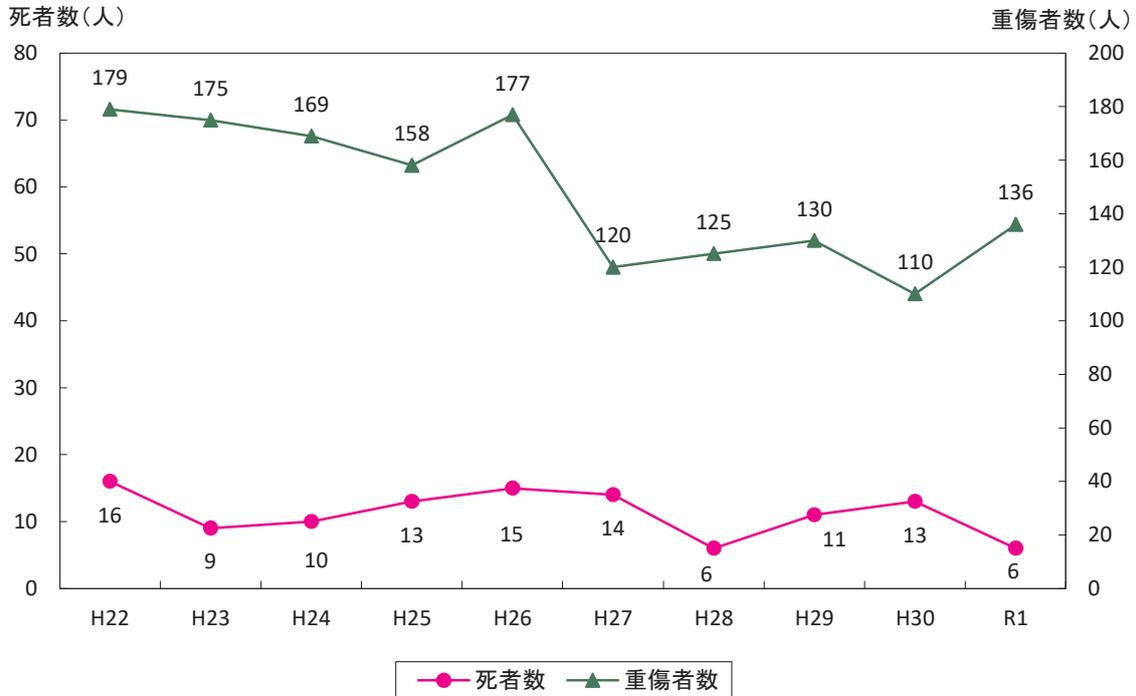
年	区分	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H22		16	178	2,209	2,403
H23		9	175	1,954	2,138
H24		10	167	1,823	2,000
H25		13	156	1,582	1,751
H26		14	152	1,412	1,578
H27		14	116	1,313	1,443
H28		6	125	1,108	1,239
H29		11	129	1,077	1,217
H30		13	108	1,020	1,141
R1		5	131	904	1,040

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 乗合バス事故の死傷者数の推移

乗合バスの事故のうち重傷者数は、令和元年は前年より 26 人増加している。死者数は 10 年間で 6 人～16 人で推移しており、減少傾向は見られない。

〔図 27〕 乗合バス事故の死傷者数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 28〕 乗合バス事故の死傷者数の推移（人）

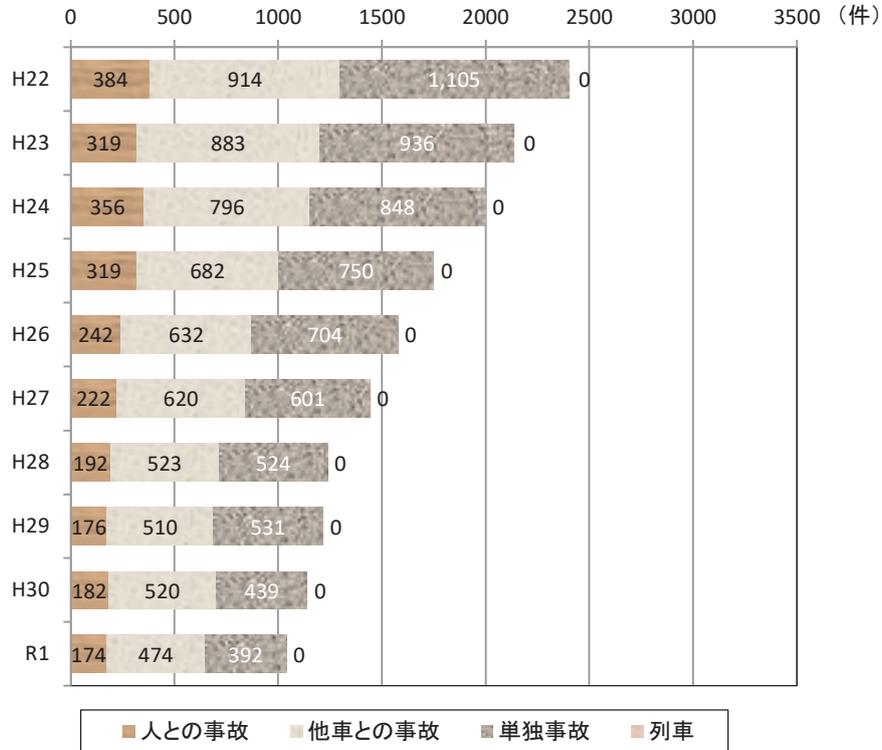
年	区分	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H22		16	179	2,653	2,848
H23		9	175	2,326	2,510
H24		10	169	2,139	2,318
H25		13	158	1,895	2,066
H26		15	177	1,741	1,933
H27		14	120	1,605	1,739
H28		6	125	1,351	1,482
H29		11	130	1,311	1,452
H30		13	110	1,306	1,429
R1		6	136	1,134	1,276

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 乗合バスの事故類型別事故件数

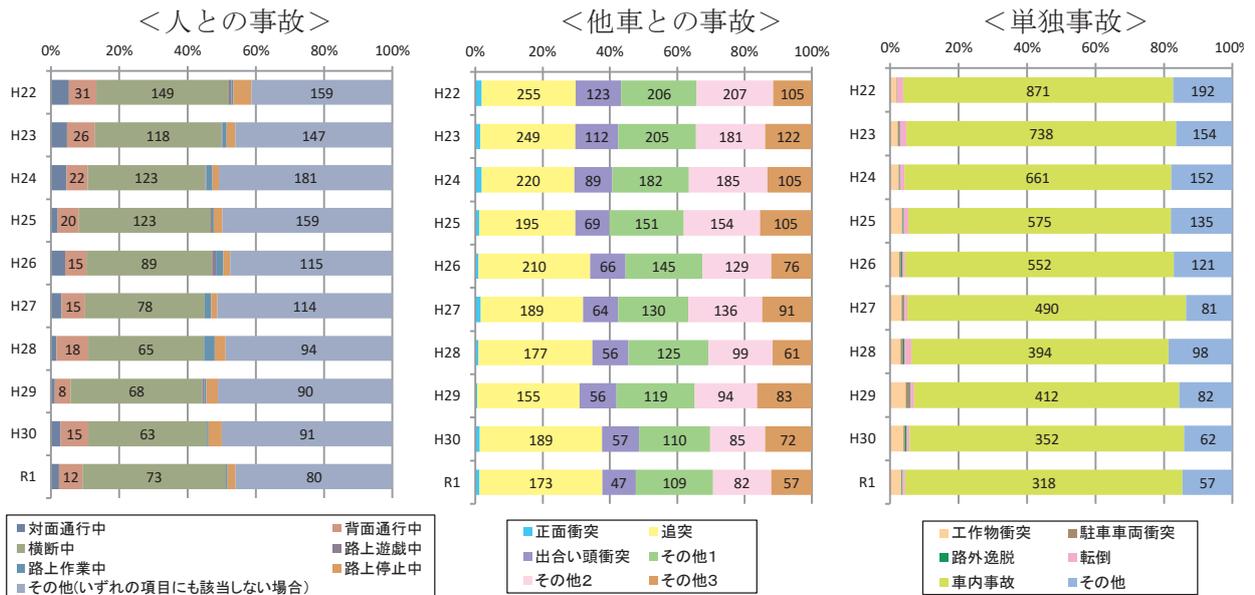
乗合バスの事故類型は他車との事故が最も多くなっている。単独事故の大半は車内事故が占めている。

[図 28] 乗合バスの事故類型別事故件数



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 29] 乗合バスの事故類型別事故件数の内訳



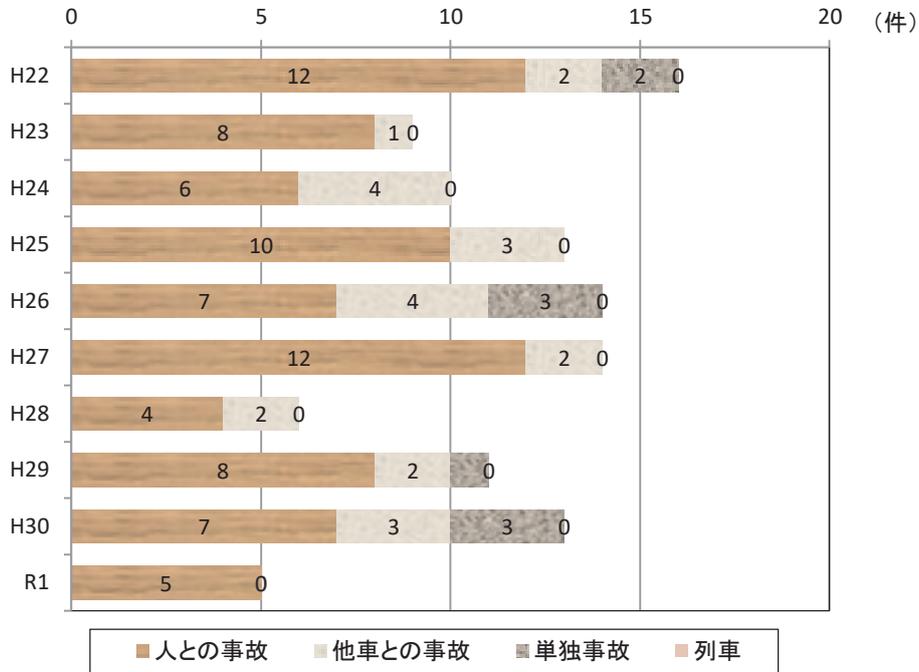
その他 1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他 2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他 3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故」

(4) 乗合バスの事故類型別死亡事故件数

事故類型別死亡事故件数は、人との事故が大半を占めており、令和元年は人との事故のみであった。

〔図 30〕 乗合バスの事故類型別死亡事故件数

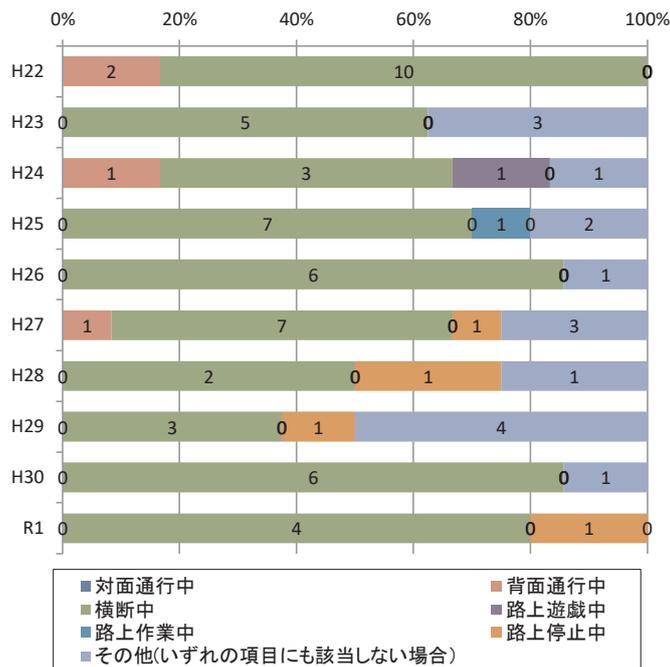


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(5) 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（人との事故）

人との死亡事故は、歩行者が横断中に発生する件数が多い。

〔図 31〕 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（人との事故）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（他車との事故）

他車との事故における死亡事故は、10年間で0件～4件となっている。

〔表 29〕 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（件）（他車との事故）

年	区分	正面衝突	追突	出合い頭衝突	その他1	その他2	その他3
H22		0	0	0	1	1	0
H23		0	0	1	0	0	0
H24		1	0	2	0	1	0
H25		0	0	1	0	2	0
H26		0	1	1	0	2	0
H27		0	0	0	0	1	1
H28		0	1	0	0	1	0
H29		0	0	0	1	1	0
H30		0	0	2	0	1	0
R1		0	0	0	0	0	0

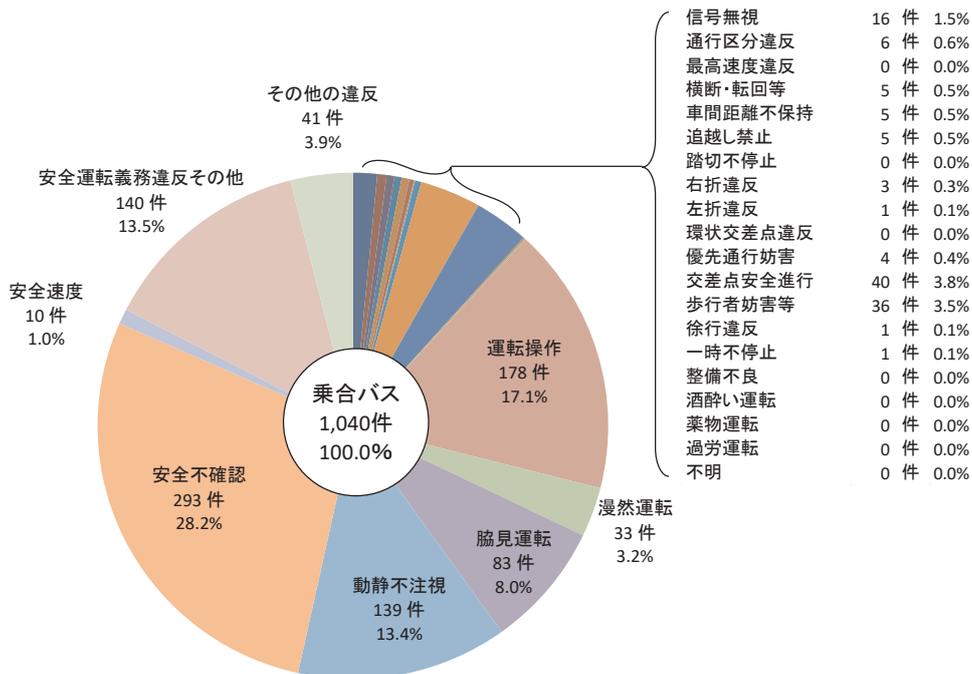
その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故」

(7) 乗合バスの事故の法令違反別の事故件数の割合

乗合バスでは、「安全不確認」293件（28.2%）、「運転操作」178件（17.1%）、「動静不注視」139件（13.4%）といった法令違反の事故が多い。「運転操作」は車内事故発生の要因の一つと考えられる。

〔図 32〕 乗合バスの事故の法令違反別の事故件数の割合（令和元年）

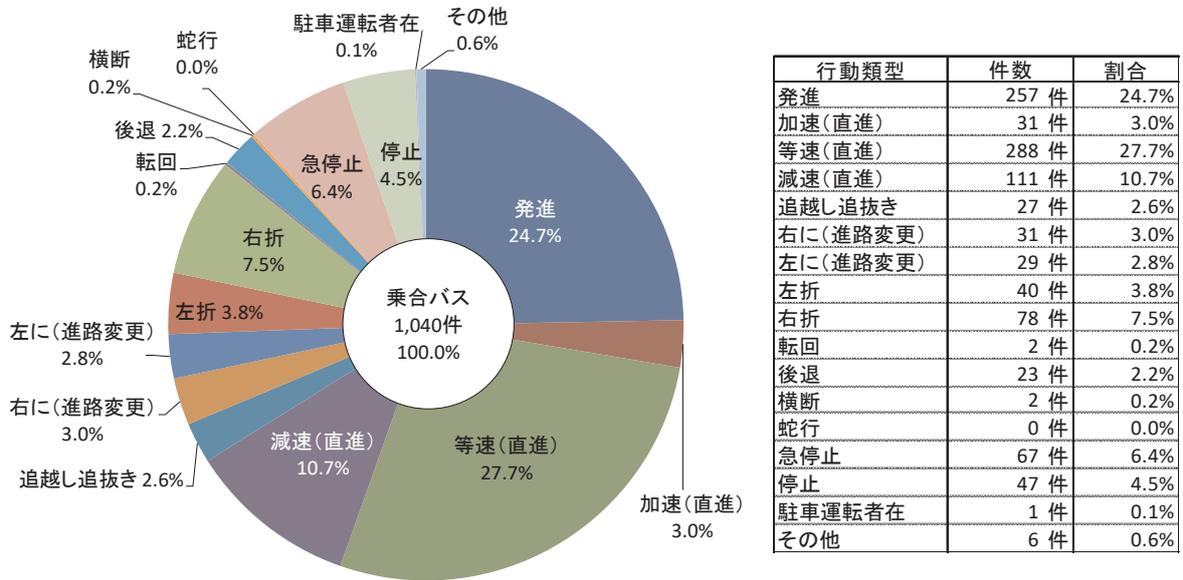


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) 乗合バスの行動類型別事故件数の割合

乗合バスの行動類型別事故の割合は、等速（直進）時288件（27.7%）が最も多く、次いで発進時257件（24.7%）となっている。

〔図 33〕 乗合バスの行動類型別事故件数の割合（令和元年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(9) 乗合バスの事故類型別、衝突地点別事故件数

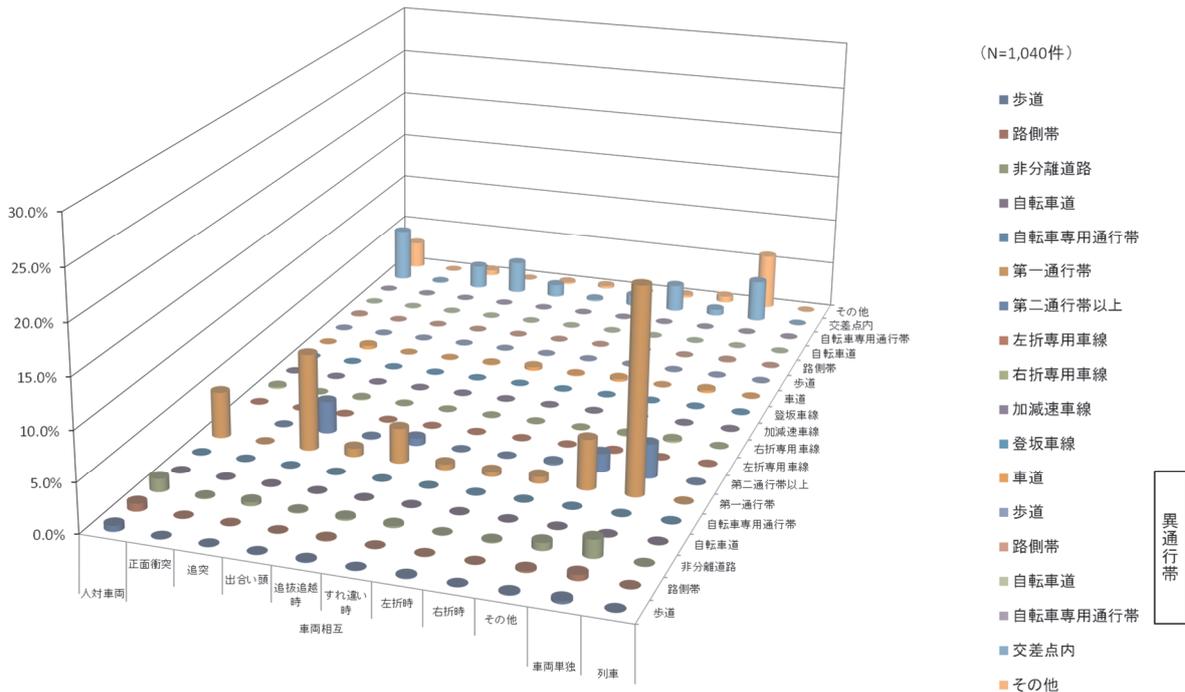
乗合バスの事故類型別、衝突地点別事故件数と構成比をそれぞれ表30、図34に、死亡事故件数と構成比を表31、図35に示す。事故件数については、第一通行帯での単独事故214件(20.6%)が最も多く、死亡事故件数については、件数が少ないため、大きな特徴は見られない。

[表30] 乗合バスの事故類型別、衝突地点別事故件数(件) (令和元年)

		バス												
		乗合												
		人対車両	車両相互									車両単独	列車	合計
			正面衝突	追突	出合い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他				
単路(交差点付近を含む)	歩道	6	0	0	0	1	0	1	0	1	3	0	12	
	路側帯	8	0	0	0	1	0	0	0	2	6	0	17	
	非分離道路	14	1	4	1	2	2	0	1	8	19	0	52	
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	第一通行帯	49	0	102	9	37	6	5	7	53	214	0	482	
	第二通行帯以上	5	0	34	1	8	0	0	2	19	36	0	105	
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
	右折専用車線	2	0	1	0	0	0	0	0	1	2	0	6	
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
異通行帯	車道	0	4	0	0	1	4	1	3	0	3	0	16	
	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	路側帯	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
交差点内		59	1	26	36	14	2	12	30	7	46	0	233	
その他		30	0	6	0	2	3	0	3	7	62	0	113	
合計		174	6	173	47	66	17	19	46	100	392	0	1,040	

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図34] 乗合バスの事故類型別、衝突地点別事故件数の構成比(%) (令和元年)



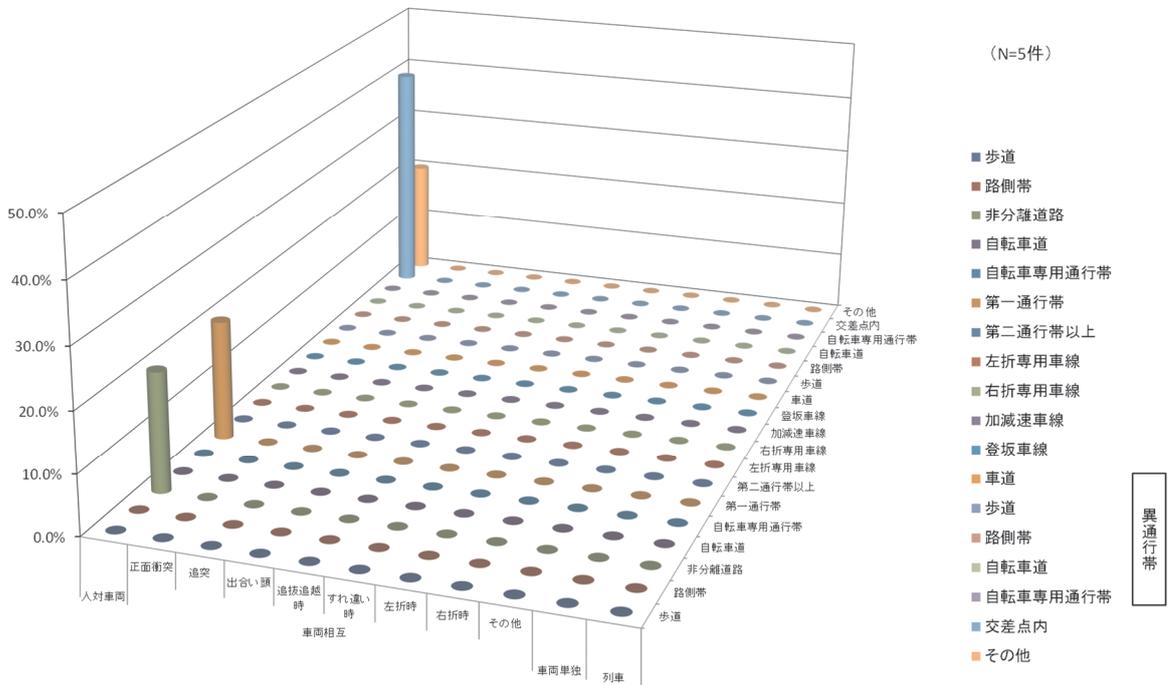
出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[表 31] 乗合バスの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数（件）（令和元年）

		バス												
		乗合												
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計	
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他						
単路（交差点付近を含む）	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非分離道路	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第一通行帯	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	第二通行帯以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	右折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
交差点内	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
合計	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 35] 乗合バスの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数の構成比（％）（令和元年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(10) 乗合バスの事故類型別、行動類型別事故件数

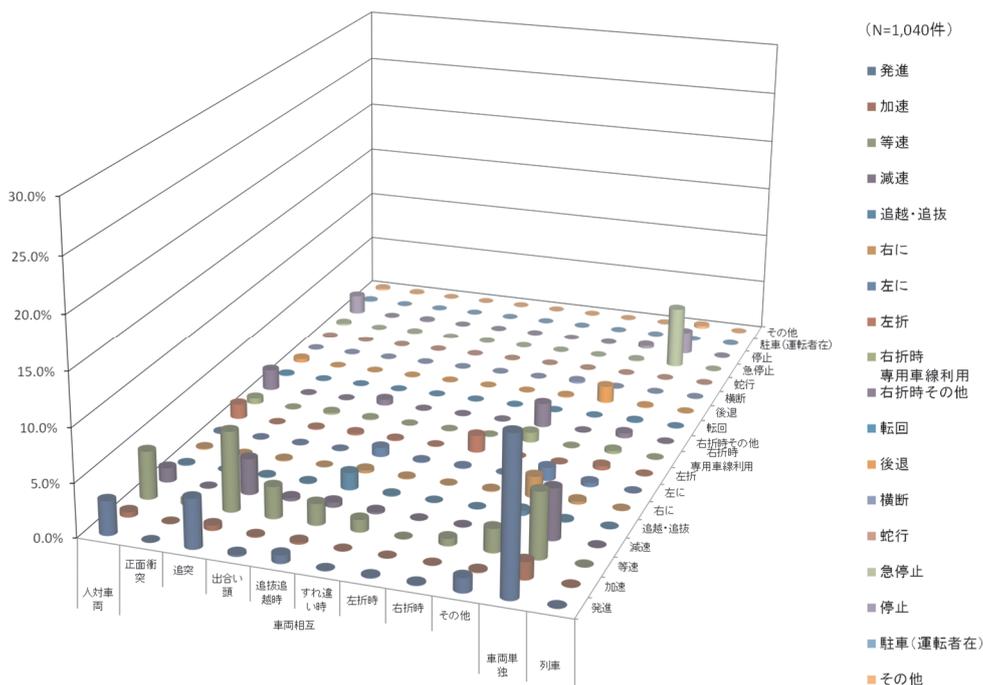
乗合バスの事故類型別、行動類型別事故件数と構成比をそれぞれ表32と図36に、死亡事故件数とその構成比をそれぞれ表33と図37に示す。事故件数については、発進時の単独事故150件（14.4%）が最も多く、死亡事故件数については、件数が少ないため、大きな特徴は見られない。

〔表 32〕 乗合バスの事故類型別、行動類型別事故件数（件）（令和元年）

		バス											合計
		乗合											
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	
正面衝突	追突		出合い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
発進		33	0	48	2	8	0	1	1	14	150	0	257
直進	加速	5	0	5	1	2	0	0	0	1	17	0	31
	等速	47	5	78	31	21	12	0	7	23	64	0	288
	減速	14	0	35	3	5	2	0	0	2	50	0	111
追越・追抜		1	0	1	1	17	1	0	0	5	1	0	27
進路変更	右に	1	0	1	0	3	1	0	1	21	3	0	31
	左に	1	0	0	0	9	1	1	0	13	4	0	29
左折		15	0	1	2	1	0	17	0	0	4	0	40
右折時	専用車線利用	6	0	2	1	0	0	0	10	0	3	0	22
	その他	21	0	0	6	0	0	0	24	0	5	0	56
転回		1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
後退		4	0	0	0	0	0	0	1	17	1	0	23
横断		0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
蛇行		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止		2	0	1	0	0	0	0	0	1	63	0	67
停止		20	0	1	0	0	0	0	0	3	23	0	47
駐車(運転者在)		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他		2	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	6
合計		174	6	173	47	66	17	19	46	100	392	0	1,040

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 36〕 乗合バスの事故類型別、行動類型別事故件数の構成比（%）（令和元年）



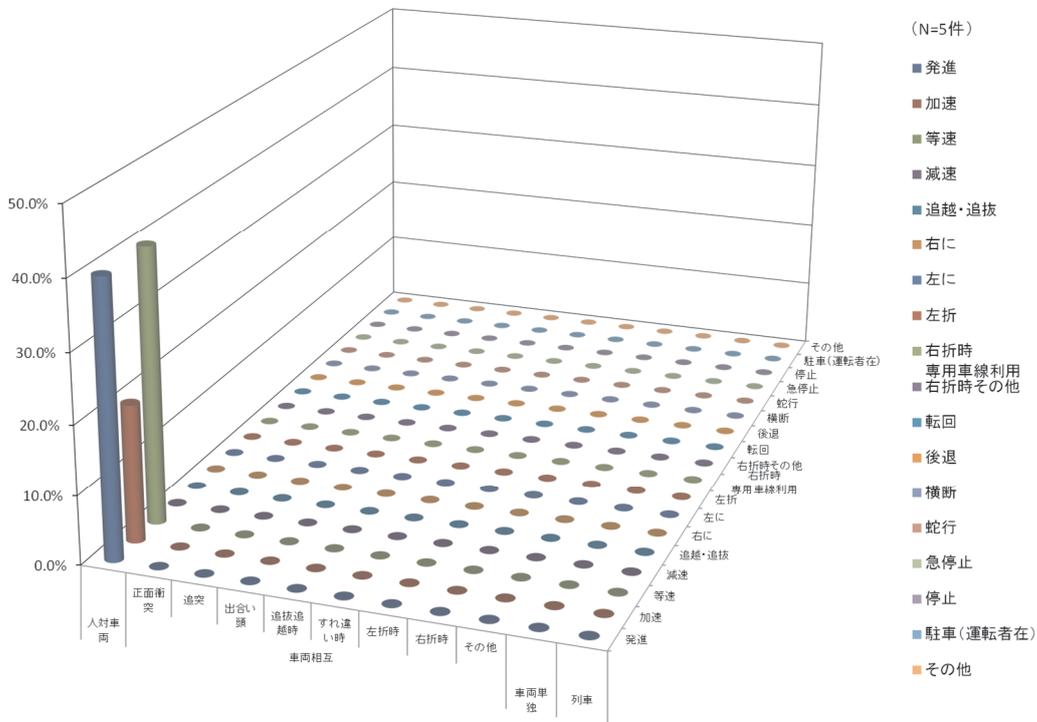
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[表 33] 乗合バスの事故類型別、行動類型別死亡事故件数（件）（令和元年）

		バス											
		乗合											
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
正面衝突	追突		出合い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
発進		2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
直進	加速	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	等速	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	減速	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
追越・追抜		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
進路変更	右に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	左に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左折		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右折時	専用車線利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
転回		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
後退		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
横断		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蛇行		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
駐車(運転者在)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 37] 乗合バスの事故類型別、行動類型別死亡事故件数の構成比（%）（令和元年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(11) 乗合バスの行動類型別、車内事故件数の推移

乗合バスの車内事故件数は、令和元年は減少し318件となった。平成22年から約10年で6割以上減少したが、事故件数は依然深刻な事態であることを示している。

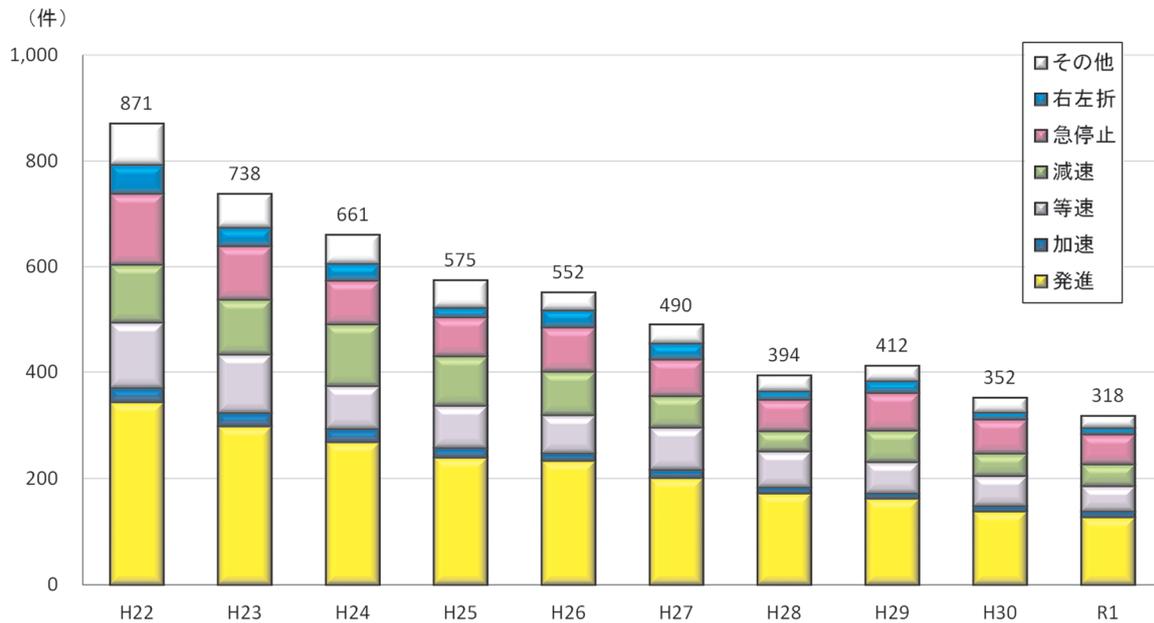
また、令和元年に発生した車内事故 318件のうち、行動類型別にみると、発進時が最も多く127件（39.9%）となっており、次いで急停止時56件（17.6%）となっている。

〔表 34〕 乗合バスの行動類型別、車内事故件数の推移（件）

年		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
区分	発進	343	298	268	239	233	201	172	162	138	127
直進	加速	27	25	25	18	14	15	11	10	10	11
	等速	123	110	81	80	72	80	68	59	57	48
	減速	111	105	116	93	82	59	38	59	42	41
	急停止	134	101	84	73	83	69	59	71	64	56
	右左折	55	35	32	20	34	30	16	22	13	12
	その他	78	64	55	52	34	36	30	29	28	23
	合計	871	738	661	575	552	490	394	412	352	318

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 38〕 乗合バスの行動類型別、車内事故件数の推移

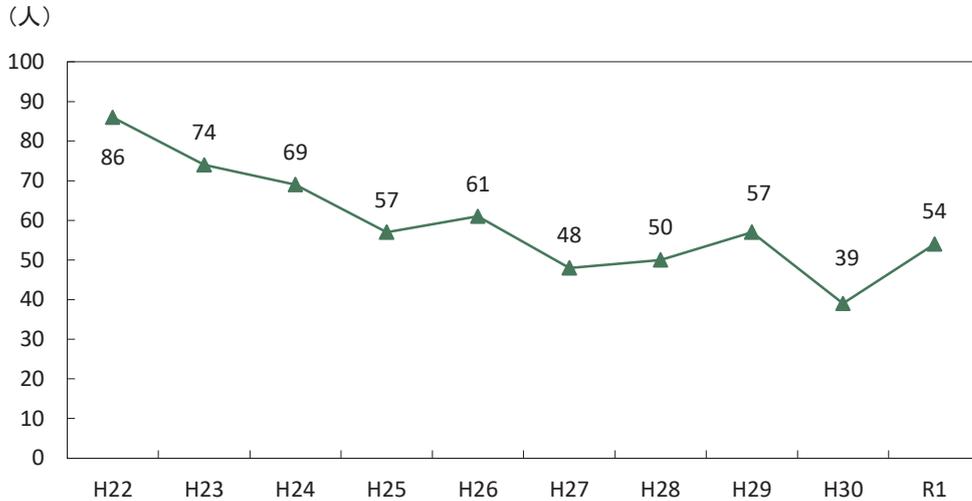


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(12) 乗合バスの車内事故による重傷者数の推移

乗合バスの車内事故による重傷者数は、令和元年は前年と比べて15人増加している。

〔図 39〕 乗合バスの車内事故による重傷者数の推移

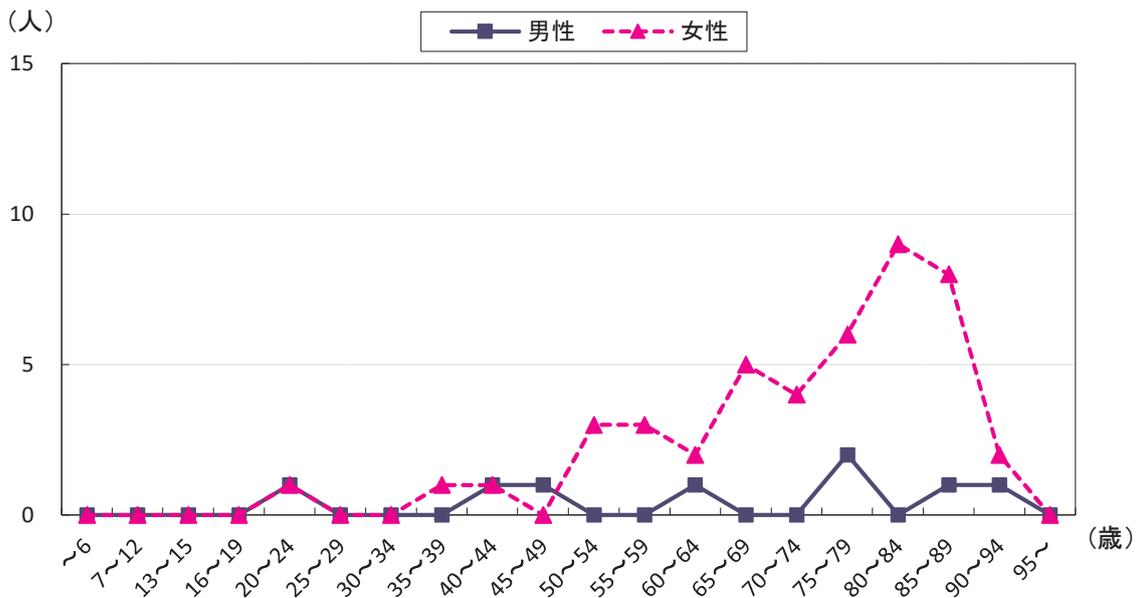


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(13) 乗合バスの車内事故による重傷者数の男女別年齢分布

乗合バスの車内事故による重傷者数を性・年齢別にみると、女性の65歳以上から多くなり、80歳～84歳が9人と最も多く前年と同様の傾向、また90歳以上から少なくなる。

〔図 40〕 乗合バスの車内事故による重傷者数の男女別年齢分布（令和元年）

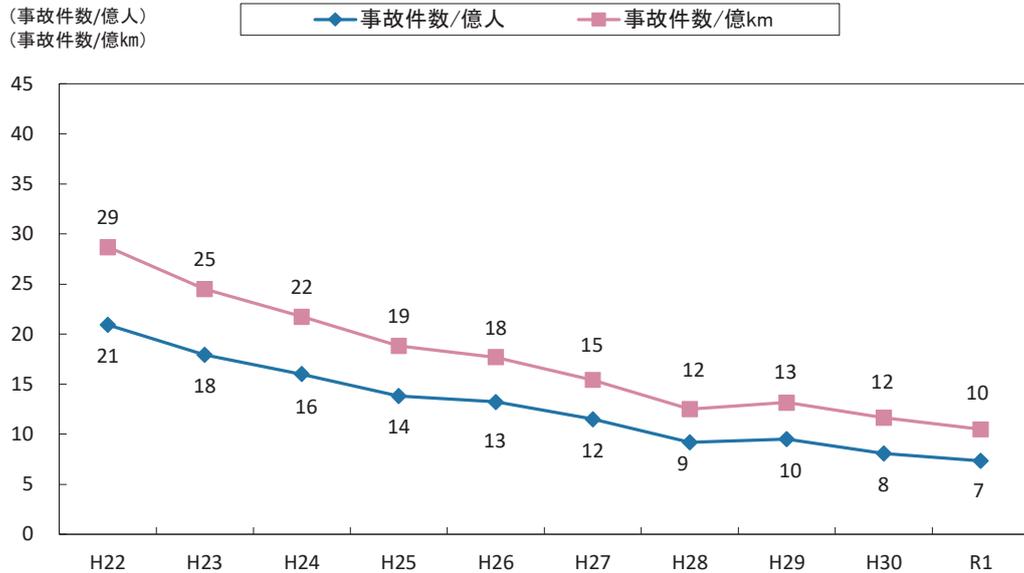


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(14) 乗合バスの 輸送人員 1 億人あたり及び走行距離 1 億キロあたり車内事故件数

輸送人員 1 億人あたり及び走行距離 1 億キロあたり乗合バスの車内事故件数をみると、減少傾向である。輸送人員と走行距離にはほぼ変化がないことから、車内事故件数自体が減っていることを示している。

〔図 41〕 乗合バスの輸送人員 1 億人あたり及び走行距離 1 億キロあたり車内事故件数の推移



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

〔表 35〕 乗合バスの車内事故件数、輸送人員及び走行距離の推移

	事故件数(件)	輸送人員(億人)	走行距離(億km)
H22	871	42	30
H23	738	41	30
H24	661	41	30
H25	575	42	31
H26	552	42	31
H27	490	43	32
H28	394	43	32
H29	412	43	31
H30	352	44	30
R1	318	43	30

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

(15) 乗合バスの車内事故件数の事故種類別時間帯分布

乗合バスの車内事故件数を時間帯別にみると、8時～18時台の日中の時間帯に多く発生している。

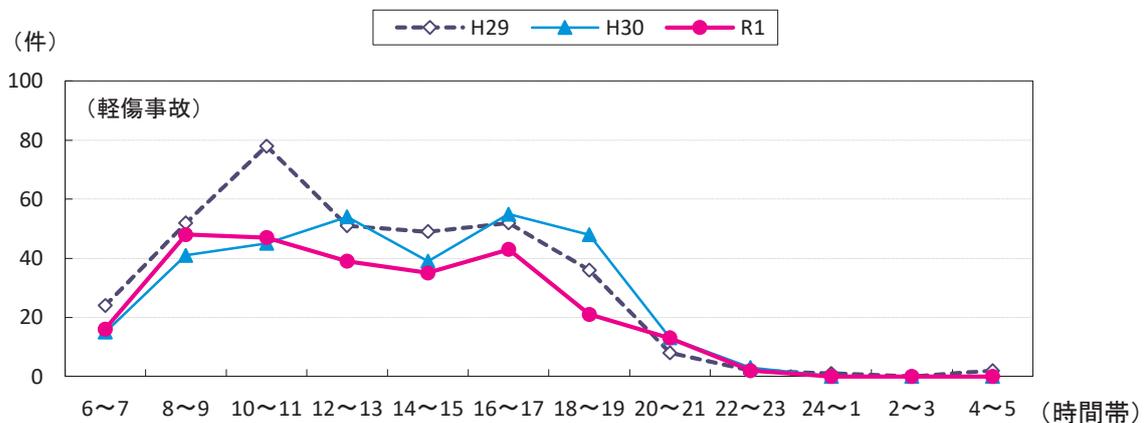
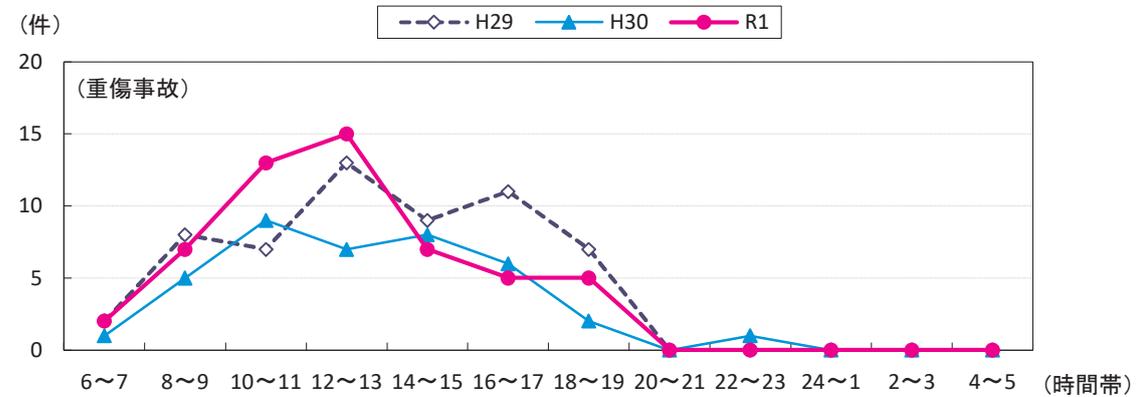
〔表 36〕 乗合バス車内事故件数の事故種類別時間帯分布（令和元年）

時間帯	重傷事故	軽傷事故	負傷事故計
6～7	2	16	18
8～9	7	48	55
10～11	13	47	60
12～13	15	39	54
14～15	7	35	42
16～17	5	43	48
18～19	5	21	26
20～21	0	13	13
22～23	0	2	2
24～1	0	0	0
2～3	0	0	0
4～5	0	0	0
合計	54	264	318

※運転者が負傷した事故を含む。

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 42〕 乗合バス車内事故件数の事故種類別時間帯分布



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(16) 乗合バスの車内事故による事故種類別負傷者数の年齢分布

乗合バスの車内事故による負傷者数を年齢層別にみると、80歳～84歳が46人（13.5%）と最も多く、65歳以上が183人（53.5%）と高齢者が半数以上を占めている。

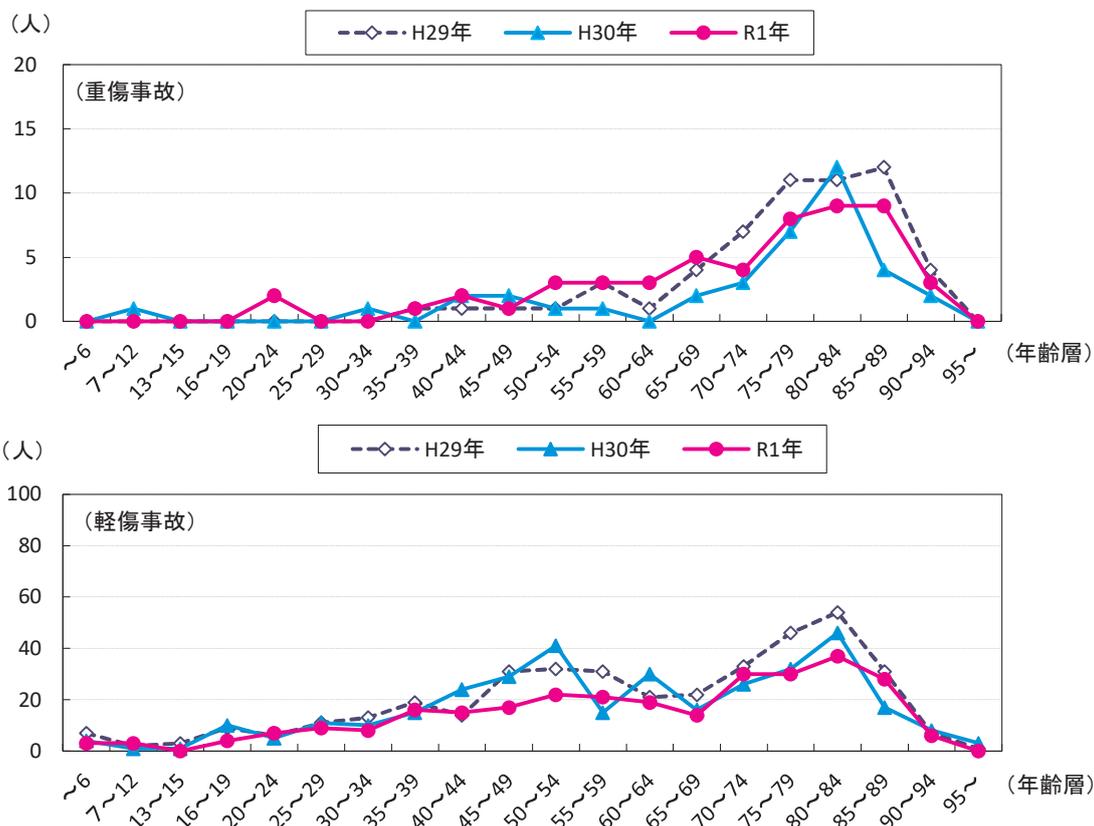
さらに重傷者数は65歳以上が53人中38人（71.7%）で、高齢者の比率の高さが顕著となっている。

〔表 37〕 乗合バスの車内事故による事故種類別負傷者数の年齢分布（人）（令和元年）

年齢層	重傷者数	軽傷者数	負傷者計
～ 6	0	3	3
7～12	0	3	3
13～15	0	0	0
16～19	0	4	4
20～24	2	7	9
25～29	0	9	9
30～34	0	8	8
35～39	1	16	17
40～44	2	15	17
45～49	1	17	18
50～54	3	22	25
55～59	3	21	24
60～64	3	19	22
65～69	5	14	19
70～74	4	30	34
75～79	8	30	38
80～84	9	37	46
85～89	9	28	37
90～94	3	6	9
95～	0	0	0
合計	53	289	342

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 43〕 乗合バスの車内事故による事故種類別負傷者数の年齢分布



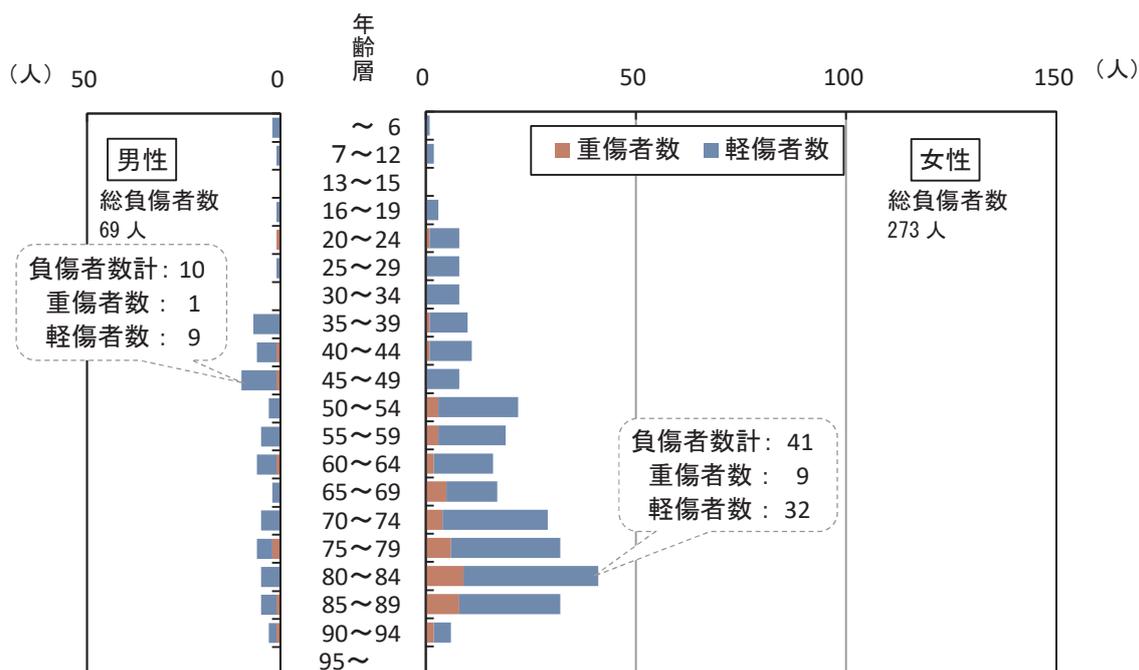
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

乗合バスの車内事故による負傷者数を男女年齢層別にみると、男性は45歳～49歳が10人（14.5%）と最も多く（うち重傷者数は1人）、65歳以上が26人（37.7%）と高齢者が多い傾向にある。

女性では80歳～84歳が41人（15.0%）と最も多く（うち重傷者数は9人）、65歳以上が157人（57.5%）と高齢者が過半数を占めている。

また、性別では男性より女性の負傷者数が大幅に多く、女性の負傷者数（273人）が男性の負傷者数（69人）の4倍程度となっている。

〔図44〕 乗合バスの車内事故による男女別年齢層別負傷者数（令和元年）



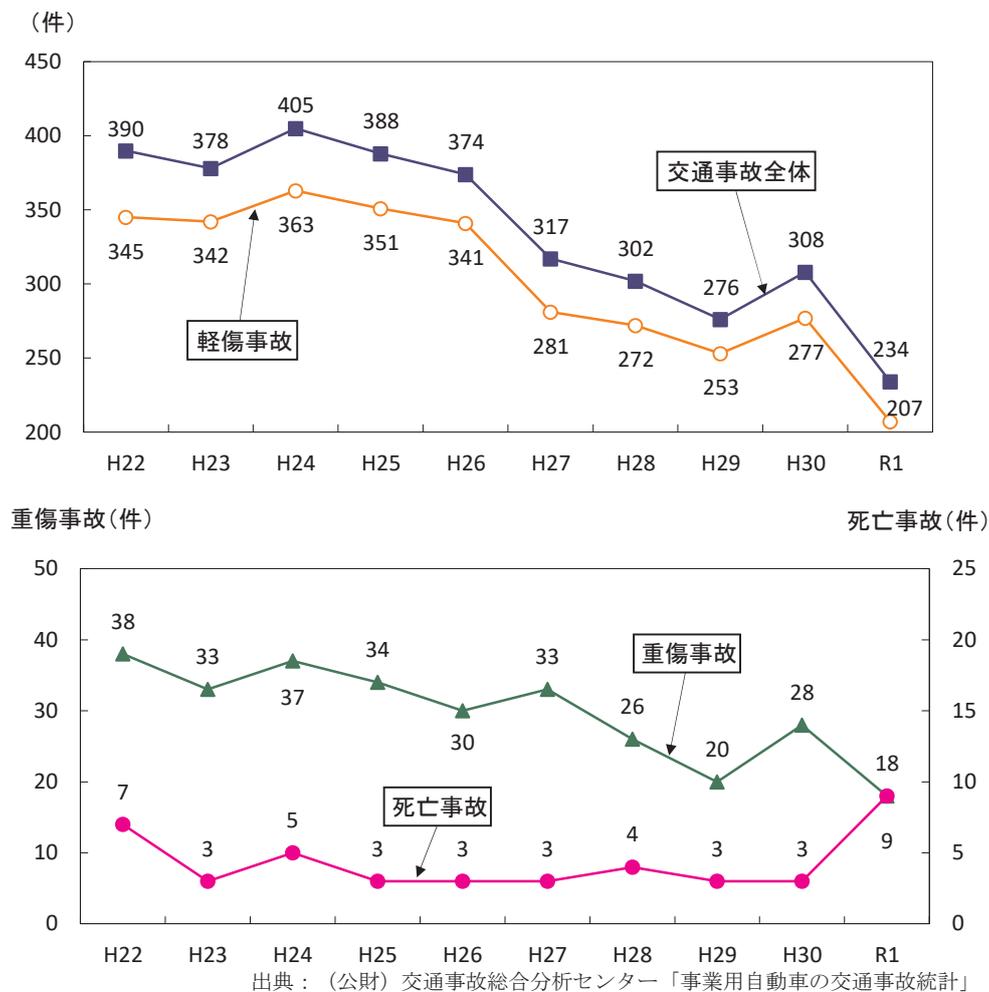
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

2-2. 貸切バスの事故

(1) 貸切バスの事故件数、死傷事故件数の推移

貸切バスの事故件数は、近年は減少傾向となっており、前年は増加したものの令和元年は減少したが、死亡事故件数は令和元年は増加している。

〔図 45〕 貸切バスの全事故及び死傷事故件数の推移



〔表 38〕 貸切バスの事故件数（件）

区分 年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H22	7	38	345	390
H23	3	33	342	378
H24	5	37	363	405
H25	3	34	351	388
H26	3	30	341	374
H27	3	33	281	317
H28	4	26	272	302
H29	3	20	253	276
H30	3	28	277	308
R1	9	18	207	234

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

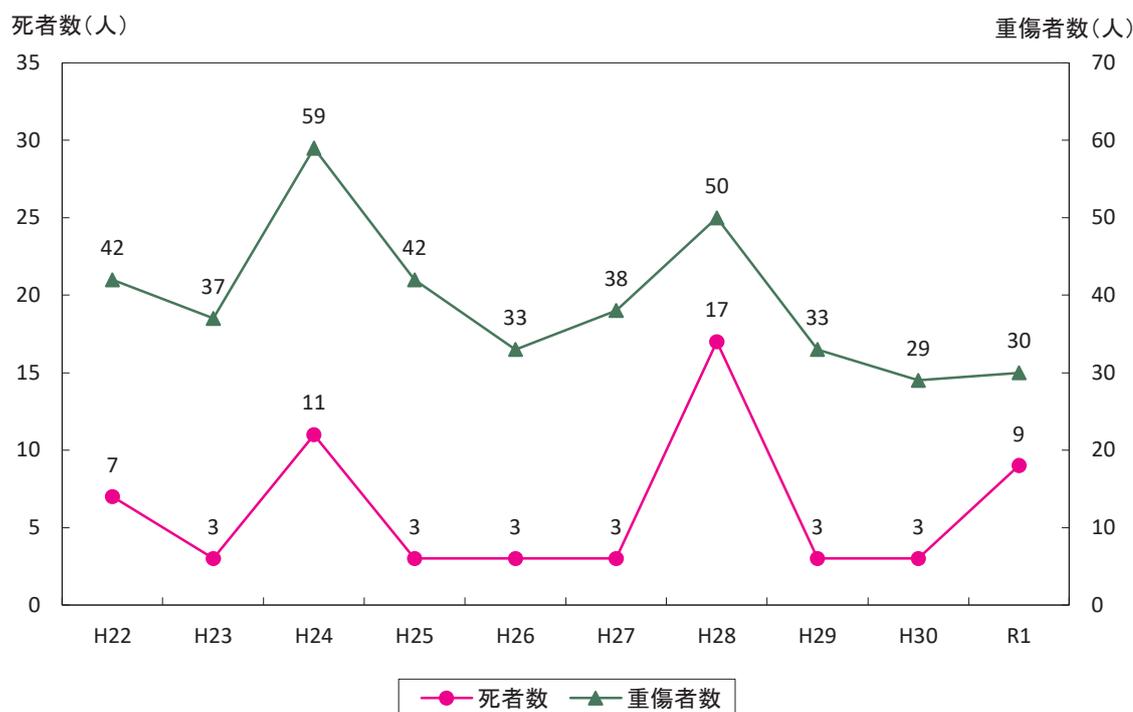
(2) 貸切バスの事故の死傷者数の推移

貸切バスの事故の死傷者数は、平成24年から平成26年まで減少傾向となったものの、その後増加し、近年横ばい傾向となっているが、令和元年は死者数は増加している。

※平成24年は関越道における高速ツアーバス事故の影響により増加

※平成28年は軽井沢スキーバス事故の影響により増加

〔図 46〕 貸切バス事故の死傷者数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 39〕 貸切バス事故の死傷者数の推移（人）

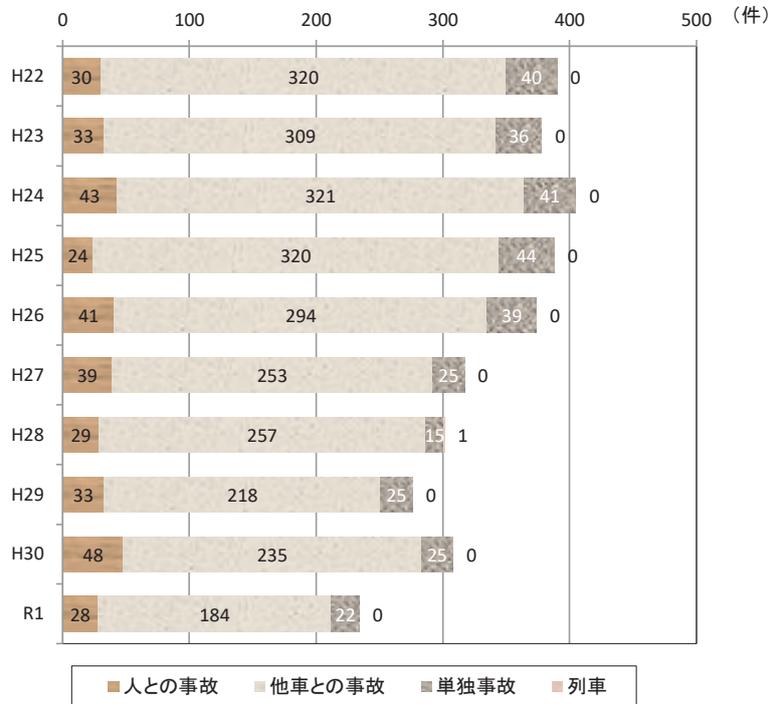
年 \ 区分	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H22	7	42	555	604
H23	3	37	633	673
H24	11	59	655	725
H25	3	42	700	745
H26	3	33	587	623
H27	3	38	524	565
H28	17	50	558	625
H29	3	33	432	468
H30	3	29	399	431
R1	9	30	343	382

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 貸切バスの事故類型別事故件数の推移

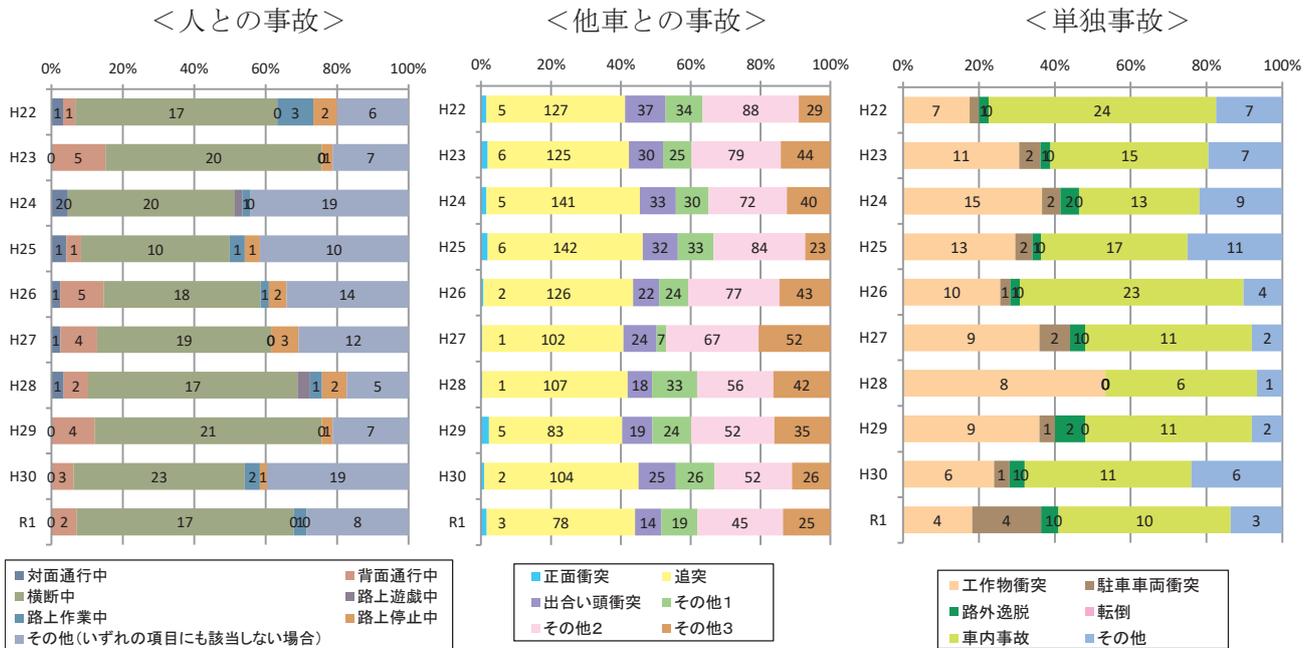
貸切バスの事故の類型別件数は、他車との事故が8割近くとなっており最も多い。他車との事故のうち追突事故が4割を超えている。

[図 47] 貸切バスの事故類型別事故件数



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 48] 貸切バスの事故類型別事故件数の内訳の推移



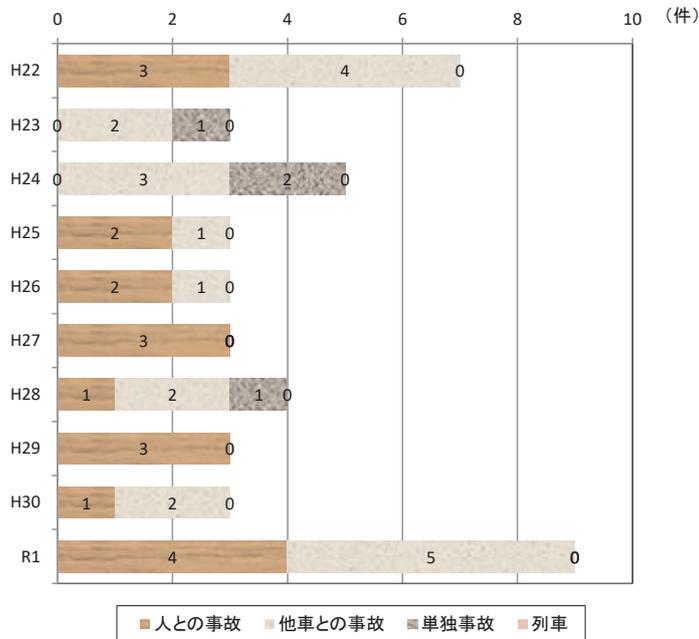
その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(4) 貸切バスの事故類型別死亡事故件数の推移

貸切バスの事故類型別死亡事故件数は、令和元年は人との事故4件、他車との事故5件と増加しており、平成22年からの10年間で最も多い。

〔図 49〕 貸切バスの事故類型別死亡事故件数



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(5) 貸切バスの事故類型別死亡事故件数の内訳の推移（他車との事故）

他車との事故の事故類型別内訳には、顕著な傾向はみられない。

〔表 40〕 貸切バスの事故類型別死亡事故件数の内訳の推移（件）（他車との事故）

区分 年	正面衝突	追突	出合い頭衝突	その他1	その他2	その他3
H22	1	0	2	1	0	0
H23	0	1	1	0	0	0
H24	0	1	0	0	1	1
H25	0	1	0	0	0	0
H26	0	0	1	0	0	0
H27	0	0	0	0	0	0
H28	0	0	0	1	1	0
H29	0	0	0	0	0	0
H30	0	0	1	1	0	0
R1	0	2	1	1	0	1

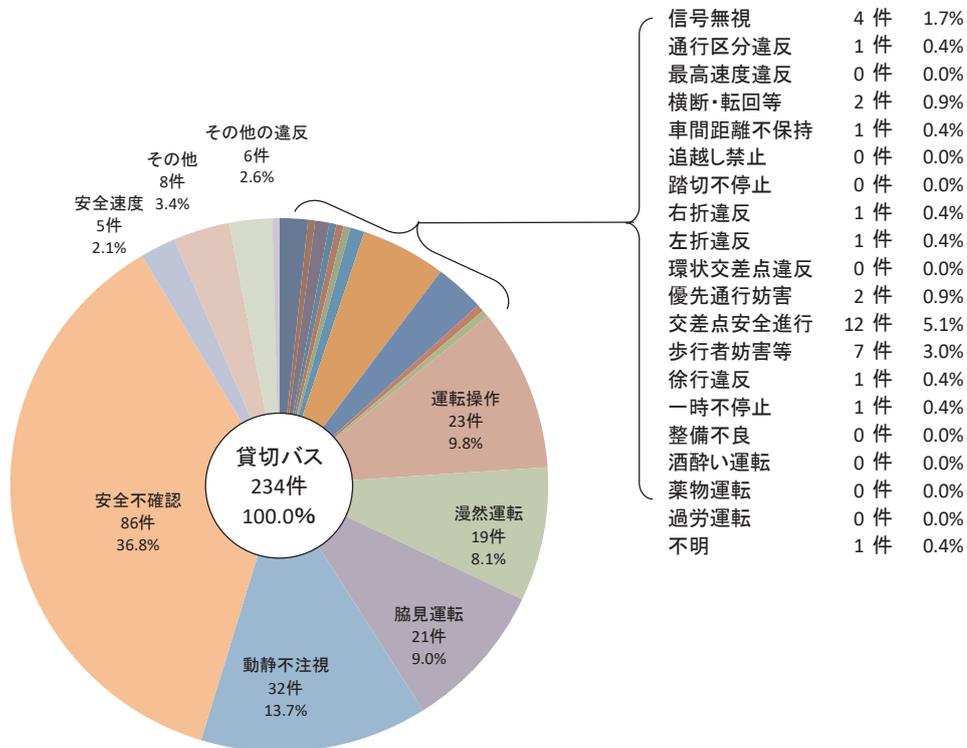
その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) 貸切バスの事故の法令違反別の事故件数の割合

貸切バスの法令違反別の事故件数をみると、「安全不確認」86件（36.8%）、「動静不注意」32件（13.7%）、「運転操作」23件（9.8%）などが多くなっている。

[図 50] 貸切バスの事故の法令違反別の事故件数の割合（令和元年）

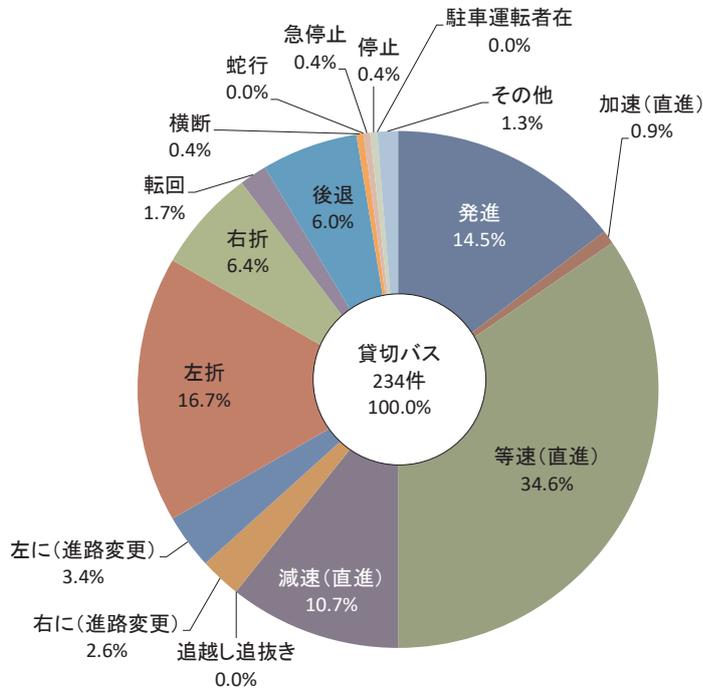


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(7) 貸切バスの行動類型別事故件数の割合

貸切バスの行動類型別事故件数の割合をみると、等速（直進）時81件（34.6%）が最も多く、次いで左折時39件（16.7%）、発進時34件（14.5%）となっている。

〔図 51〕 貸切バスの行動類型別事故件数の割合（令和元年）



行動類型	件数	割合
発進	34 件	14.5%
加速(直進)	2 件	0.9%
等速(直進)	81 件	34.6%
減速(直進)	25 件	10.7%
追越し追抜き	0 件	0.0%
右に(進路変更)	6 件	2.6%
左に(進路変更)	8 件	3.4%
左折	39 件	16.7%
右折	15 件	6.4%
転回	4 件	1.7%
後退	14 件	6.0%
横断	1 件	0.4%
蛇行	0 件	0.0%
急停止	1 件	0.4%
停止	1 件	0.4%
駐車運転者在	0 件	0.0%
その他	3 件	1.3%

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) 貸切バスの事故類型別、衝突地点別事故件数

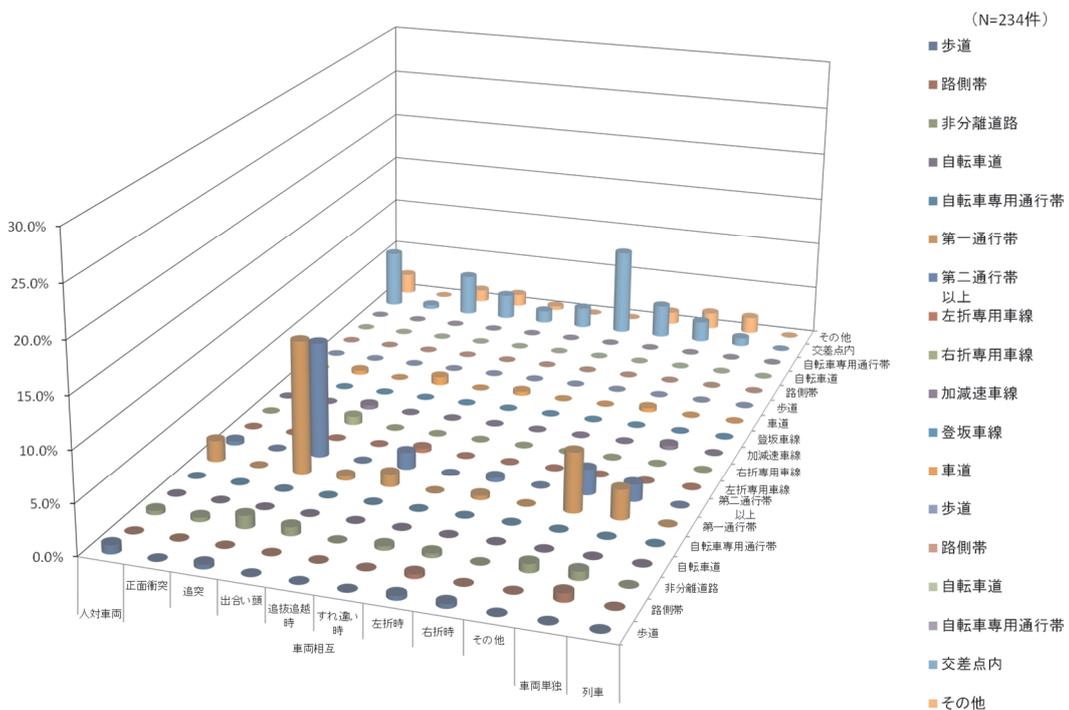
貸切バスの事故類型別、衝突地点別事故件数と構成比を表41と図52に、死亡事故件数と構成比を表42と図53に示す。事故件数については、第一通行帯での追突事故31件(13.2%)が最も多く、死亡事故件数については、交差点内での人対車両3件(33.3%)が最も多い。

[表 41] 貸切バスの事故類型別、衝突地点別事故件数 (件) (令和元年)

		バス											合計
		貸切											
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
単路 (交差点付近を含む)	歩道	2	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	5
	路側帯	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	3
	非分離道路	1	1	3	2	0	1	1	0	2	2	0	13
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第一通行帯	5	0	31	1	3	0	1	0	14	7	0	62
	第二通行帯以上	1	0	27	0	4	0	1	0	6	4	0	43
	左折専用車線	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	右折専用車線	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	加減速車線	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
異通行帯	車道	0	1	0	2	0	1	0	0	1	0	0	5
	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交差点内	14	1	10	6	3	5	21	8	5	2	0	75	
その他	5	0	3	3	1	0	0	3	4	4	0	23	
合計	28	3	78	14	12	7	26	12	32	22	0	234	

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 52] 貸切バスの事故類型別、衝突地点別事故件数の構成比 (%) (令和元年)



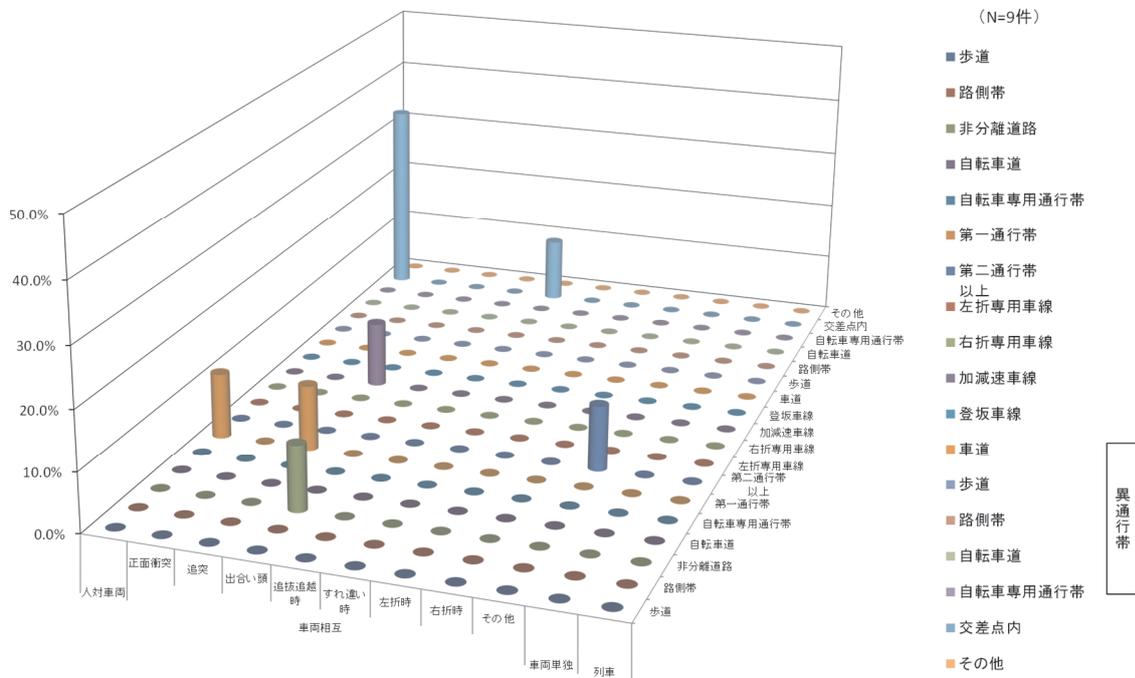
出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[表 42] 貸切バスの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数（件）（令和元年）

		バス											
		貸切											
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
正面衝突	追突		出合い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
単路（交差点付近を含む）	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非分離道路	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第一通行帯	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	第二通行帯以上	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	右折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	加減速車線	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異通行帯	車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交差点内		3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		4	0	2	1	1	0	0	0	1	0	0	9

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 53] 貸切バスの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数の構成比（%）（令和元年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(9) 貸切バスの事故類型別、行動類型別事故件数

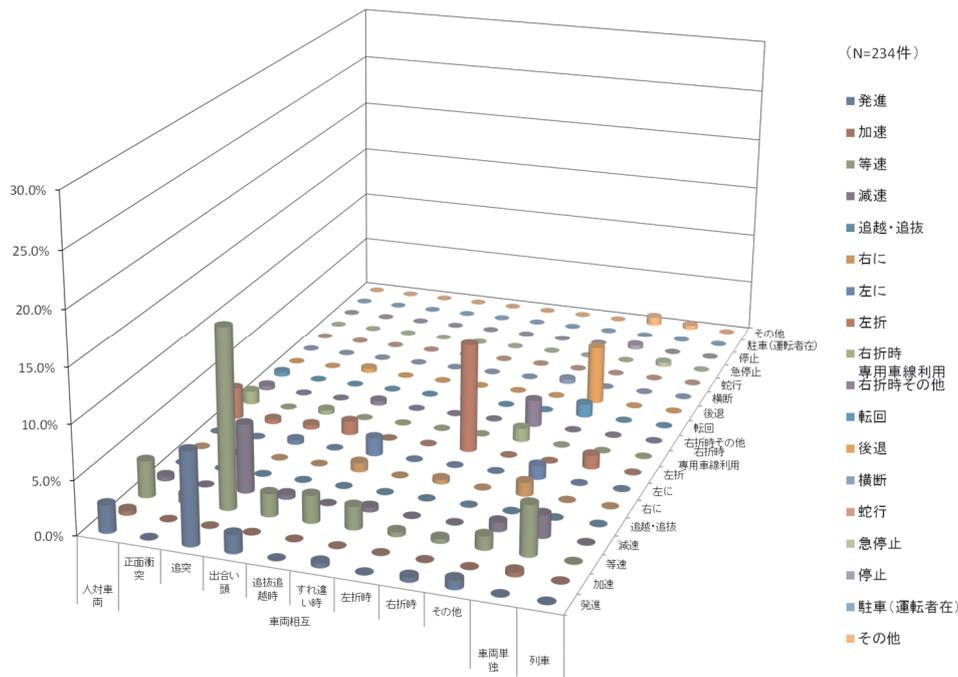
貸切バスの事故類型別、行動類型別事故件数と構成比を表43と図54に、死亡事故件数と構成比を表44と図55に示す。事故件数については、等速直進時の追突事故39件（16.7%）が最も多く、死亡事故件数については、等速直進時の人対車両事故、等速直進時の追突事故、左折時の人対車両事故がそれぞれ2件となっている。

〔表 43〕 貸切バスの事故類型別、行動類型別事故件数（件）（令和元年）

		バス											
		貸切											
		人対車両	車両相互							車両単独	列車	合計	
正面衝突	追突		出合い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
発進		6	0	20	4	0	1	0	1	2	0	0	34
直進	加速	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	等速	8	2	39	5	6	5	1	1	3	11	0	81
	減速	1	0	15	1	0	1	0	0	2	5	0	25
追越・追抜		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
進路変更	右に	0	0	0	0	2	0	1	0	3	0	0	6
	左に	0	0	1	0	4	0	0	0	3	0	0	8
左折		7	1	1	3	0	0	24	0	0	3	0	39
右折時	専用車線利用	3	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	7
	その他	1	0	0	1	0	0	0	6	0	0	0	8
転回		1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	4
後退		0	0	1	0	0	0	0	0	13	0	0	14
横断		0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
蛇行		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
停止		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
駐車(運転者在)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	3
合計		28	3	78	14	12	7	26	12	32	22	0	234

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 54〕 貸切バスの事故類型別、行動類型別事故件数の構成比（%）（令和元年）



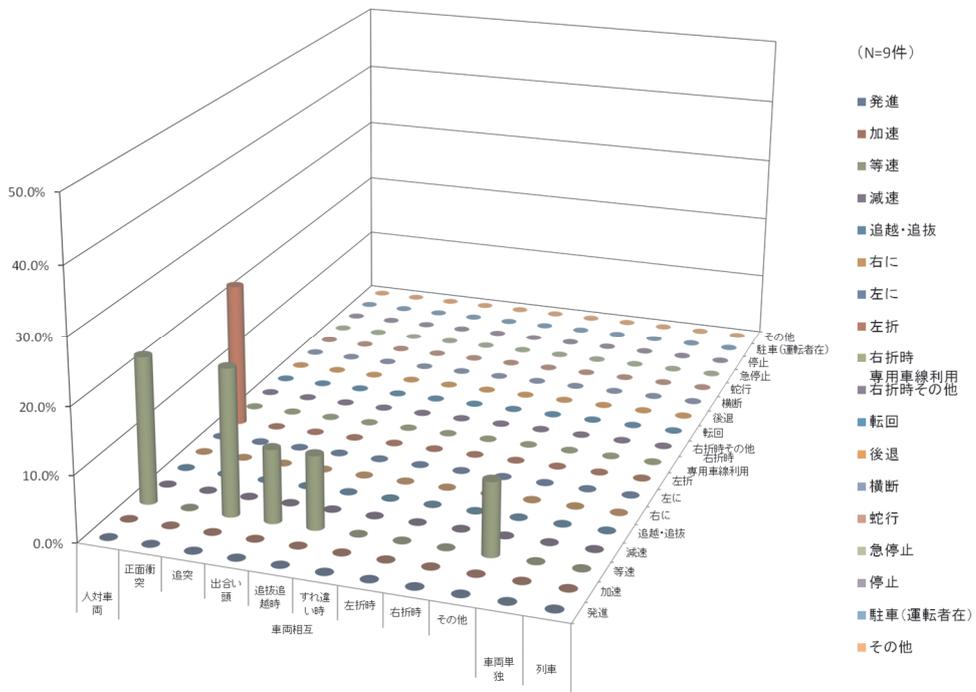
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 44〕 貸切バスの事故類型別、行動類型死亡事故件数（件）（令和元年）

		バス											
		貸切											
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
正面衝突	追突		出合い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
発進		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
直進	加速	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	等速	2	0	2	1	1	0	0	0	1	0	0	7
	減速	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
追越・追抜		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
進路変更	右に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	左に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左折		2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
右折時	専用車線利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
転回		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
後退		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
横断		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蛇行		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
駐車(運転者在)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		4	0	2	1	1	0	0	0	1	0	0	9

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 55〕 貸切バスの事故類型別、行動類型別死亡事故件数の構成比（％）（令和元年）

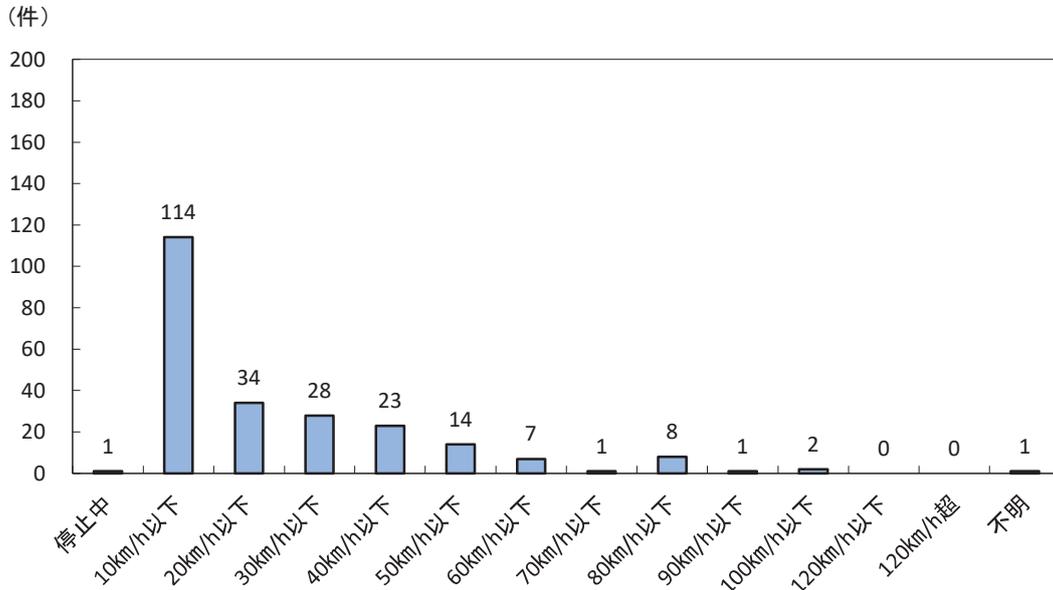


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(10) 貸切バスの危険認知速度別の事故件数

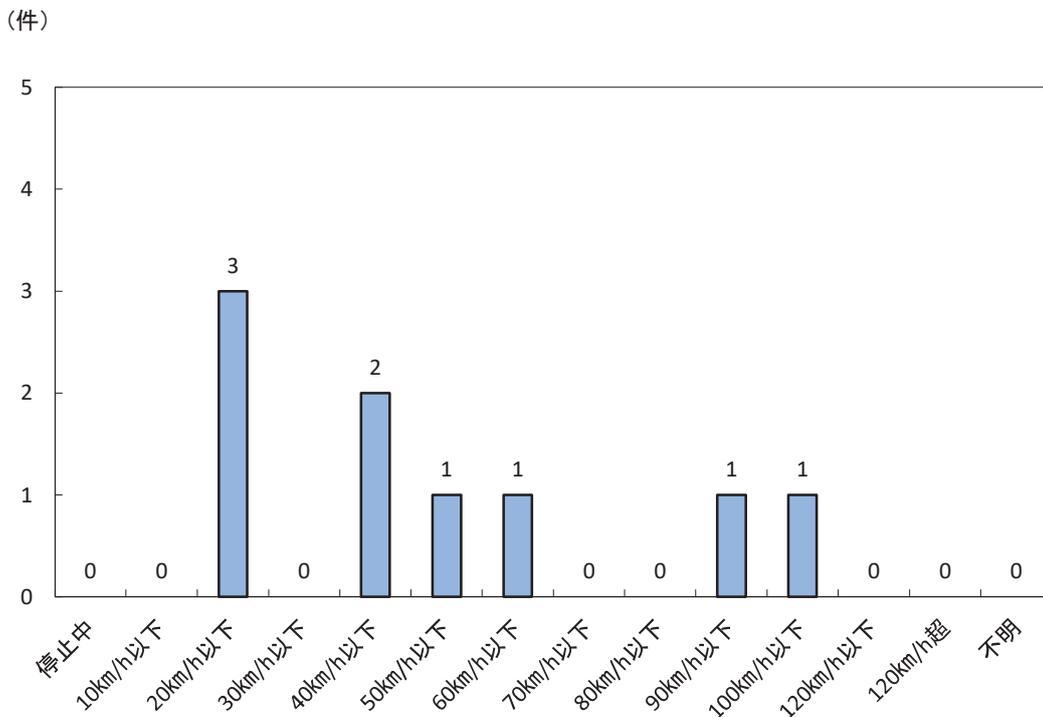
貸切バスの危険認知速度別の事故件数は10km/h以下で114件と最も多く発生しており、次いで10km/h～20km/h以下で34件、20km/h～30km/h以下で28件発生している。

〔図 56〕 貸切バスの危険認知速度別の事故件数（令和元年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 57〕 貸切バスの危険認知速度別の死亡事故件数（令和元年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(11) 貸切バスの追突事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布

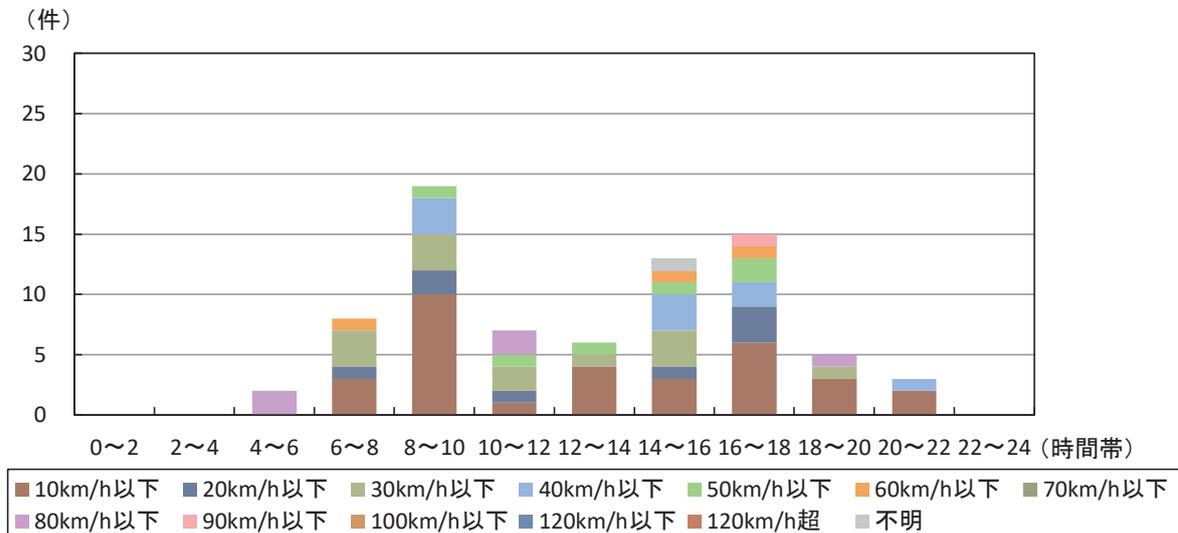
貸切バスの追突事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布をみると、8時～9時台の時間帯に最も多く19件発生している。

〔表45〕 貸切バスの追突の事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（件）（令和元年）

危険認知速度	時 間 帯												合計
	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	
10km/h以下	0	0	0	3	10	1	4	3	6	3	2	0	32
20km/h以下	0	0	0	1	2	1	0	1	3	0	0	0	8
30km/h以下	0	0	0	3	3	2	1	3	0	1	0	0	13
40km/h以下	0	0	0	0	3	0	0	3	2	0	1	0	9
50km/h以下	0	0	0	0	1	1	1	1	2	0	0	0	6
60km/h以下	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	3
70km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
80km/h以下	0	0	2	0	0	2	0	0	0	1	0	0	5
90km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
100km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
120km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
合計	0	0	2	8	19	7	6	13	15	5	3	0	78

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図58〕 貸切バスの追突の事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（件）（令和元年）



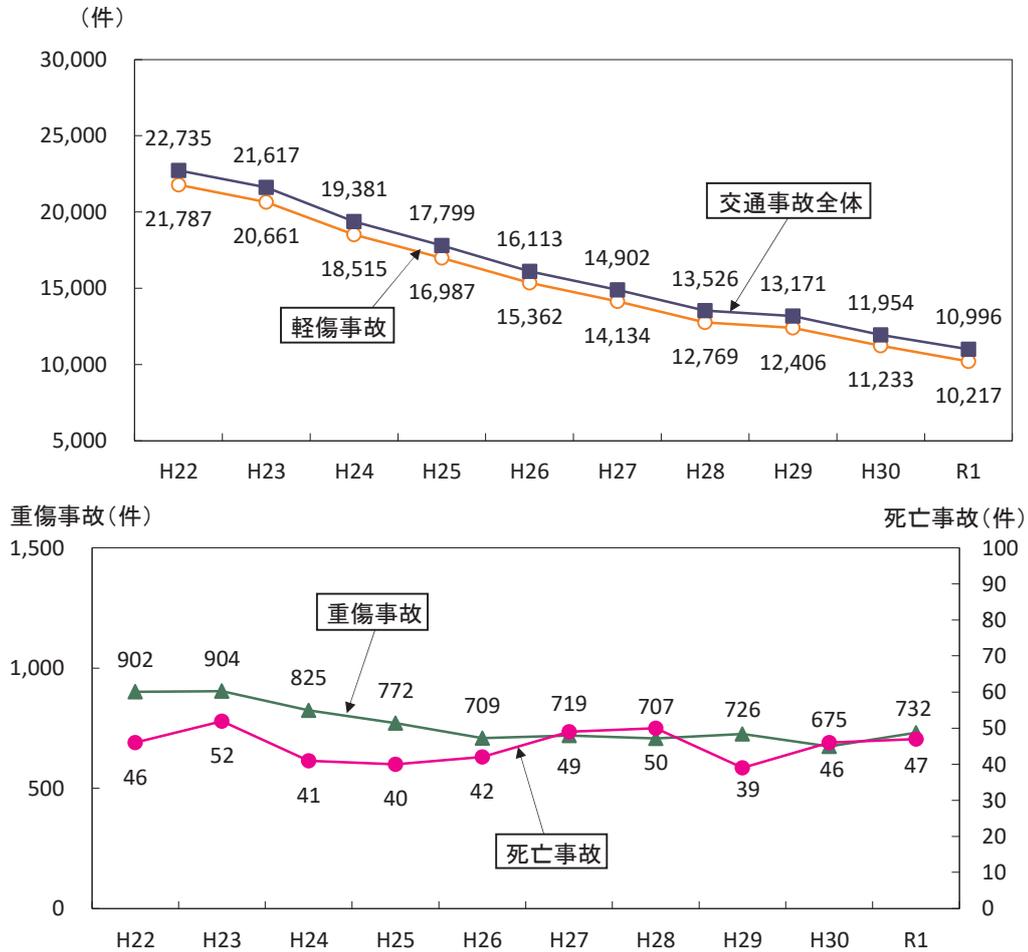
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

3. タクシーの事故

(1) タクシーの事故件数、死傷事故件数の推移

タクシーの事故件数は全体で減少傾向となっている。死亡事故件数については、前年と同程度となっている。

〔図 59〕 タクシーの全事故及び死傷事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 46〕 タクシーの事故件数の推移（件）

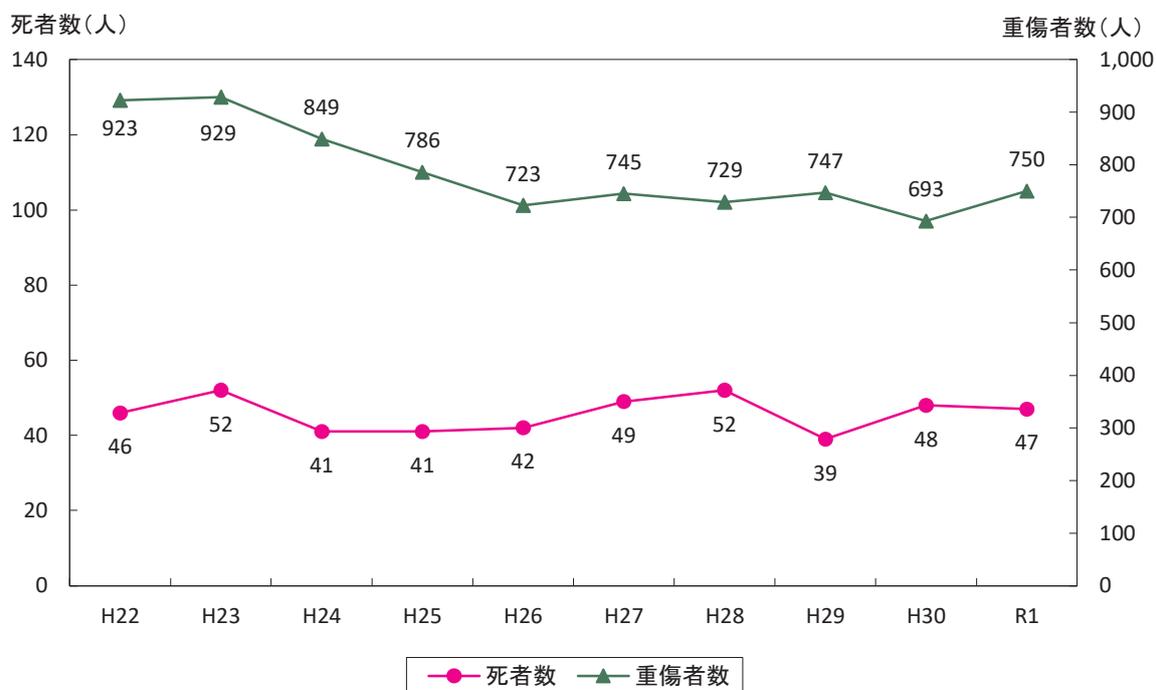
区分 年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H22	46	902	21,787	22,735
H23	52	904	20,661	21,617
H24	41	825	18,515	19,381
H25	40	772	16,987	17,799
H26	42	709	15,362	16,113
H27	49	719	14,134	14,902
H28	50	707	12,769	13,526
H29	39	726	12,406	13,171
H30	46	675	11,233	11,954
R1	47	732	10,217	10,996

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) タクシーの事故の死傷者数の推移

タクシーの事故の重傷者数は令和元年は前年より57人増加し、死者数は横ばい傾向となっている。

〔図 60〕 タクシーの事故の死傷者数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 47〕 タクシーの事故の死傷者数の推移（人）

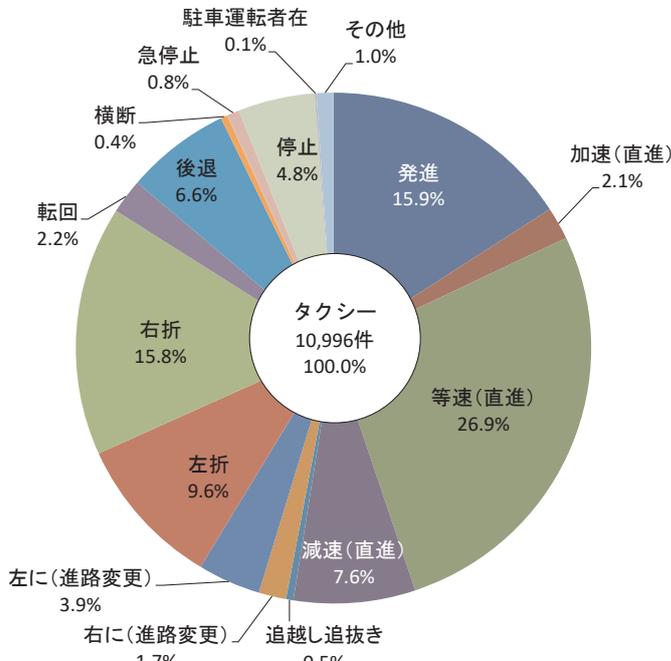
区分 年	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H22	46	923	25,317	26,286
H23	52	929	24,167	25,148
H24	41	849	21,651	22,541
H25	41	786	19,992	20,819
H26	42	723	18,051	18,816
H27	49	745	16,622	17,416
H28	52	729	15,112	15,893
H29	39	747	14,593	15,379
H30	48	693	13,290	14,031
R1	47	750	12,016	12,813

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) タクシーの行動類型別事故件数の割合

タクシーの行動類型別事故件数は、等速（直進）時2,962件（26.9%）が最も多く、次いで発進時1,744件（15.9%）、右折時1,736件（15.8%）となっている。

〔図 61〕 タクシーの行動類型別事故件数の割合（令和元年）



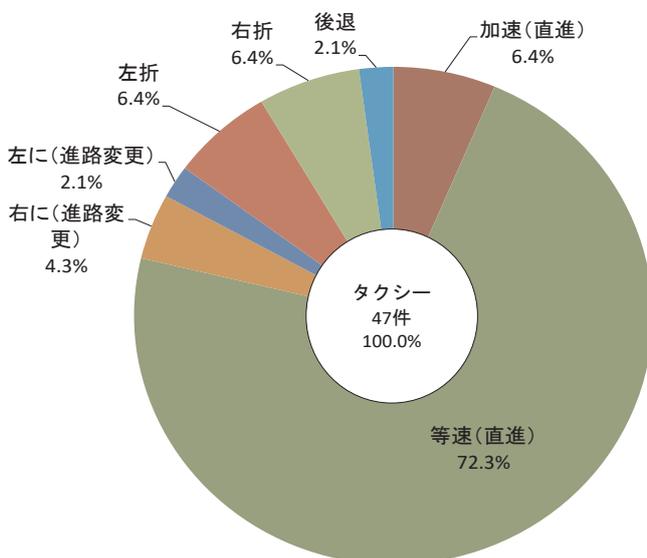
行動類型	件数	割合
発進	1,744 件	15.9%
加速(直進)	226 件	2.1%
等速(直進)	2,962 件	26.9%
減速(直進)	839 件	7.6%
追越し追抜き	53 件	0.5%
右に(進路変更)	189 件	1.7%
左に(進路変更)	434 件	3.9%
左折	1,056 件	9.6%
右折	1,736 件	15.8%
転回	240 件	2.2%
後退	725 件	6.6%
横断	47 件	0.4%
蛇行	2 件	0.0%
急停止	85 件	0.8%
停止	529 件	4.8%
駐車運転者在	14 件	0.1%
その他	115 件	1.0%

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(4) タクシーの行動類型別死亡事故件数の割合

タクシーの行動類型別死亡事故件数は、等速（直進）時34件（72.3%）が7割を超えている。

〔図 62〕 タクシーの行動類型別死亡事故件数の割合（令和元年）



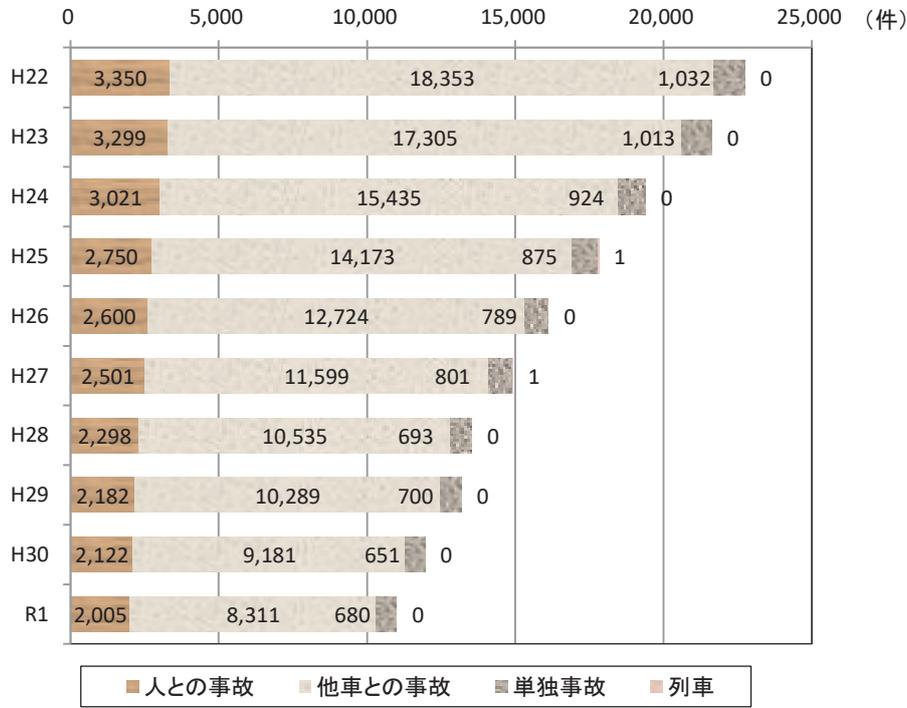
行動類型	件数	割合
発進	0 件	0.0%
加速(直進)	3 件	6.4%
等速(直進)	34 件	72.3%
減速(直進)	0 件	0.0%
追越し追抜き	0 件	0.0%
右に(進路変更)	2 件	4.3%
左に(進路変更)	1 件	2.1%
左折	3 件	6.4%
右折	3 件	6.4%
転回	0 件	0.0%
後退	1 件	2.1%
横断	0 件	0.0%
蛇行	0 件	0.0%
急停止	0 件	0.0%
停止	0 件	0.0%
駐車運転者在	0 件	0.0%
その他	0 件	0.0%

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(5) タクシーの事故類型別事故件数の割合の推移

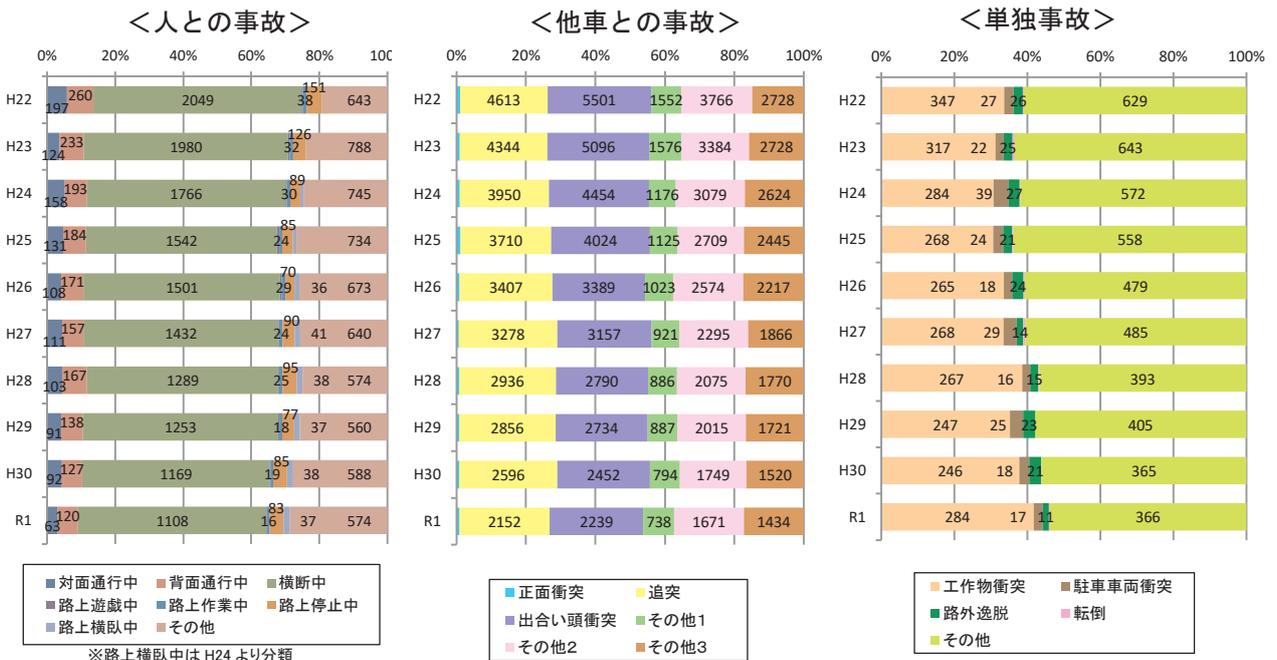
令和元年のタクシーの事故は、他車との事故が8,311件で8割弱を占めており、そのうち追突と出合い頭衝突で半数以上を占めている。

[図 63] タクシーの事故類型別事故件数の割合



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 64] タクシーの事故類型別事故件数の内訳の推移



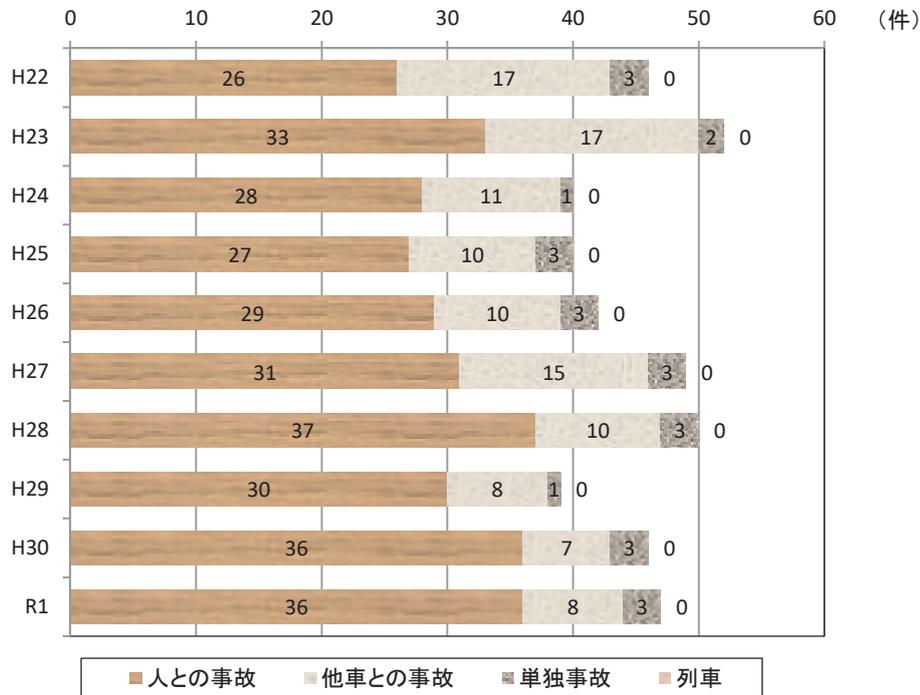
その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) タクシーの事故類型別死亡事故件数の割合の推移

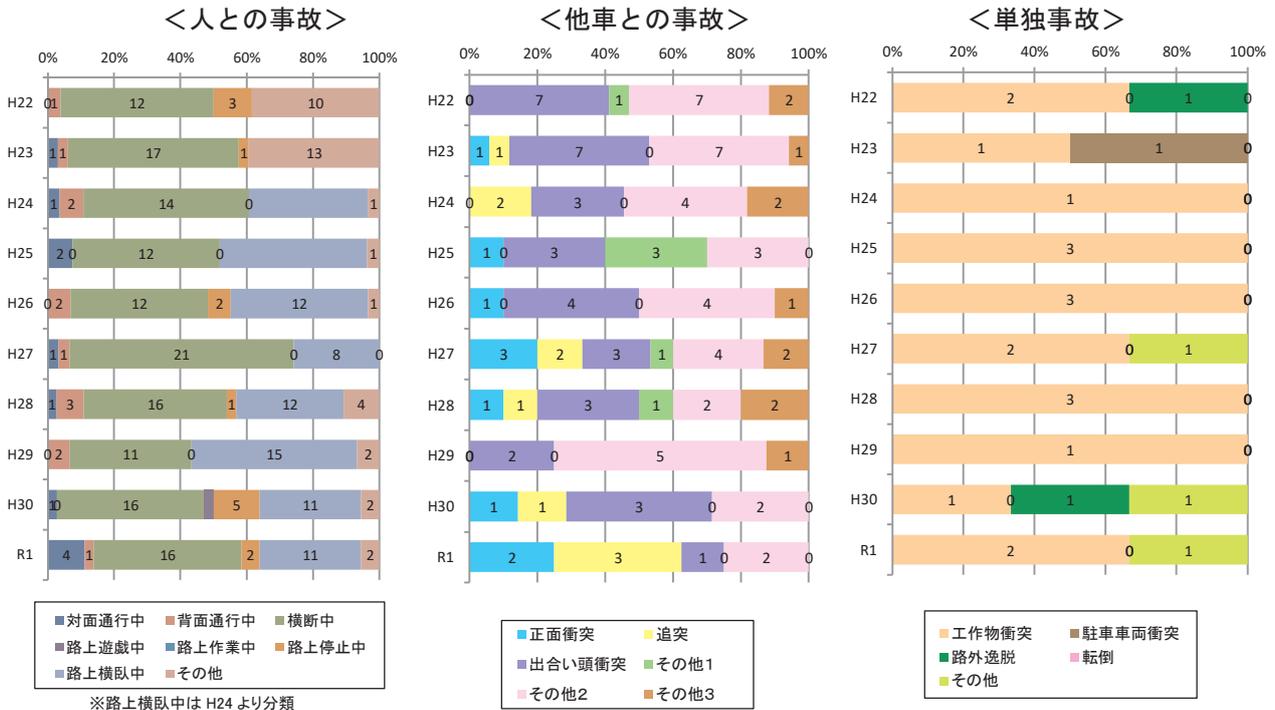
令和元年のタクシーの死亡事故は、人との事故が36件で8割弱を占めており、そのうち、横断中の事故が16件で4割を超えている。

[図 65] タクシーの事故類型別死亡事故件数の割合の推移



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 66] タクシーの事故類型別死亡事故件数の内訳の推移



※路上横隊中は H24 より分類

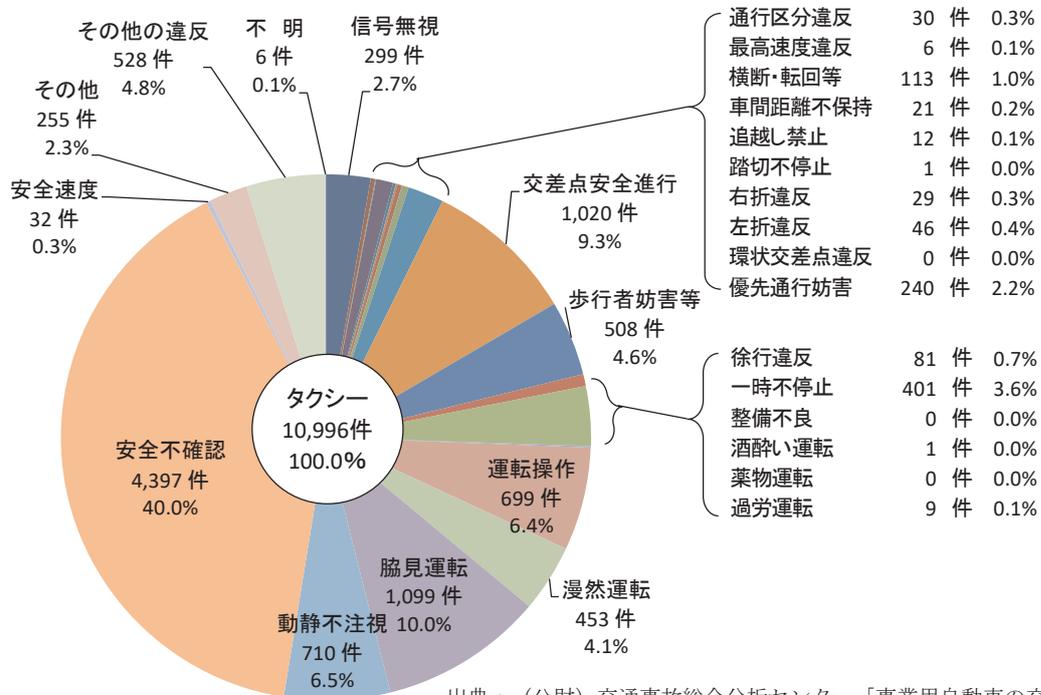
その他 1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他 2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他 3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(7) タクシーの法令違反別の事故件数の割合

タクシーの法令違反別の事故件数は、「安全不確認」4,397件（40.0%）が最も多く、次いで「脇見運転」1,099件（10.0%）、「交差点安全進行」1,020件（9.3%）となっている。

〔図 67〕 タクシーの法令違反別事故件数の割合（令和元年）

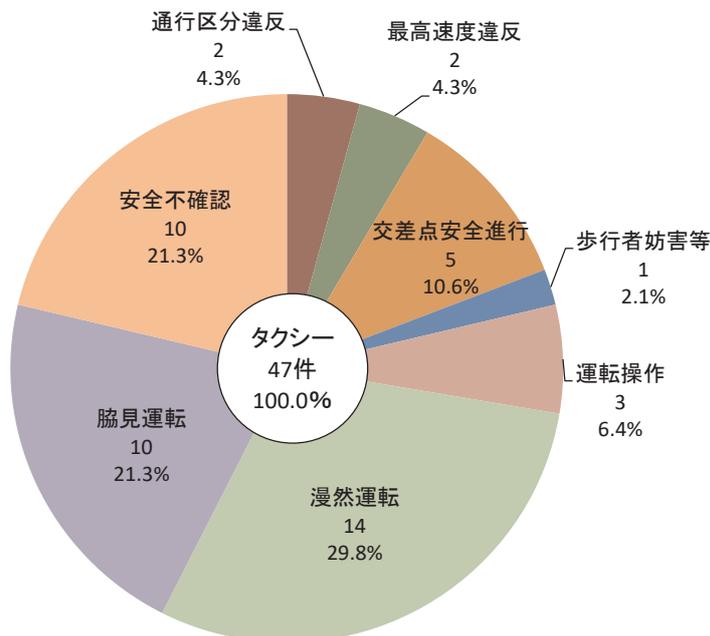


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) タクシーの法令違反別の死亡事故件数の割合

タクシーの法令違反別の死亡事故件数は、「漫然運転」14件（29.8%）が最も多く、次いで「脇見運転」10件（21.3%）、「安全不確認」10件（21.3%）となっている。

〔図 68〕 タクシーの法令違反別死亡事故件数の割合（令和元年）

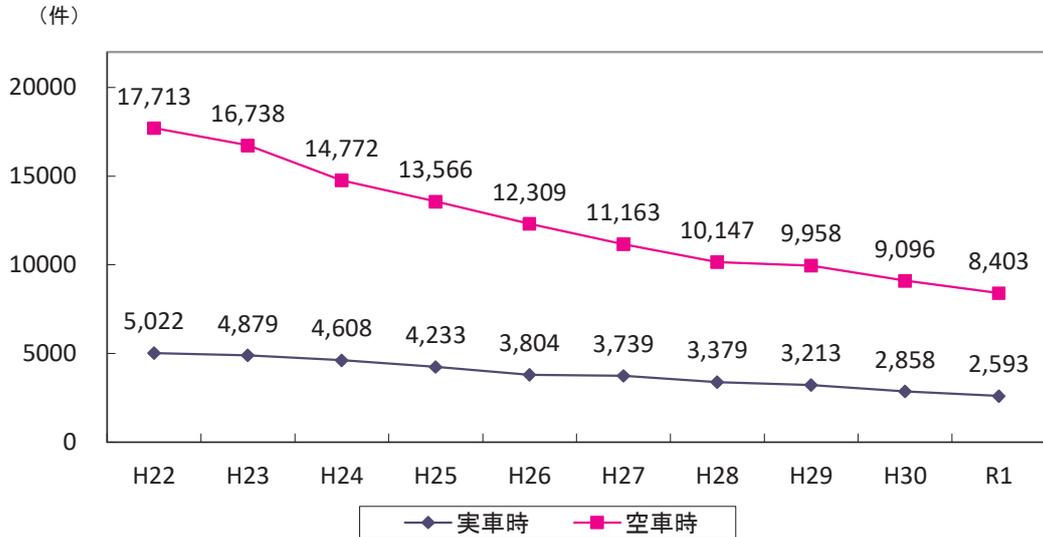


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(9) タクシーの事故件数（空車時、実車時）

タクシーの事故件数（空車時、実車時）は、空車時が実車時と比べて多く発生している。空車時、実車時ともに減少傾向となっている。

〔図 69〕 タクシーの事故件数（空車時、実車時）

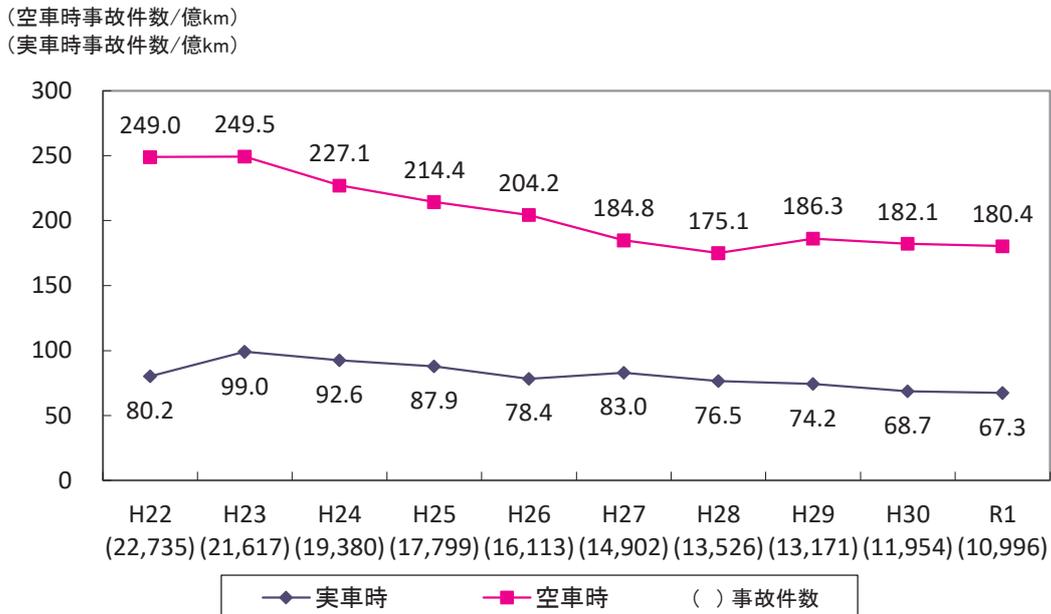


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(10) タクシーの走行距離 1 億キロあたりの事故件数（空車キロ、実車キロ）

タクシーの走行距離 1 億キロあたりの事故件数（空車キロ、実車キロ）は、空車時が実車時と比べて多く発生している。近年は空車時、実車時ともに横ばいとなっている。

〔図 70〕 タクシーの走行距離 1 億キロあたりの事故件数



注1：（ ）内の数字は空車時と実車時を合わせた事故件数，単位是件

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

(11) タクシーの事故類型別、衝突地点別事故件数

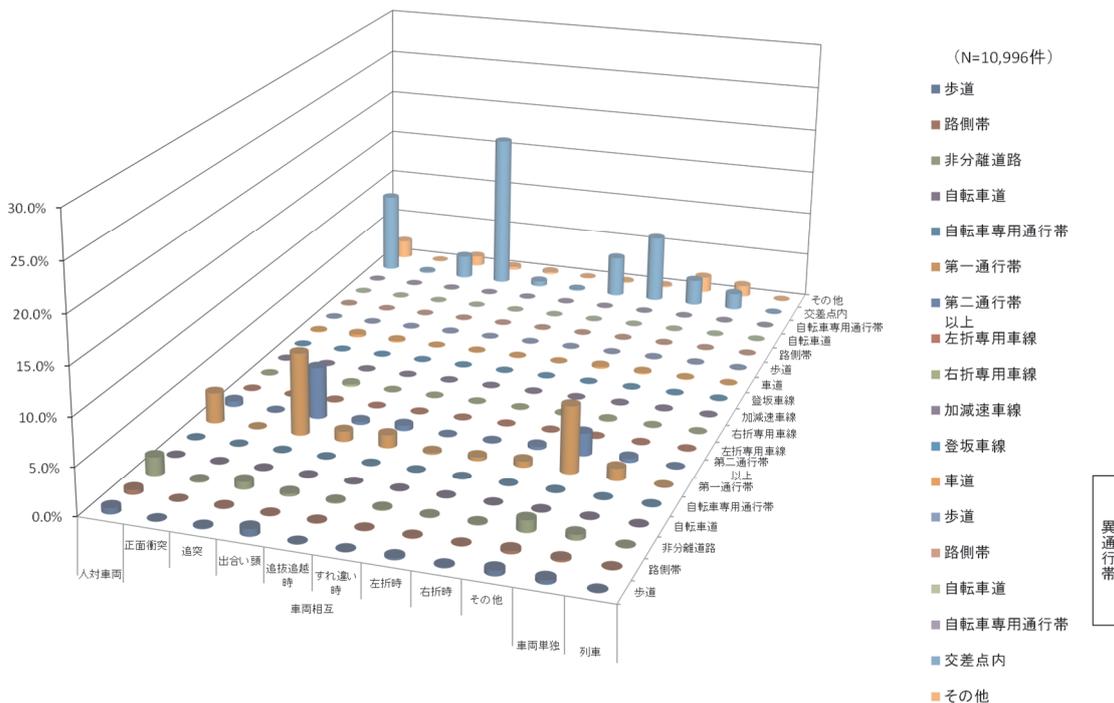
タクシーの事故類型別、衝突地点別事故件数と構成比を表48と図71に、死亡事故件数と構成比を表49と図72に示す。事故件数については、交差点内での出会い頭事故1,911件(17.4%)が最も多く、死亡事故件数については、第一通行帯での人対車両事故15件(31.9%)が最も多くなっている。

[表 48] タクシーの事故類型別、衝突地点別事故件数 (件) (令和元年)

		タクシー											合計
		合計											
		人対車両	車両相互							車両単独	列車	合計	
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
単路 (交差点付近を含む)	歩道	69	2	12	85	1	2	22	8	62	47	0	310
	路側帯	55	0	10	5	7	2	5	3	35	21	0	143
	非分離道路	215	13	88	32	12	12	8	11	140	63	0	594
	自転車道	0	0	3	0	0	0	1	0	4	1	0	9
	自転車専用通行帯	1	0	1	0	0	0	0	0	4	0	0	6
	第一通行帯	359	5	965	121	153	20	44	72	780	142	0	2,661
	第二通行帯以上	67	4	606	36	63	5	7	38	266	47	0	1,139
	左折専用車線	0	0	5	0	1	0	1	0	1	1	0	9
	右折専用車線	2	0	28	2	1	0	0	4	10	2	0	49
	加減速車線	0	0	1	0	0	0	0	0	2	3	0	6
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	異通行帯	車道	9	35	18	2	4	3	0	25	16	5	0
歩道		1	0	1	5	0	0	1	0	4	4	0	16
路側帯		7	0	0	0	0	0	0	3	4	3	0	17
自転車道		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自転車専用通行帯		0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
交差点内		995	16	287	1,911	64	12	502	826	316	200	0	5,129
その他		225	2	127	40	26	4	13	17	194	140	0	788
合計		2,005	77	2,152	2,239	332	60	604	1,007	1,840	680	0	10,996

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 71] タクシーの事故類型別、衝突地点別事故件数の構成比 (%) (令和元年)



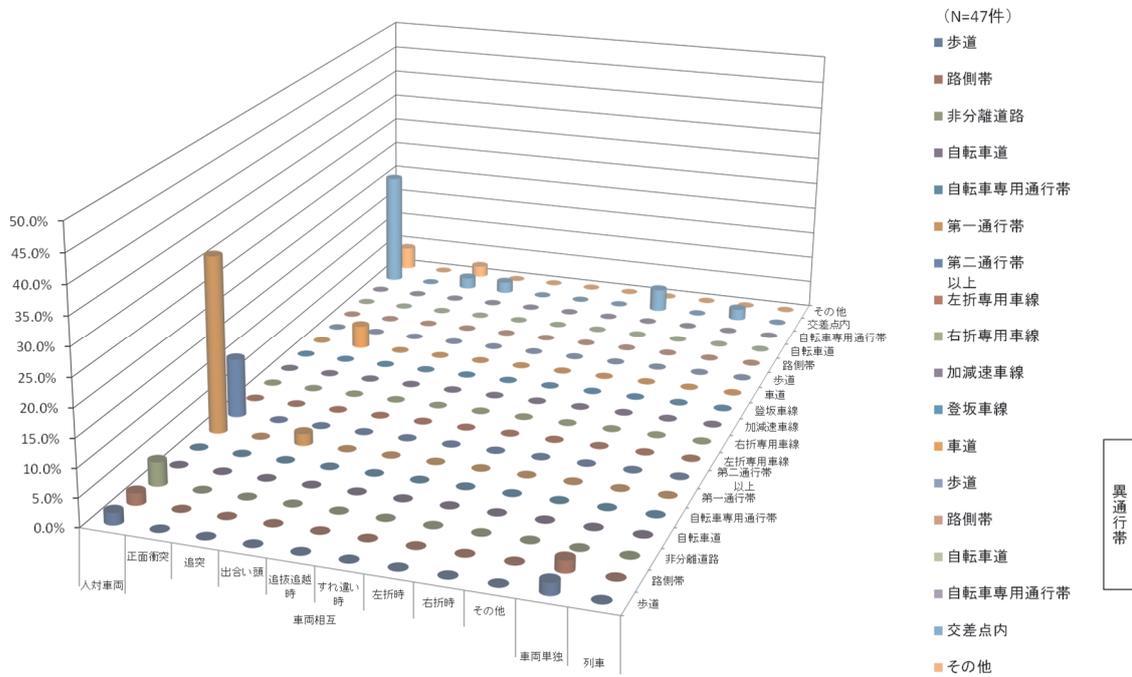
出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[表 49] タクシーの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数（件）（令和元年）

		タクシー													
		合計													
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計		
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他							
単路（交差点付近を含む）	歩道	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	
	路側帯	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	
	非分離道路	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	第一通行帯	15	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	
	第二通行帯以上	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	右折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	異通行帯	車道	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	交差点内	10	0	1	1	0	0	0	0	2	0	1	0	15	
	その他	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
	合計	36	2	3	1	0	0	0	0	2	0	3	0	47	

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 72] タクシーの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数の構成比（%）（令和元年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(12) タクシーの事故類型別、行動類型別事故件数

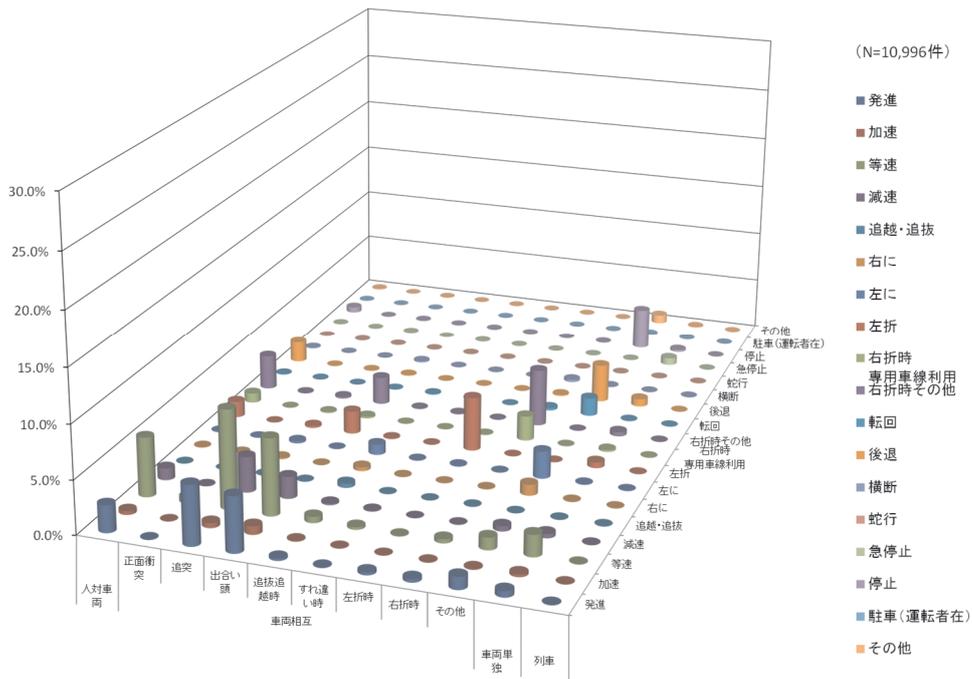
タクシーの事故類型別、行動類型別事故件数と構成比を表50と図73に、死亡事故件数と構成比を表51と図74に示す。事故件数については、等速直進時の追突事故1,016件(9.2%)が最も多く、死亡事故件数については、等速直進時の人対車両事故30件(63.8%)が多くなっている。

〔表50〕 タクシーの事故類型別、行動類型別事故件数(件)(令和元年)

		タクシー											合計
		合計											
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	
正面衝突	追突		出合い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
発進		280	2	612	567	24	5	29	35	128	62	0	1,744
直進	加速	39	0	51	87	8	2	0	3	8	28	0	226
	等速	612	58	1,016	790	63	27	6	42	126	222	0	2,962
	減速	122	4	366	225	16	8	0	1	52	45	0	839
追越・追抜		2	0	3	1	44	0	0	2	1	0	0	53
進路変更	右に	5	3	14	0	40	4	1	5	114	3	0	189
	左に	4	0	22	1	110	4	7	1	281	4	0	434
左折		168	1	22	237	7	1	560	0	0	60	0	1,056
右折時	専用車線利用	100	0	10	19	1	1	0	259	0	20	0	410
	その他	363	5	19	289	5	6	0	594	0	45	0	1,326
転回		6	3	1	2	8	1	0	27	189	3	0	240
後退		223	1	5	7	0	1	0	12	396	80	0	725
横断		4	0	0	13	0	0	1	25	4	0	0	47
蛇行		0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
急停止		3	0	3	0	1	0	0	0	2	76	0	85
停止		61	0	5	1	3	0	0	1	436	22	0	529
駐車(運転者在)		4	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	14
その他		9	0	3	0	1	0	0	0	93	9	0	115
合計		2,005	77	2,152	2,239	332	60	604	1,007	1,840	680	0	10,996

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図73〕 タクシーの事故類型別、行動類型別事故件数の構成比(%) (令和元年)



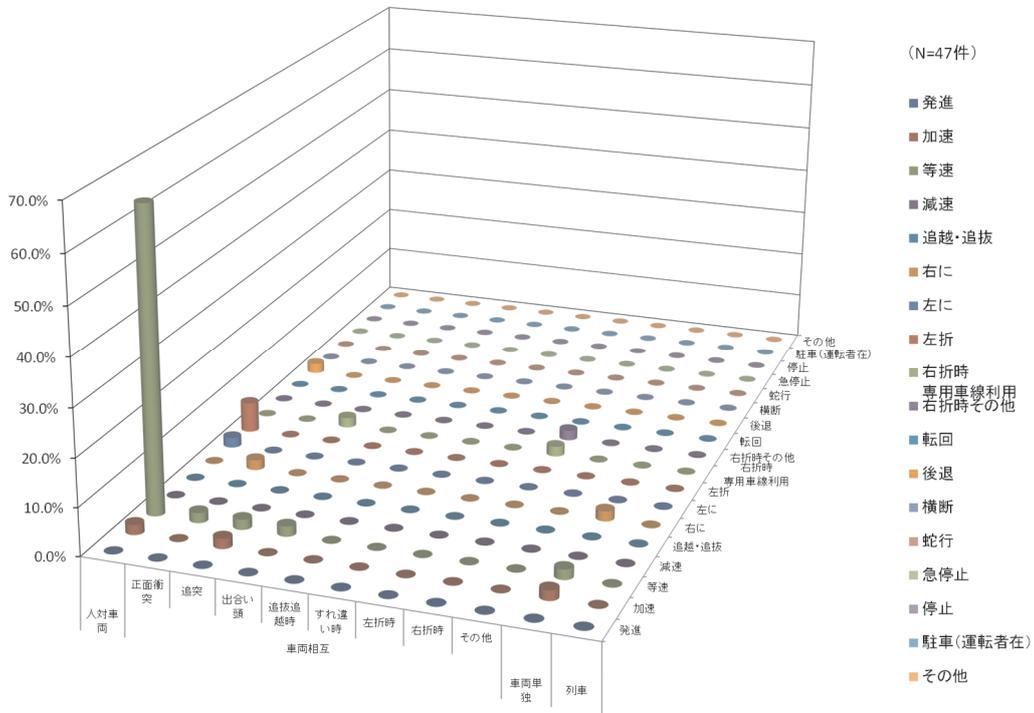
出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[表 51] タクシーの事故類型別、行動類型死亡事故件数 (件) (令和元年)

		タクシー										
		合計										
		人対車両	車両相互							車両単独	列車	合計
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他				
発進		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
直進	加速	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0
	等速	30	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0
	減速	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
追越・追抜		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
進路変更	右に	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	左に	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左折		3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右折時	専用車線利用	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
転回		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
後退		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
横断		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蛇行		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
駐車(運転者在)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		36	2	3	1	0	0	0	2	0	3	0

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 74] タクシーの事故類型別、行動類型別死亡事故件数の構成比 (%) (令和元年)

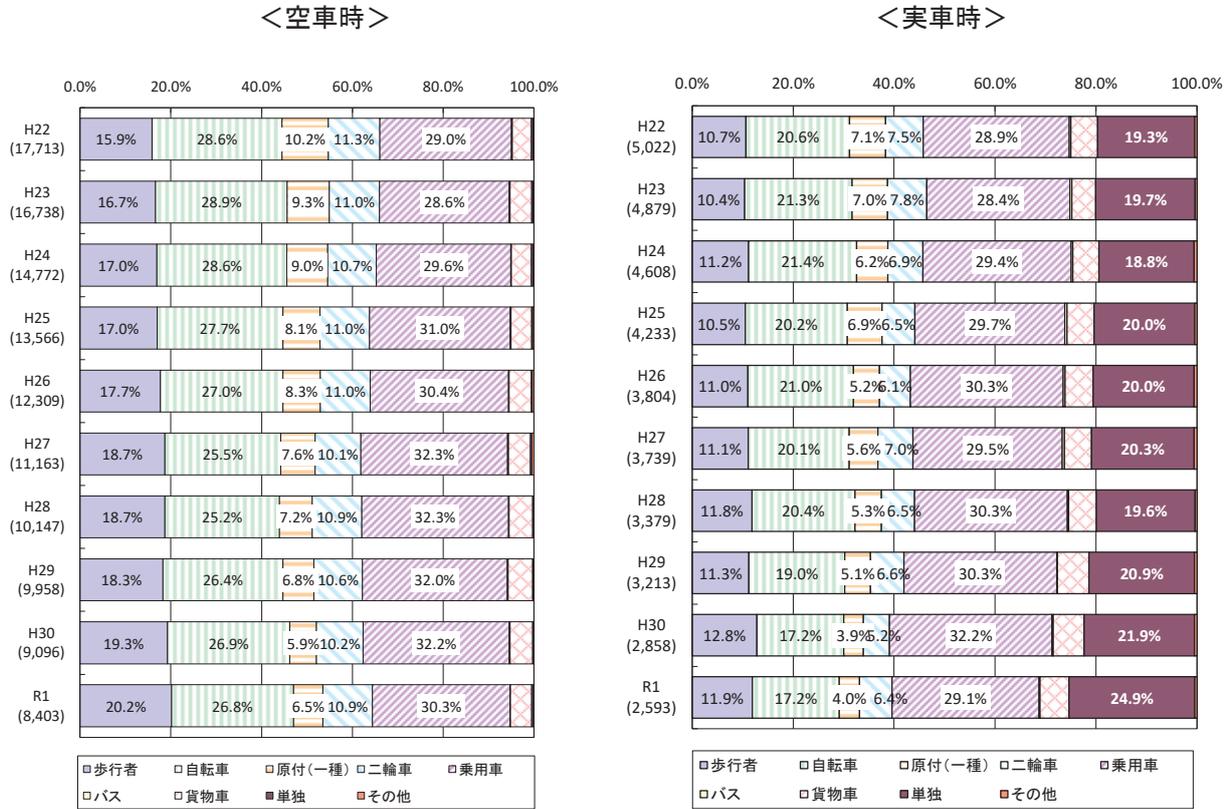


出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(13) タクシーの事故の相手方の割合の推移（空車時、実車時）

実車時は、空車時に比べて単独の事故が圧倒的に多くなっている。

〔図 75〕 タクシーの事故の相手方の割合の推移



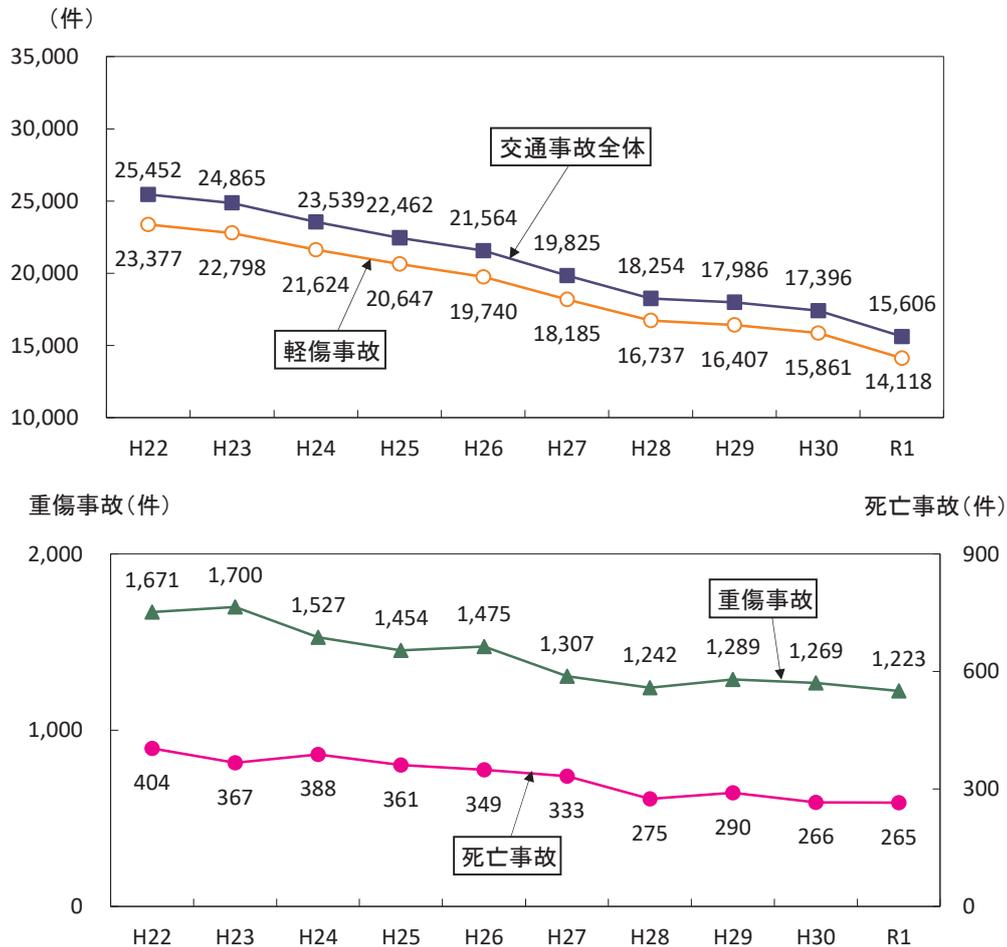
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

4. トラックの事故

(1) トラックの事故件数、死傷事故件数の推移

令和元年のトラックによる事故件数は15,606件で前年より10.3%減少している。死傷事故件数別では、死亡事故、重傷事故、軽傷事故、全て減少している。

〔図 76〕 トラックの全事故及び死傷事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 52〕 トラックの事故件数の推移（件）

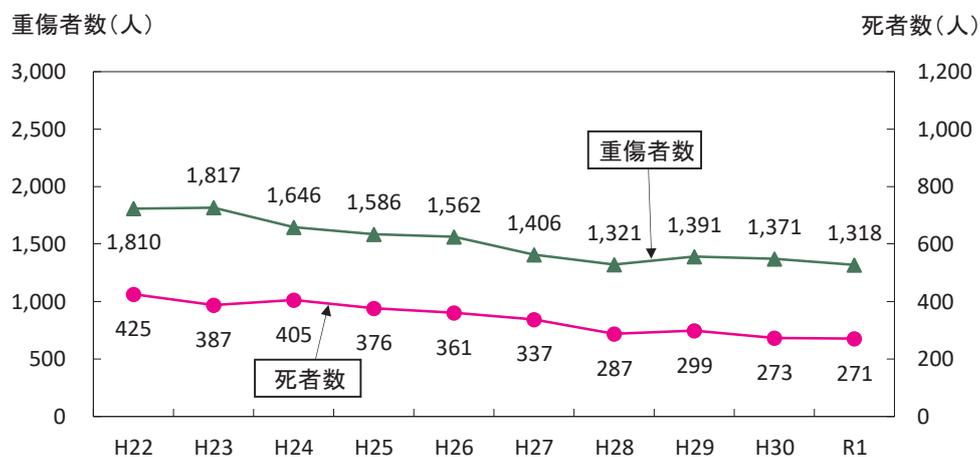
区分 年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	事故全体
H22	404	1,671	23,377	25,452
H23	367	1,700	22,798	24,865
H24	388	1,527	21,624	23,539
H25	361	1,454	20,647	22,462
H26	349	1,475	19,740	21,564
H27	333	1,307	18,185	19,825
H28	275	1,242	16,737	18,254
H29	290	1,289	16,407	17,986
H30	266	1,269	15,861	17,396
R1	265	1,223	14,118	15,606

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) トラック事故の死傷者数の推移

トラックの事故による死者数、重傷者数の推移をみると減少傾向となっている。

〔図 77〕 トラック事故の死傷者数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 53〕 トラック事故の死傷者数の推移（人）

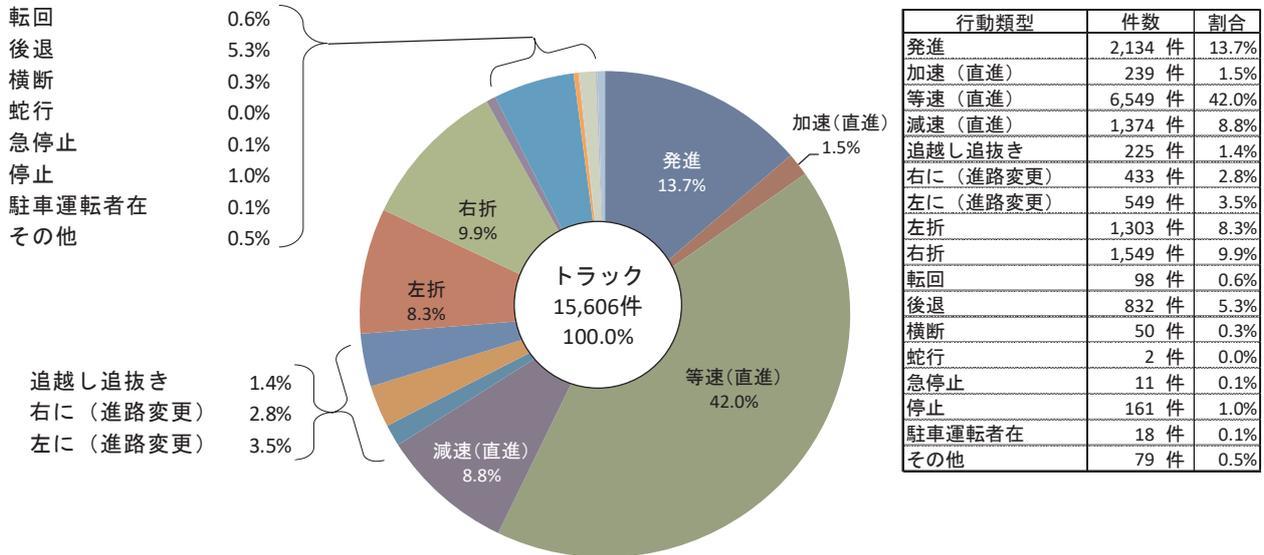
区分 年	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H22	425	1,810	31,171	33,406
H23	387	1,817	30,436	32,640
H24	405	1,646	28,824	30,875
H25	376	1,586	27,636	29,598
H26	361	1,562	26,499	28,422
H27	337	1,406	24,253	25,996
H28	287	1,321	22,081	23,689
H29	299	1,391	21,528	23,218
H30	273	1,371	20,720	22,364
R1	271	1,318	18,339	19,928

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) トラックの行動類型別事故件数の割合

トラックの行動類型別事故件数は、等速（直進）6,549件（42.0%）が最も多く、次いで発進時2,134件（13.7%）となっている。

〔図78〕 トラックの行動類型別事故件数の割合（令和元年）

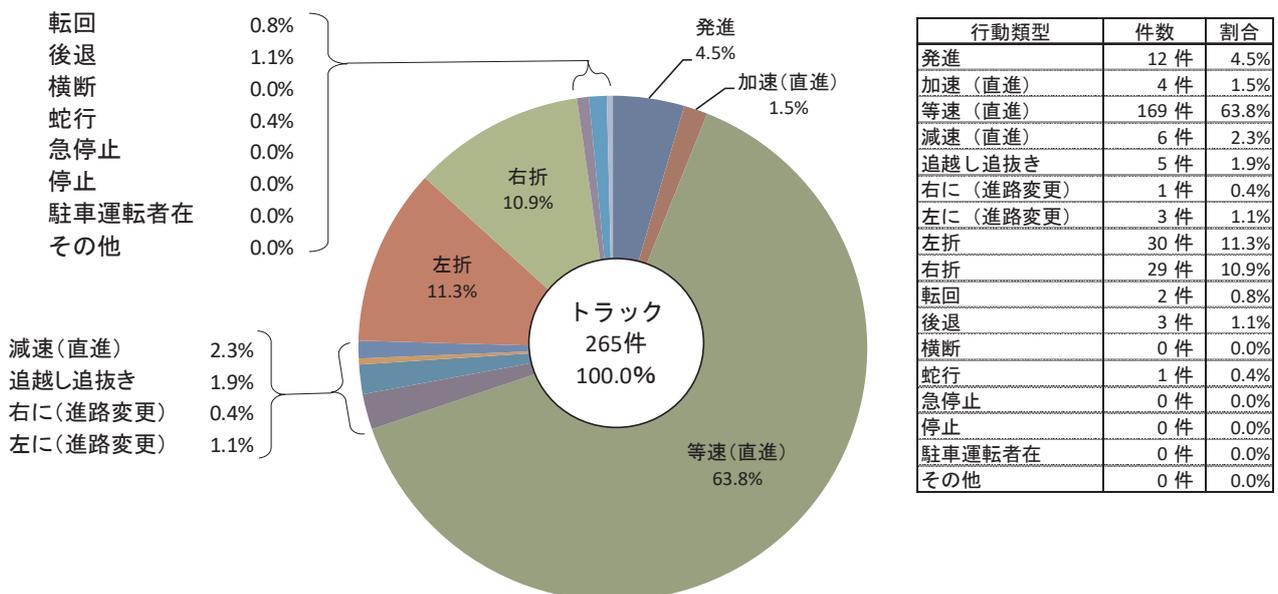


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(4) トラックの行動類型別死亡事故件数の割合

トラックの行動類型別死亡事故件数は、事故全体と同じく等速（直進）時169件（63.8%）が最も多く、次いで左折時30件（11.3%）、右折時29件（10.9%）となっている。

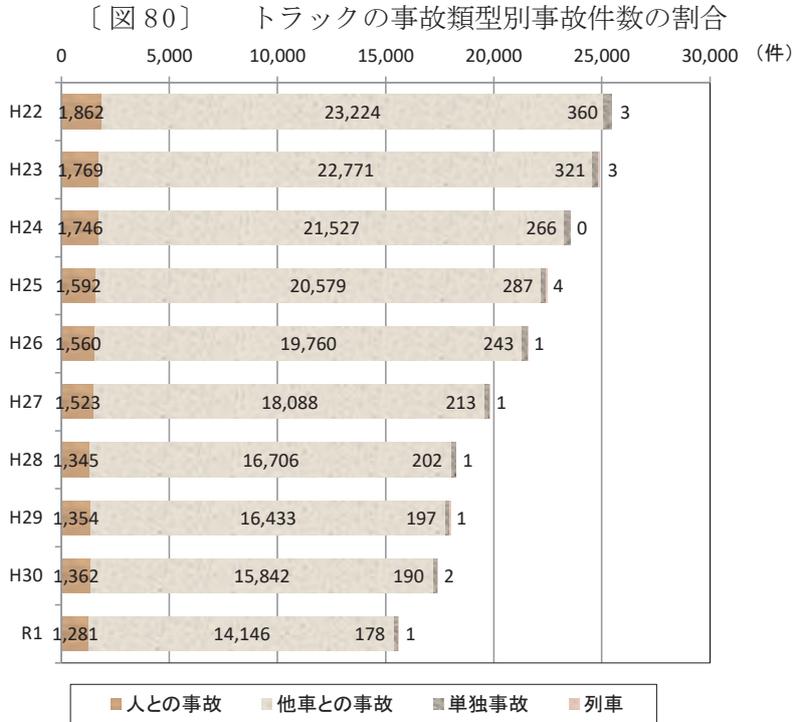
〔図79〕 トラックの行動類型別死亡事故件数の割合（令和元年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

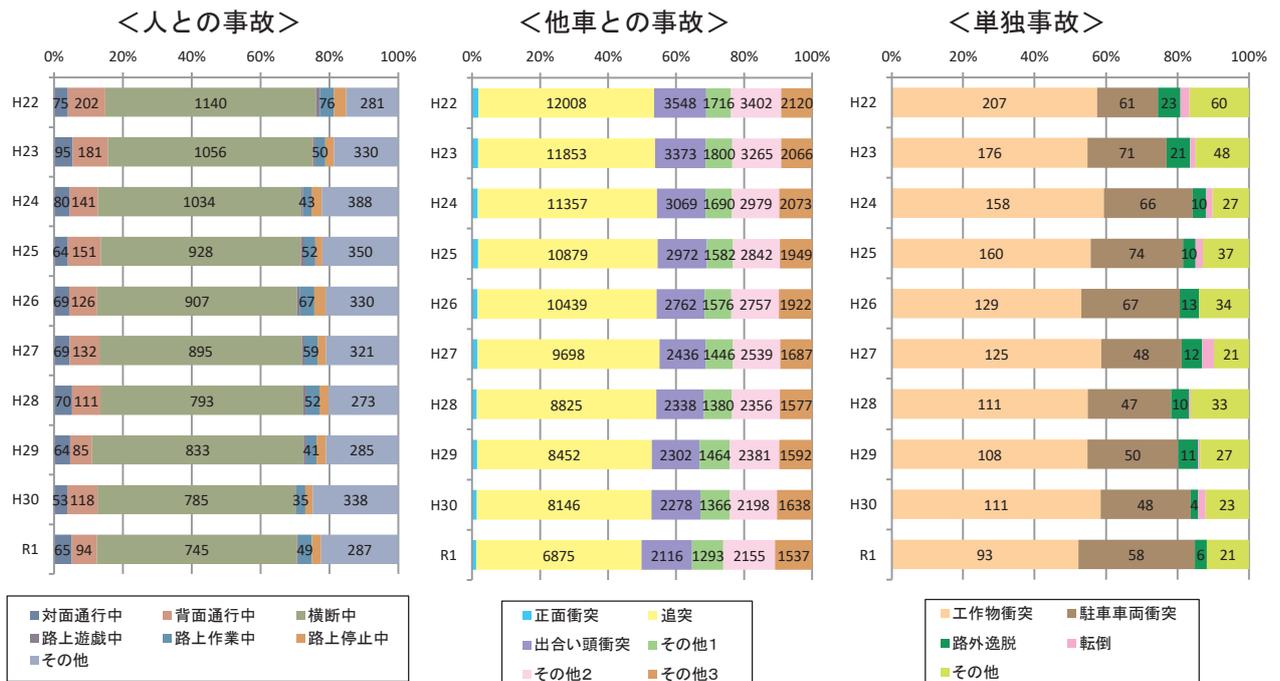
(5) トラックの事故類型別事故件数の割合

トラックの事故は、他車との事故が約9割を占めており、そのうち5割近くは追突事故となっている。



出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図81] トラックの事故類型別事故件数の内訳



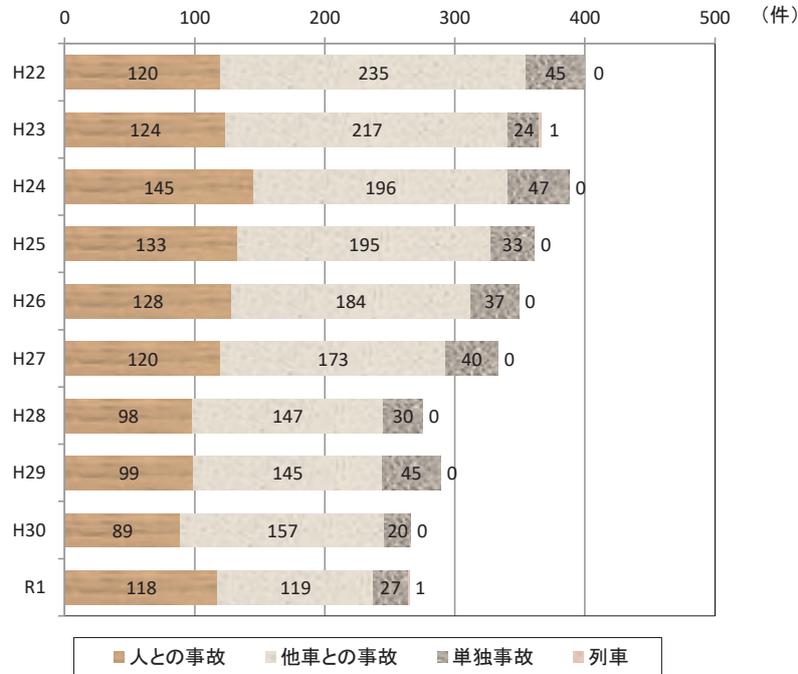
その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) トラックの事故類型別死亡事故件数の割合の推移

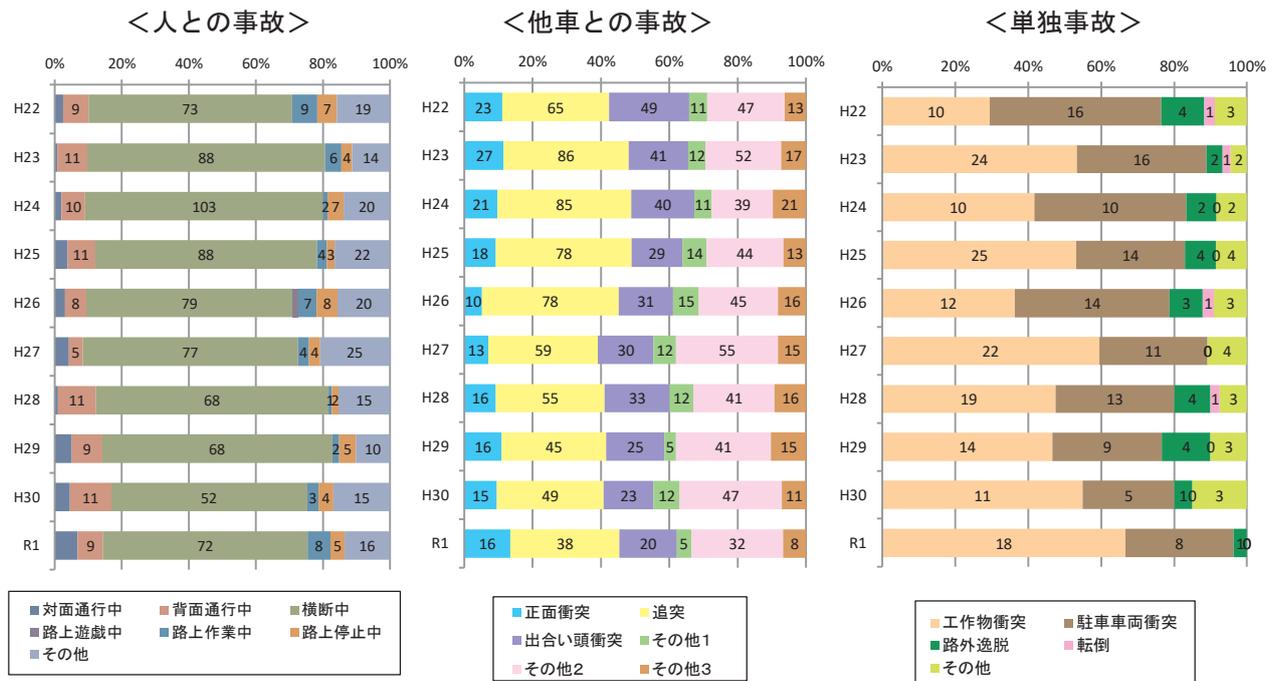
トラックの死亡事故は、人との事故、他車との事故が多く、9割近くを占めている。人との事故のうち横断中が最も多く6割を占めており、他車との事故のうち追突が最も多く3割を超えている。死亡事故全体で見ると人との事故の横断中が72件で最も多い。

〔図 82〕 トラックの事故類型別死亡事故件数の割合



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 83〕 トラックの事故類型別死亡事故件数の内訳の推移



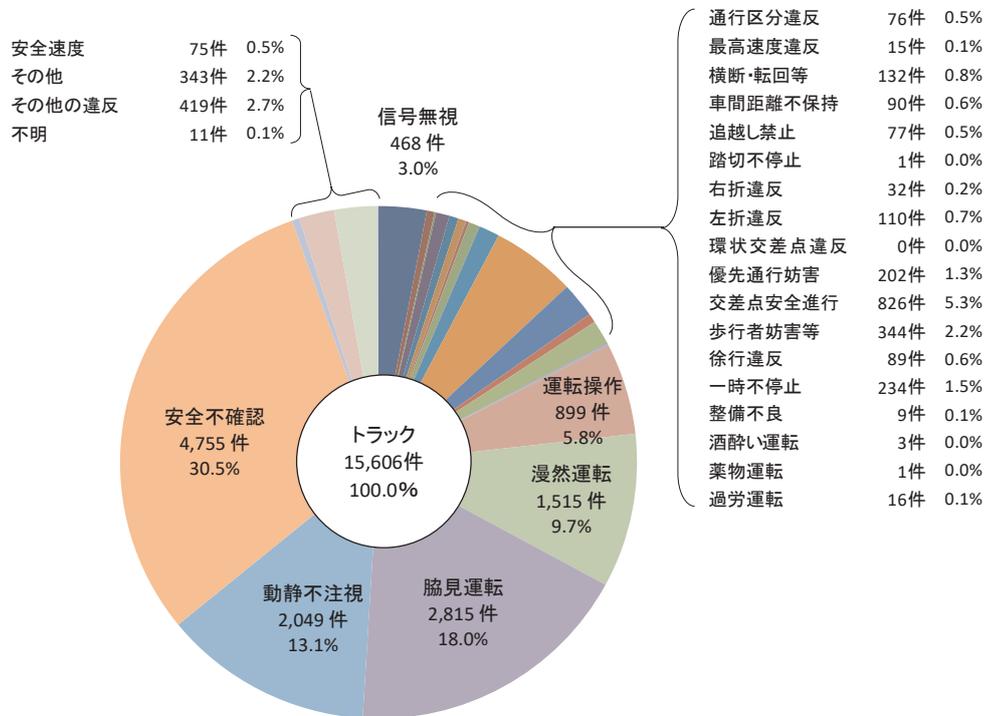
その他 1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他 2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他 3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(7) トラックの法令違反別の事故件数の割合

トラックの法令違反別の事故件数では、「安全不確認」4,755件（30.5%）、「脇見運転」2,815件（18.0%）、「動静不注視」2,049件（13.1%）などが多い。

〔図 84〕 トラックの法令違反別の事故件数の割合（令和元年）

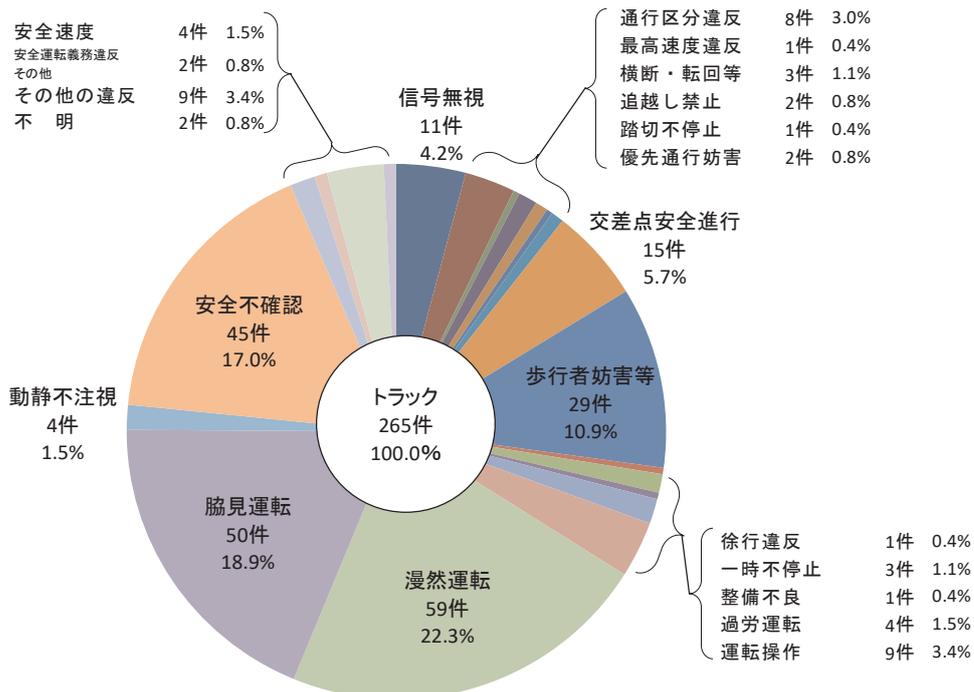


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) トラックの法令違反別の死亡事故件数の割合

トラックの法令違反別の死亡事故件数では、「漫然運転」59件（22.3%）、「脇見運転」50件（18.9%）、「安全不確認」45件（17.0%）などが多い。

〔図 85〕 トラックの法令違反別の死亡事故件数の割合（令和元年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(9) トラックの事故類型別、衝突地点別事故件数

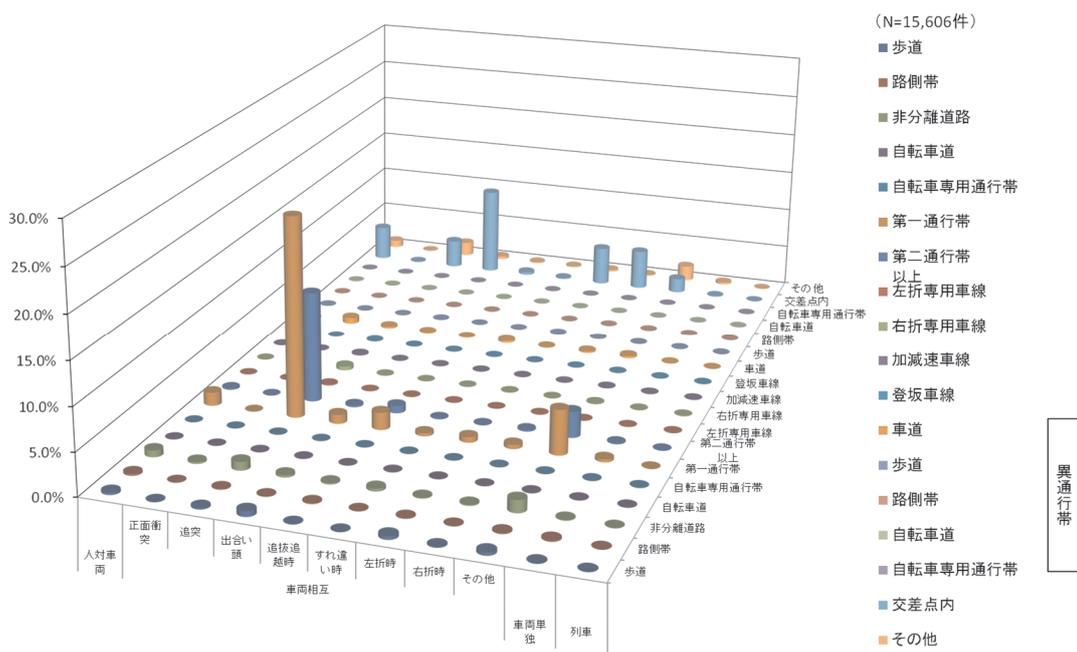
トラックの事故類型別、衝突地点別事故件数と構成比を表54と図86に、死亡事故件数と構成比を表55と図87に示す。事故件数については、第一通行帯での追突事故3,682件(23.6%)が最も多く、死亡事故件数については、第一通行帯での人対車両事故55件(20.8%)が最も多くなっている。

[表54] トラックの事故類型別、衝突地点別事故件数(件)(令和元年)

		トラック											合計
		合計											
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	
正面衝突	追突		出合い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
単路(交差点付近を含む)	歩道	41	3	27	99	3	0	63	11	57	7	0	311
	路側帯	37	1	13	10	16	3	12	5	20	24	0	141
	非分離道路	122	33	156	44	24	51	16	19	229	12	0	706
	自転車道	0	0	1	3	0	0	0	0	1	0	0	5
	自転車専用通行帯	0	0	1	0	1	0	0	1	1	0	0	4
	第一通行帯	245	3	3,682	167	319	57	101	78	823	54	0	5,529
	第二通行帯以上	24	0	2,039	31	134	8	8	26	475	15	0	2,760
	左折専用車線	0	0	16	0	0	0	0	0	1	0	0	17
	右折専用車線	0	0	73	4	1	2	3	1	12	0	0	96
	加減速車線	1	0	17	0	1	0	0	0	6	0	0	25
登坂車線	0	0	7	0	1	0	0	0	2	0	0	10	
異通行帯	車道	3	115	36	16	13	41	11	31	42	3	0	311
	歩道	6	0	0	5	0	0	5	4	3	2	0	25
	路側帯	3	0	0	1	0	0	2	2	2	5	0	15
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交差点内		662	11	542	1,681	55	19	740	762	275	14	0	4,761
その他		137	4	265	55	21	20	33	20	292	42	1	890
合計		1,281	170	6,875	2,116	589	201	994	960	2,241	178	1	15,606

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図86] トラックの事故類型別、衝突地点別事故件数の構成比(%) (令和元年)



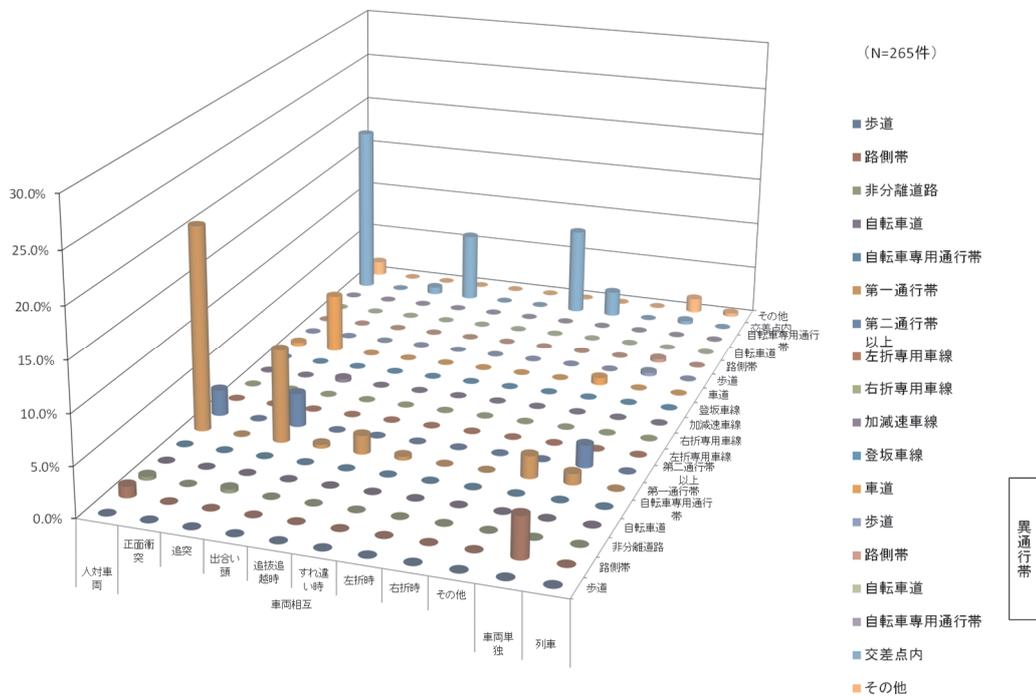
出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[表 55] トラックの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数（件）（令和元年）

		トラック															
		合計															
		人対車両	車両相互									車両単独	列車	合計			
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他									
単路（交差点付近を含む）	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	路側帯	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	14	0	
	非分離道路	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	第一通行帯	55	0	25	1	5	1	0	0	6	3	0	96	0	0	0	
	第二通行帯以上	7	0	9	0	0	0	0	0	0	6	0	22	0	0	0	
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	右折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	加減速車線	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	異通行帯	車道	1	16	0	0	0	0	0	2	0	0	19	0	0	0	0
		歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
		路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
自転車道		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
自転車専用通行帯		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
交差点内		47	0	2	19	0	0	24	7	0	1	100	0	0	0	0	
その他		4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	9	0	1	0	0	
合計		118	16	38	20	5	1	24	7	8	27	265	0	1	0	0	

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 87] トラックの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数の構成比（％）（令和元年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(10) トラックの事故類型別、行動類型別事故件数

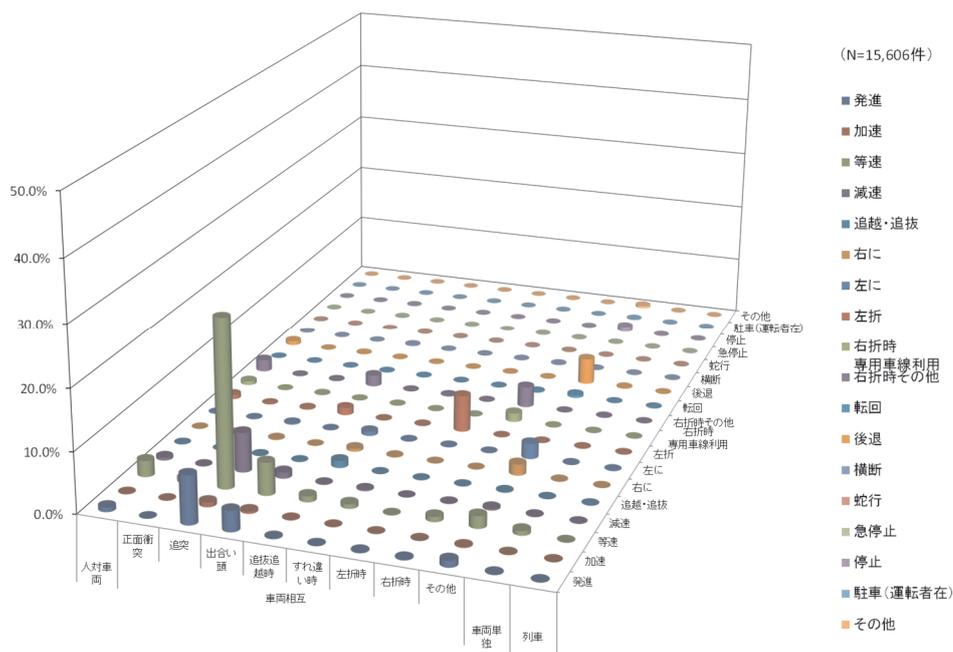
トラックの事故類型別、行動類型別事故件数と構成比を表56と図88に、死亡事故件数と構成比を表57と図89に示す。事故件数は、等速直進時の追突事故4,333件（27.8%）が最も多く、死亡事故件数は、等速直進時の人対車両事故75件（28.3%）が多くなっている。

〔表 56〕 トラックの事故類型別、行動類型別事故件数（件）（令和元年）

		トラック											合計
		合計											
		人対車両	車両相互									車両単独	
正面衝突	追突		出合い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
発進		114	2	1,248	529	18	8	20	21	164	9	1	2,134
直進	加速	11	6	118	57	10	3	2	4	22	6	0	239
	等速	420	109	4,333	847	154	116	4	131	317	118	0	6,549
	減速	75	12	1,028	159	13	27	1	7	43	9	0	1,374
追越・追抜		5	5	7	2	183	2	0	3	17	1	0	225
進路変更	右に	1	22	23	0	79	14	0	0	289	5	0	433
	左に	3	0	27	0	110	4	6	0	395	4	0	549
左折		115	5	22	191	7	8	952	0	0	3	0	1,303
右折時	専用車線利用	100	0	14	5	4	1	0	227	0	0	0	351
	その他	317	6	15	295	5	16	0	541	0	3	0	1,198
転回		1	1	1	4	4	0	2	12	73	0	0	98
後退		111	0	14	2	0	1	1	1	685	17	0	832
横断		3	0	0	23	0	0	6	13	5	0	0	50
蛇行		1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
急停止		1	0	7	1	0	0	0	0	2	0	0	11
停止		2	0	13	1	1	0	0	0	144	0	0	161
駐車（運転者在）		1	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	18
その他		0	1	5	0	1	1	0	0	68	3	0	79
合計		1,281	170	6,875	2,116	589	201	994	960	2,241	178	1	15,606

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 88〕 トラックの事故類型別、行動類型別事故件数の構成比（%）（令和元年）



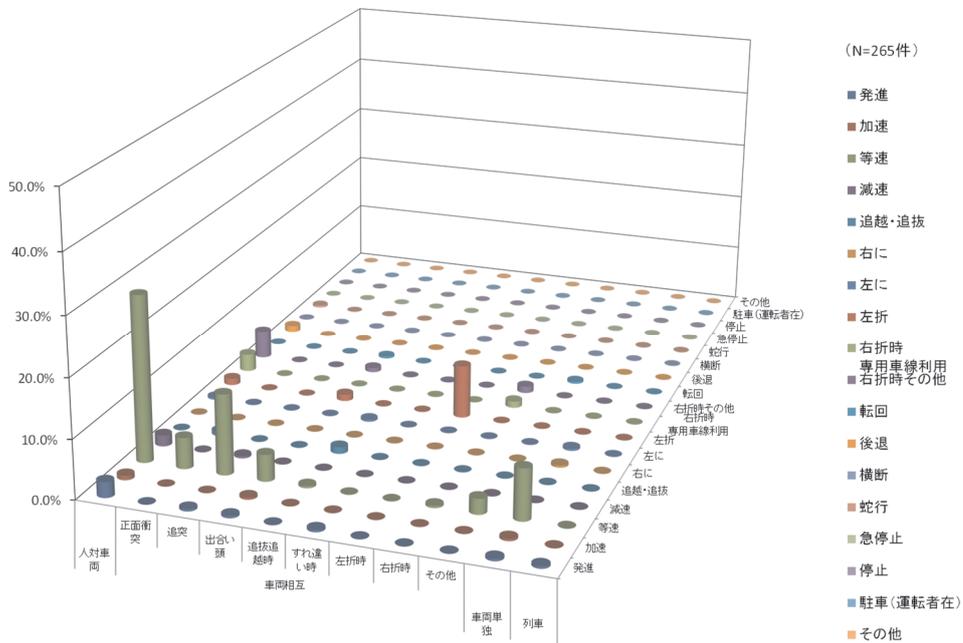
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[表 57] トラックの事故類型別、行動類型別死亡事故件数（件）（令和元年）

		トラック											
		合計											
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
正面衝突	追突		出合い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
発進		7	0	1	1	0	1	0	0	0	1	1	12
直進	加速	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	4
	等速	75	14	36	12	1	0	0	1	7	23	0	169
	減速	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6
追越・追抜		0	2	0	0	3	0	0	0	0	0	0	5
進路変更	右に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	左に	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	3
左折		3	0	0	3	0	0	24	0	0	0	0	30
右折時	専用車線利用	8	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	11
	その他	13	0	0	2	0	0	0	3	0	0	0	18
転回		0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2
後退		3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
横断		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蛇行		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
急停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
駐車(運転者在)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		118	16	38	20	5	1	24	7	8	27	1	265

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 89] トラックの事故類型別、行動類型別死亡事故件数の構成比（%）（令和元年）



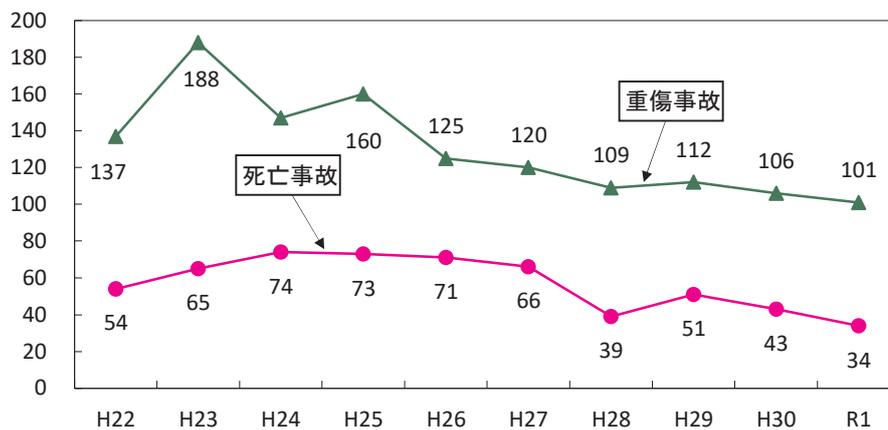
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(11) トラックの高速道路における死亡・重傷事故件数の推移

トラックの高速道路における令和元年の死亡事故は34件で前年より9件、重傷事故は101件で前年より5件減少している。

[図 90] トラックの高速道路における死亡・重傷事故件数の推移

(件)



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

12) トラックの追突事故件数、死亡事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布

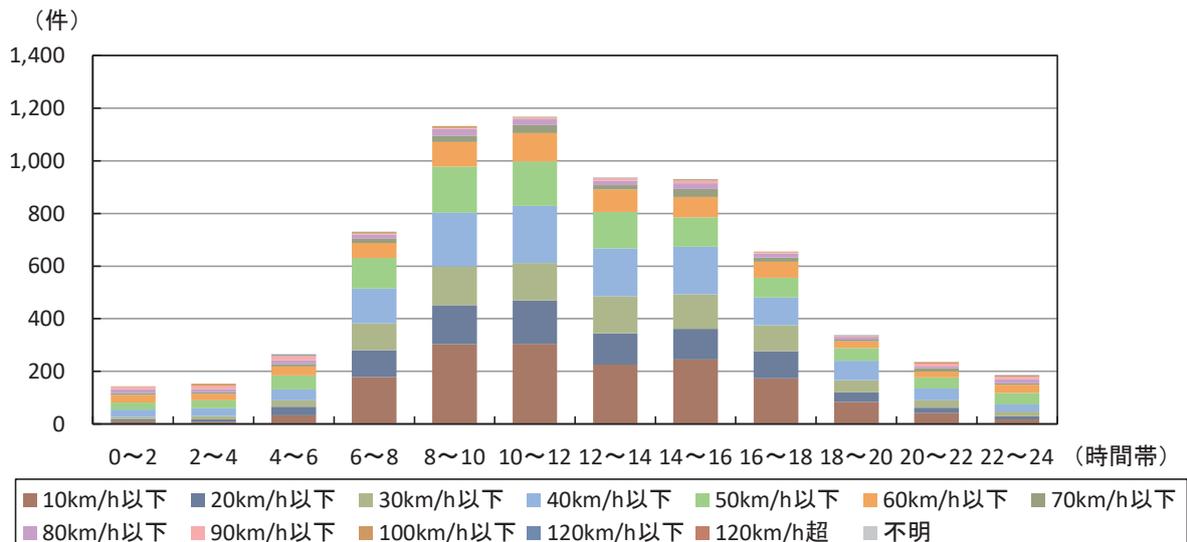
時間帯別危険認知速度別追突事故件数をみると、時間帯は10時～11時台が最も多く1,168件（17.0%）、次いで8時～9時台が1,132件（16.5%）、速度は10km/h以下が最も多く1,626件（23.7%）、次いで30km/h～40km/h以下1,268件（18.4%）、40km/h～50km/h以下1,028件（15.0%）となっている。死亡事故件数の時間帯では、2時～3時台、4時～5時台、22時～23時台が5件（13.2%）と多い。速度では50km/h～60km/h以下が最も多く9件（23.7%）となっており、危険認知速度が高めとなっている。

〔表 58〕 トラックの追突事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（件）（令和元年）

危険認知速度	時 間 帯												合計
	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	
10km/h以下	12	8	33	178	304	305	226	245	173	84	41	17	1,626
20km/h以下	7	9	32	103	148	165	119	116	104	36	21	13	873
30km/h以下	8	14	25	101	146	141	140	132	98	47	28	18	898
40km/h以下	27	29	42	133	205	218	182	181	106	74	45	26	1,268
50km/h以下	28	30	53	116	175	169	138	111	75	47	42	44	1,028
60km/h以下	28	24	34	57	94	107	85	78	60	26	23	31	647
70km/h以下	8	6	10	16	23	31	17	30	16	7	12	6	182
80km/h以下	15	13	14	15	26	23	18	22	15	10	7	15	193
90km/h以下	8	12	14	5	4	4	8	10	5	3	11	10	94
100km/h以下	3	7	4	5	7	4	2	4	3	2	5	5	51
120km/h以下	0	0	3	1	0	0	1	1	0	1	0	1	8
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	2	0	0	1	2	0	0	1	1	0	7
合計	144	152	266	730	1,132	1,168	938	930	655	338	236	186	6,875

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 91〕 トラックの追突事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（令和元年）



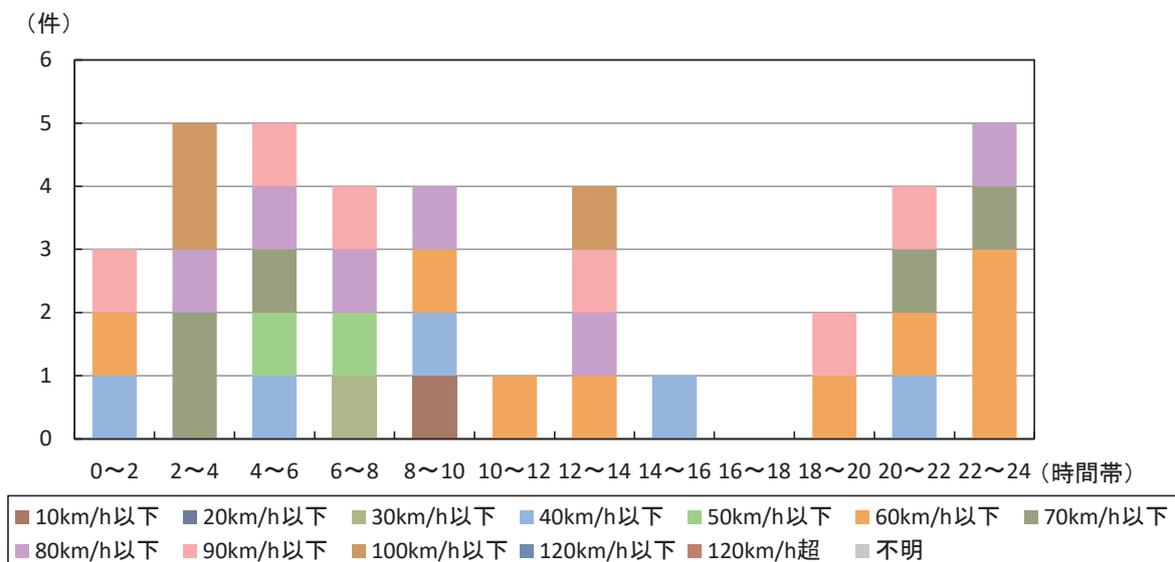
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 59〕 トラックの追突死亡事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（件）（令和元年）

危険認知速度	時 間 帯												合計
	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	
10km/h以下	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
20km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30km/h以下	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
40km/h以下	1	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	5
50km/h以下	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
60km/h以下	1	0	0	0	1	1	1	0	0	1	1	3	9
70km/h以下	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	5
80km/h以下	0	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	1	6
90km/h以下	1	0	1	1	0	0	1	0	0	1	1	0	6
100km/h以下	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
120km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	3	5	5	4	4	1	4	1	0	2	4	5	38

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

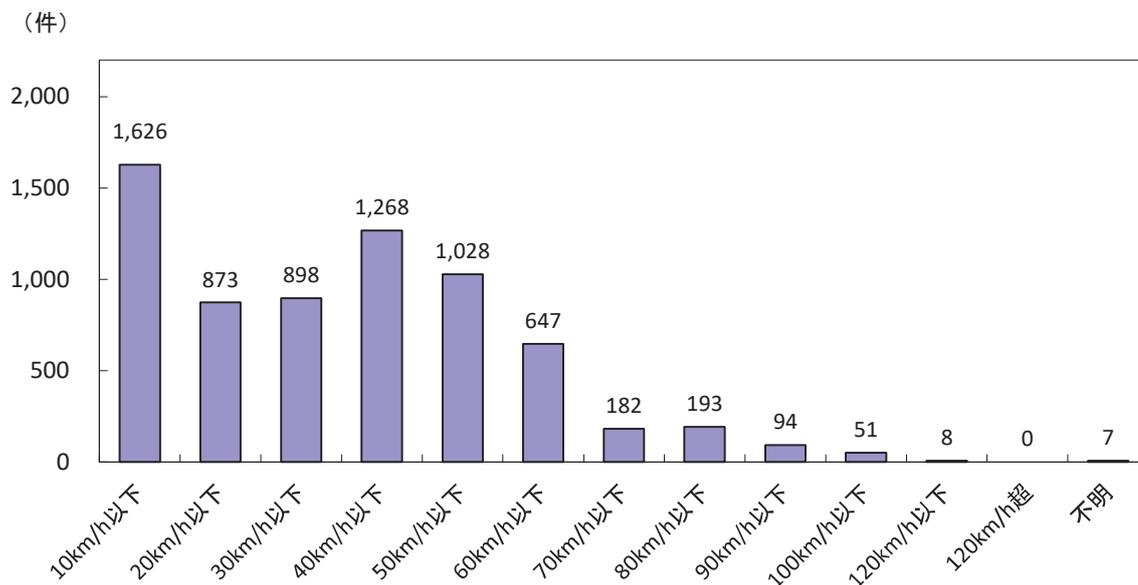
〔図 92〕 トラックの追突死亡事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（令和元年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

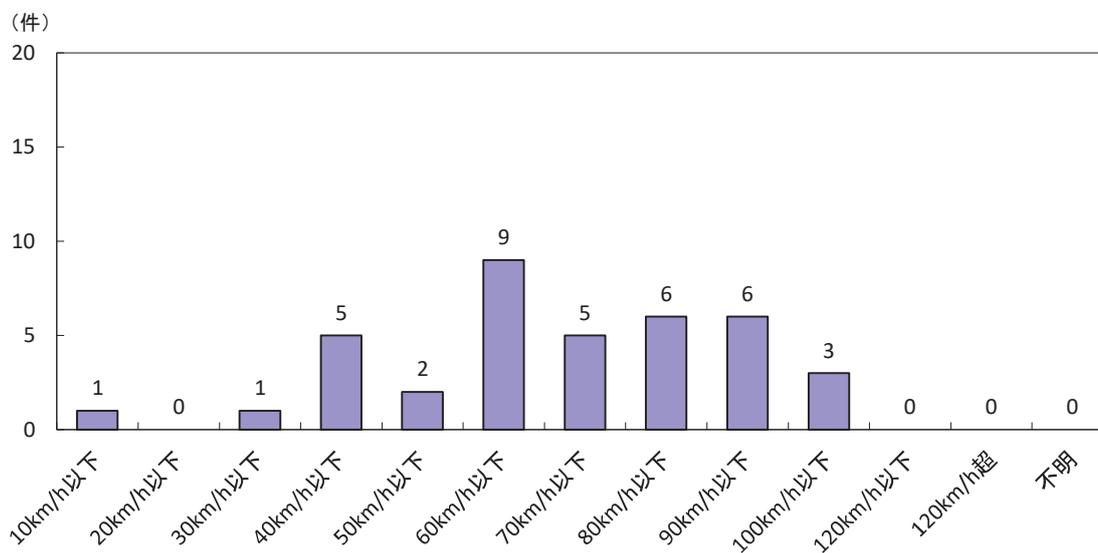
トラックの追突事故における危険認知速度をみると、追突死亡事故は事故全体に比べて危険認知速度が高くなっている。

〔図 93〕 トラックの危険認知速度別の追突事故件数（令和元年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 94〕 トラックの危険認知速度別の追突死亡事故件数（令和元年）



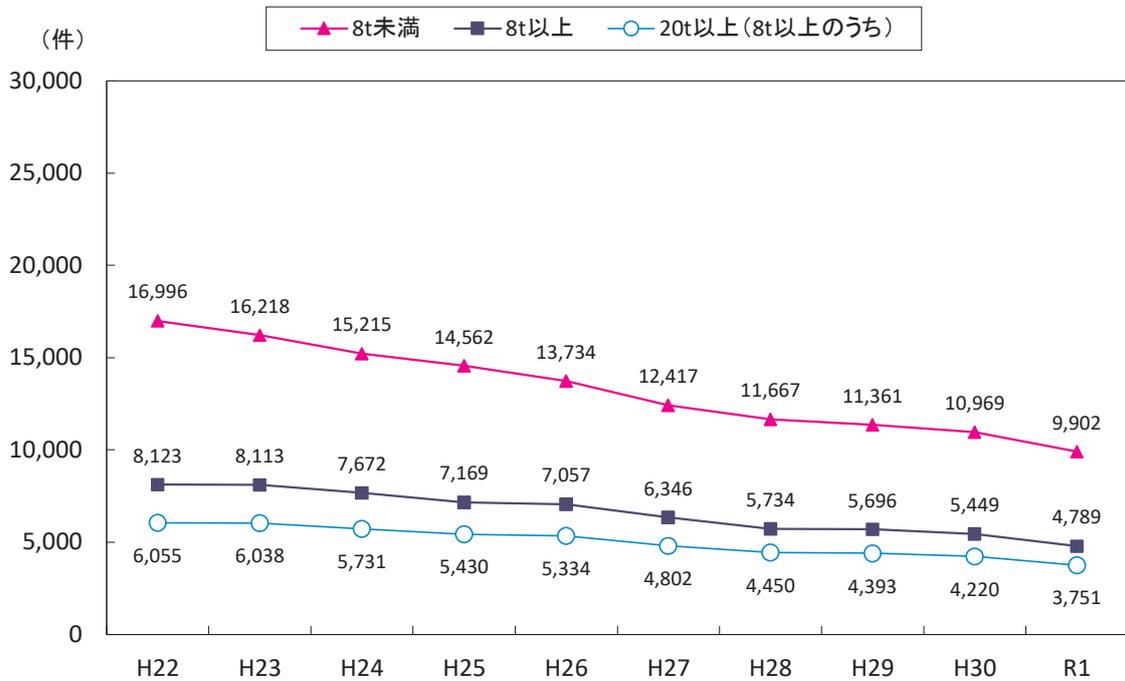
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(13) トラックの車両総重量別の交通事故件数の推移

① 交通事故件数

トラックの事故における交通事故件数の推移を車両総重量別にみると、8トン未満、8トン以上ともに減少傾向となっている。

〔図 95〕 トラックの車両総重量別交通事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 60〕 車両総重量別交通事故件数の推移（件）

区分 年	交通事故件数			合計
	8t未満	8t以上	うち20t以上	
H22	16,996	8,123	6,055	25,119
H23	16,218	8,113	6,038	24,331
H24	15,215	7,672	5,731	22,887
H25	14,562	7,169	5,430	21,731
H26	13,734	7,057	5,334	20,791
H27	12,417	6,346	4,802	18,763
H28	11,667	5,734	4,450	17,401
H29	11,361	5,696	4,393	17,057
H30	10,969	5,449	4,220	16,418
R1	9,902	4,789	3,751	14,691

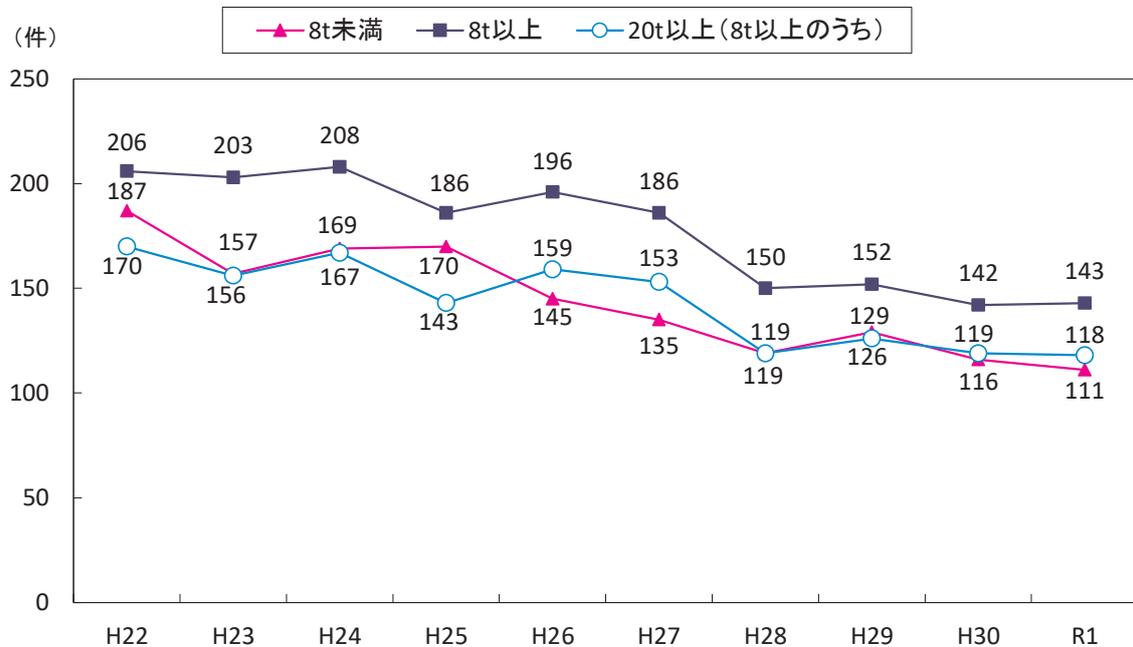
注：合計は車両総重量不明を除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

② 死亡事故件数

トラックの事故における死亡事故件数の推移を車両総重量別にみると、8トン未満は前年に比べて減少し、8トン以上は同程度となっている。

〔図 96〕 トラックの車両総重量別死亡事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 61〕 車両総重量別死亡事故件数の推移（件）

区分 年	死亡事故件数			合計
	8t未満	8t以上	うち20t以上	
H22	187	206	170	393
H23	157	203	156	360
H24	169	208	167	377
H25	170	186	143	356
H26	145	196	159	341
H27	135	186	153	321
H28	119	150	119	269
H29	129	152	126	281
H30	116	142	119	258
R1	111	143	118	254

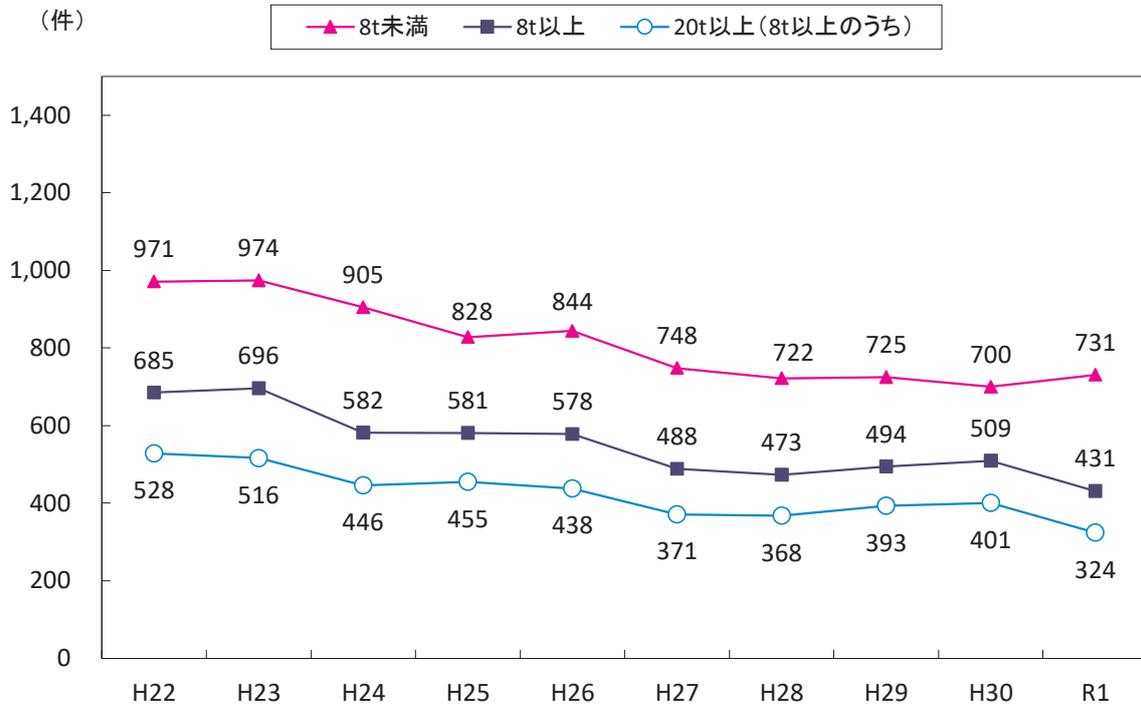
注：合計は車両総重量不明を除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

③ 重傷事故件数

トラックの事故における重傷事故件数の推移を車両総重量別にみると、8トン未満が多くなっている。前年に比べ8トン未満は増加、8トン以上は減少している。

〔図 97〕 トラックの車両総重量別重傷事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 62〕 車両総重量別重傷事故件数の推移（件）

区分 年	重傷事故件数			合計
	8t未満	8t以上	うち20t以上	
H22	971	685	528	1,656
H23	974	696	516	1,670
H24	905	582	446	1,487
H25	828	581	455	1,409
H26	844	578	438	1,422
H27	748	488	371	1,236
H28	722	473	368	1,195
H29	725	494	393	1,219
H30	700	509	401	1,209
R1	731	431	324	1,162

注：合計は車両総重量不明を除く

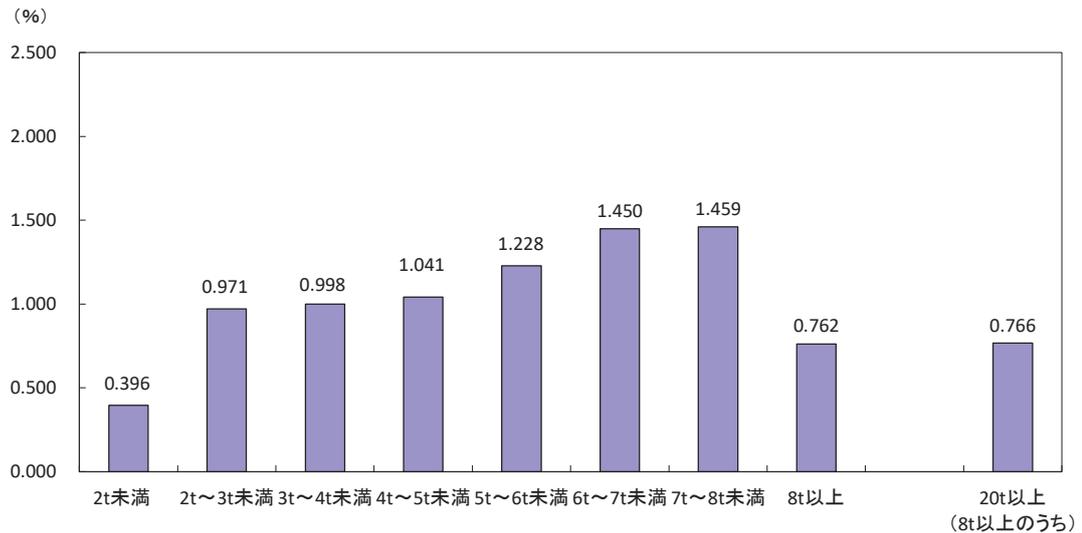
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(14) トラックの車両総重量別車両数あたりの交通事故発生率

① 交通事故発生率

トラックの車両総重量別車両数あたりの交通事故発生率は、前年同様7トン～8トン未満が最も高い。

〔図 98〕 トラックの車両総重量別車両数あたり交通事故発生率（令和元年）



注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

〔表 63〕 トラックの車両総重量別車両数あたり交通事故件数、車両数、発生率（令和元年）

	事故件数(件)	車両数(事業用)(両)	発生率
2t未満	35	8,843	0.396%
2t～3t未満	107	11,019	0.971%
3t～4t未満	359	35,955	0.998%
4t～5t未満	1,047	100,555	1.041%
5t～6t未満	890	72,470	1.228%
6t～7t未満	689	47,533	1.450%
7t～8t未満	3,542	242,686	1.459%
8t以上	4,789	628,530	0.762%
うち20t以上	3,751	489,880	0.766%

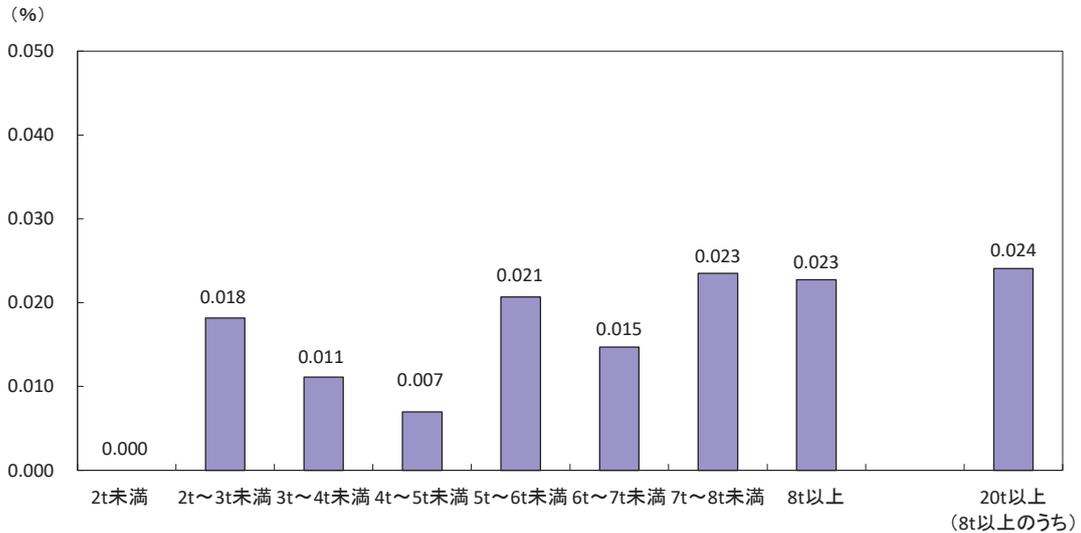
注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

② 死亡事故発生率

トラックの車両総重量別車両数あたりの死亡事故発生率は、20トン以上が最も高い。

〔図 99〕 トラックの車両総重量別車両数あたり死亡事故発生率（令和元年）



注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

〔表 64〕 トラックの車両総重量別車両数あたり死亡事故件数、車両数、発生率（令和元年）

	死亡事故件数	車両数(事業用)(両)	発生率
2t未満	0	8,843	0.000%
2t~3t未満	2	11,019	0.018%
3t~4t未満	4	35,955	0.011%
4t~5t未満	7	100,555	0.007%
5t~6t未満	15	72,470	0.021%
6t~7t未満	7	47,533	0.015%
7t~8t未満	57	242,686	0.023%
8t以上	143	628,530	0.023%
うち20t以上	118	489,880	0.024%

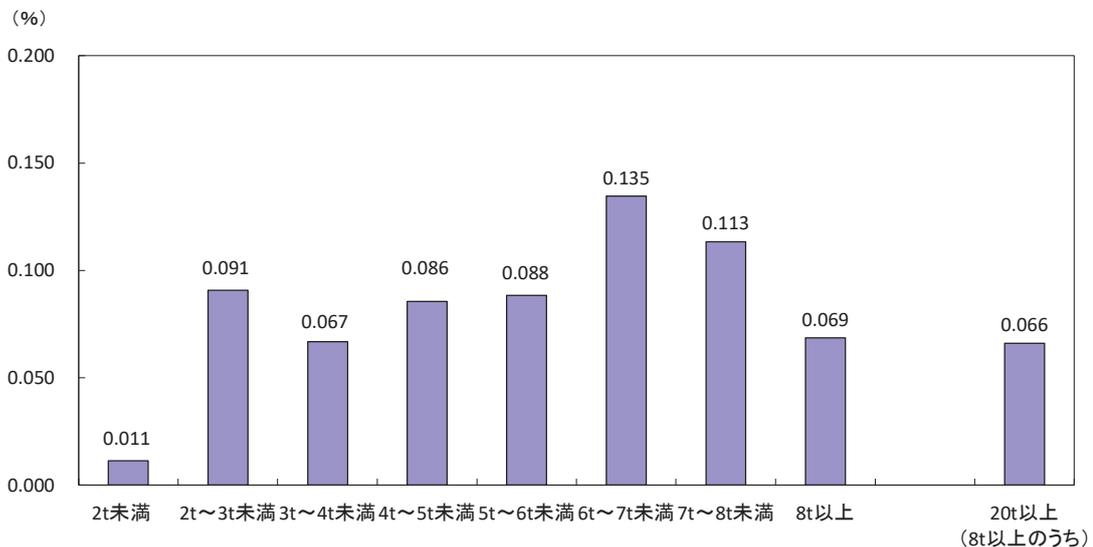
注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

③ 重傷事故発生率

トラックの車両総重量別車両数あたりの重傷事故発生率は、6トン～7トン未満が最も高い。

[図 100] トラックの車両総重量別車両数あたり重傷事故発生率（令和元年）



注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

[表 65] トラックの車両総重量別車両数あたり重傷事故件数、車両数、発生率（令和元年）

	重傷事故件数	車両数(事業用)(両)	発生率
2t未満	1	8,843	0.011%
2t～3t未満	10	11,019	0.091%
3t～4t未満	24	35,955	0.067%
4t～5t未満	86	100,555	0.086%
5t～6t未満	64	72,470	0.088%
6t～7t未満	64	47,533	0.135%
7t～8t未満	275	242,686	0.113%
8t以上	431	628,530	0.069%
うち20t以上	324	489,880	0.066%

注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

5. まとめ

令和元年中に全国で発生した事業用自動車の交通事故件数は 27,884 件で、事業用自動車での交通事故死者数は 333 人であった。

また、令和元年中の各業態における交通事故の特徴は以下のとおりであった。

○乗合バス

令和元年中に発生した乗合バスによる人身事故 1,040 件のうち、

- ・車内事故が最も多く全体の 30.6% (318 件)。このうち、39.9% (127 件) が発進時の事故となっている。また、車内事故の負傷者 342 人のうち、半数以上 (183 人) が高齢者 (65 歳以上) であり、全体では女性が男性の 4 倍程度となっている (男性 69 人、女性 273 人)。

また、令和元年中に発生した乗合バスによる死亡事故 5 件のうち、

- ・人対車両が 100% (5 件) であった。

○貸切バス

令和元年中に発生した貸切バスによる人身事故 234 件のうち、

- ・追突事故が最も多く全体の 33.3% (78 件)。このうち、発生地点としては、第一通行帯が最も多く追突事故の 39.7% (31 件) となり、次に第二通行帯以上が 34.6% (27 件) となっている。

また、令和元年中に発生した貸切バスによる死亡事故は 9 件であり、

- ・人対車両 4 件、衝突 2 件、出合い頭 1 件、追抜追越時 1 件、その他 1 件となっている。

○タクシー

令和元年中に発生したタクシーによる人身事故 10,996 件のうち、

- ・出合い頭事故が最も多く全体の 20.4% (2,239 件)。このうち、交差点内での事故が多く、出合い頭事故の 85.4% (1,911 件) を占める。
- ・次いで、追突事故が多く全体の 19.6% (2,152 件)。このうち、第一通行帯での事故が多く、追突事故の 44.8% (965 件) を占める。
- ・空車時における事故が、76.4% (8,403 件) を占める。

また、令和元年中に発生したタクシーによる死亡事故 47 件のうち、

- ・人対車両が最も多く全体の 76.6% (36 件)。このうち、直進等速時の人対車両が多く 83.3% (30 件) となっており、発生地点では、第一通行帯 41.7% (15 件)、交差点内 27.8% (10 件) での事故が多い。

○トラック

令和元年中に発生したトラックによる人身事故 15,606 件のうち、

- ・追突事故が最も多く全体の 44.1% (6,875 件)。このうち、6 時～18 時の昼間の時間での追突事故が多く、全体の約 8 割 (5,553 件) を占め、ピークは 10 時～12 時で全体の 17.0% (1,168 件)。また、10km/h 以下の低速での追突事故が最も多く追突事故全体の 23.7% (1,626 件)、次いで 30km/h～40km/h の中速での事故が 18.4% (1,268 件)。発生地点では、第一通行帯での追突事故が多く、追突事故全体の 53.6% (3,682 件)。
- ・次いで出合い頭の事故が多く、全体の 13.6% (2,116 件)。このうち、交差点内での事故が多く、出合い頭の事故の 79.4% (1,681 件) を占める。

また、令和元年中に発生したトラックによる死亡事故 265 件のうち、

- ・車両相互が最も多く全体の 44.9% (119 件)。このうち、追突事故が 31.9% (38 件)、次に左折時が 20.2% (24 件)、出合い頭が 16.8% (20 件) となっている。
- ・人対車両は全体の 44.5% (118 件)。このうち、発生地点としては、第一通行帯が最も多く人対車両事故の 46.6% (55 件) となり、次に交差点内が 39.8% (47 件) となっている。

